新機能

累積更新プログラム 10 (CU10)

リリース日: November 15, 2024

このリリースについて

Profile Management 1912 CU9リリースと比較して、CU10では2つの修正が追加されています。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 9

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 8

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 7

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 6

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初期リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨および削除

Citrix製品サブスクリプションアドバンテージの対象期間

1912 LTSR CU10における修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU9

Profile Management 1912 LTSR CU10には、1912 LTSR初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5、CU6、CU7、CU8、CU9に含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています。

- Microsoft TeamsアプリとVDAのバージョンをアップグレードした後、新しいMicrosoft Teamsバージョン2.1以降がCitrixセッション内で開かなくなります。
- Citrix Profile Managementにおいて、同じイベントに対して複数のEvent Tracing for Windows (ETW) イベント登録が発生する場合があります。

累積更新プログラム 9 (CU9)

リリース日: April 30, 2024

このリリースについて

CU9は、Profile Managementの1912 CU8リリースと比較して、1つの修正プログラムを追加します。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 8

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 7

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 6

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースにおける既知の問題

非推奨および削除

Citrix製品サブスクリプション特典の対象期間

1912 LTSR CU9における修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU8

Profile Management 1912 LTSR CU9には、1912 LTSRの初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5、CU6、CU7、CU8に含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています:

- VDAをバージョン1912 LTSR CU8にアップグレードした後、ユーザープロファイルがストアから読み込まれないことがあります。代わりに、ユーザーにはローカルプロファイルが提供されます。

累積更新プログラム 8 (CU8)

リリース日: September 11, 2023

このリリースについて

Profile Managementの1912 CU7リリースと比較して、CU8は10個の修正を追加します。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 7

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 6

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初期リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品サブスクリプションアドバンテージの対象日

1912 LTSR CU8 で修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU7

Profile Management 1912 LTSR CU8 には、1912 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5、CU6、CU7 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Citrix Director の **Reset Profile** ボタンが一部のユーザーでグレー表示される場合があります。
- **upmjit.sys** モジュールが Windows ターミナルの起動を妨げる場合があります。
- Profile Management または Windows OS のバージョンをアップグレードした後、プロファイルコンテナの読み込みに失敗する場合があります。
- プロファイルコンテナベースの Profile Management が有効になっている場合、ユーザーが他のユーザーのプロファイルファイルやフォルダーにアクセスできる場合があります。
- Profile Management は、ログオン中にカスタマイズされた Outlook OST パスをリセットする場合があります。
- Microsoft Windows 10 をバージョン 22H2 以降にアップグレードした後、既存のアプリケーションプロファイルの自動移行機能が動作しない場合があります。
- Profile Management からサインアウトして再度サインインすると、削除されたファイルがユーザー ストアに残っている場合があります。
- Profile Management を有効にして VDA を 1912 LTSR CU4 または 2203 LTSR CU2 にアップグレードした後、PowerShell ウィンドウが短時間ポップアップ表示される場合があります。この問題は、デスクトップセッションのログオン中に発生します。
- フォレスト内の2つの異なるドメインで同じユーザー名でサインインしようとすると、失敗する場合があります。
- グループポリシーまたはレジストリを介して Outlook OST ファイルのカスタマイズされたパスを構成し、そのカスタマイズされたパスにユーザー環境変数が含まれている場合、Microsoft Outlook プロファイルの読み込みに失敗する場合があります。

累積更新プログラム 7 (CU7)

リリース日: March 15, 2023

このリリースについて

CU7 は、Profile Management の 1912 CU6 リリースと比較して、1 つの修正を追加します。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 6

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨と削除

Citrix 製品サブスクリプション特典の対象期間

1912 LTSR CU7 で修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU6

Profile Management 1912 LTSR CU7 には、1912 LTSR 初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5、CU6 に含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています。

- Microsoft Windows のアップデート、KB5010342 またはその代替となるアップデートをインストールした後、Explorer.exe プロセスが CPU 使用率を高くする可能性があります。

累積更新プログラム 6 (CU6)

リリース日: October 31, 2022

このリリースについて

Profile Management の 1912 CU5 リリースと比較して、CU6 は 3 つの修正を追加します。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 5

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨および削除

Citrix 製品サブスクリプション特典の対象日

1912 LTSR CU6 の修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU5

Profile Management 1912 LTSR CU6 には、1912 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4、CU5 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Profile Management が有効な公開デスクトップで Edge Chromium を起動すると、再ログオン時に重複するプロファイルが作成されることがあります。この問題は、ログオフ時に Profile Management がローカルプロファイルの削除に失敗することが原因で発生します。
- フォルダーリダイレクトポリシーが無効になっている場合でも、Profile Management は Microsoft フォルダーリダイレクトで使用されるフォルダーを再作成しないことがあります。
- Citrix Director の タブにある にログオンデータがキャプチャされないことがあります。その結果、このデータは Citrix Analytics for Performance™ でも利用できない可能性があります。

累積更新プログラム 5 (CU5)

リリース日: March 09, 2022

このリリースについて

CU5 は、Profile Management の 1912 CU4 リリースと比較して、5 つの修正を追加します。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 4

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースでの既知の問題

非推奨と削除

Citrix 製品サブスクリプション特典の対象期間

1912 LTSR CU5 で修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU4

Profile Management 1912 LTSR CU5 には、1912 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3、CU4 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Profile Management を使用してデスクトップを起動しようとすると、次のエラーメッセージが表示されて失敗する場合があります。

  グループポリシー クライアント サービスによるサインインに失敗しました。

  アクセスが拒否されました。

- Service Host (svchost.exe) プロセスが、障害のある upmperf.dll モジュールが原因でアクセス違反により予期せず終了する場合があります。
- isessionmetrics.exe プロセスが VDA でメモリリークを引き起こす場合があります。
- Profile Management Service が、未処理の例外により予期せず終了する場合があります。
- Windows 10 20H2 デスクトップで、ユーザー ストアパスを **!CTX_OSNAME!** 変数で構成すると、Profile Management がユーザー ストア上に誤った情報を含むフォルダー名を作成する場合があります。以下の現象が観察される可能性があります。
  - バージョン CU3 の場合、新しいプロファイルにはオペレーティングシステムとして Win10RS6 が含まれる場合があります。
  - バージョン CU4 の場合、新しいプロファイルにはオペレーティングシステムとして Win10_2009 が含まれる場合があります。

累積更新プログラム 4 (CU4)

リリース日: November 03, 2021

このリリースについて

CU4では、Profile Managementの1912 CU3リリースと比較して、10個の修正プログラムが追加されています。

Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム 3

Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム 1

Profile Management（初回リリース）

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品サブスクリプションアドバンテージの対象日

1912 LTSR CU4 で修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU3

Profile Management 1912 LTSR CU4 には、1912 LTSR の初期リリース、CU1、CU2、CU3 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Citrix Profile Management がインストールされている場合、リダイレクトされたフォルダーがローカルユーザープロファイルの下に再作成されることがあります。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**ポリシーを有効にした後、Profile Management を使用した最初のログオン試行に時間がかかる場合があります。この問題は、ユーザープロファイルにログオンを遅くする不要なファイルが含まれている場合に発生します。
- グループポリシーオブジェクトの設定を変更すると、VDI 上の以前のポリシー設定がユーザーレジストリでキャンセルされない場合があります。この問題は、ポリシー設定をキャンセルするときにレジストリがオフラインの場合に発生します。
- オフラインモードのユーザーデバイスがログオン中にネットワークに接続すると、Active Directory グループメンバーシップの検証が失敗する場合があります。その結果、Profile Management も失敗します。
- **既存のアプリケーションプロファイルの自動移行**ポリシーを使用してアプリケーションプロファイルを移行する際、一部のアプリケーションプロファイルと設定が正常に移行されない場合があります。
- Microsoft Windows Search サービスが Windows 10 バージョン 21H1 で予期せず終了する場合があります。
- この修正は、Citrix Profile Management WMI プラグインインストーラーのセキュリティ脆弱性に対処します。詳細については、Knowledge Center の記事 CTX319750 を参照してください。
- Citrix Profile Management ポリシーを通じてフォルダーリダイレクトパスを変更すると、従来のフォルダーリダイレクトパスのデータが削除される可能性があります。
- この修正は、Citrix Profile Management インストーラーのセキュリティ脆弱性に対処します。詳細については、Knowledge Center の記事 CTX319750 を参照してください。

- ユニバーサル Windows プラットフォームアプリケーション (UWP アプリ) が Microsoft Windows 11 で動作しない場合があります。

累積更新プログラム 3 (CU3)

リリース日: May 12, 2021

このリリースについて

Profile Management 1912 CU2リリースと比較して、CU3には7つの修正が追加されています。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 2

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨および削除

Citrix製品サブスクリプション特典の対象日

1912 LTSR CU3 で修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU2

Profile Management 1912 LTSR CU3 には、1912 LTSR の初期リリース、CU1、CU2 に含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- 「**コントロールパネル > システムとセキュリティ > システム > システムの詳細設定 > ユーザープロファイル**」に移動すると、ログインしているユーザーのプロファイルのサイズフィールドに疑問符が表示されます。他のユーザープロファイルには正しいサイズが表示されます。
- ログオン時に**ミラーリングするフォルダー**リストにあるフォルダーがユーザーストアに存在しない場合、ローカルユーザープロファイルが削除されます。
- **既存のアプリケーションプロファイルの自動移行**ポリシーを有効にして既存のプロファイルを移行すると、Microsoft Outlook の設定が失われる可能性があります。この問題は、移行後の2回目以降のログオン時に発生します。
- **除外リスト – ディレクトリ**ポリシーに**デスクトップ**を追加すると、ユーザーが公開アプリケーションまたはデスクトップで変更を保存しようとしたときにエラーが発生する可能性があります。

- 資格情報マネージャーから削除された後も、Windows ユーザー資格情報が残る場合があります。
- **ログオン除外チェック**ポリシーを通じて**除外されたファイルまたはフォルダーの削除**を有効にする前に作成されたフォルダーで、**除外リスト – ディレクトリ**または**デフォルトの除外リスト – ディレクトリを有効にする**ポリシーによって除外されているフォルダーは、削除されない場合があります。
- **ラージファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル**ポリシー設定で作成された新しいファイルは、ログオフ時に同期されない場合があります。

累積更新プログラム 2 (CU2)

リリース日: November 19, 2020

このリリースについて

CU2では、Profile Management 1912 CU1リリースと比較して、9つの修正プログラムが追加されています。

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1

Profile Management (初期リリース)

このリリースにおける既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品サブスクリプションアドバンテージの資格日

1912 LTSR CU2における修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR CU1

Profile Management 1912 LTSR CU2には、1912 LTSR初期リリースおよびCU1に含まれるすべての修正に加え、以下の新しい修正が含まれています:

- **Appdata\local\temp**を**Exclusion list - directories**に追加すると、Profile Managementはユーザープロファイルに**Appdata\local\temp**フォルダーを作成せず、Microsoft Outlookなどの一部のアプリケーションでランタイムエラーが発生します。この問題は、ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている状態で、2回目以降のログオン時に発生します。

- 一時プロファイルを使用してセッションにログオンすると、C:\Usersの下に空のユーザープロファイルフォルダーが作成されることがあります。Profile Managementはログオフ時に一時プロファイルを削除しますが、空のユーザープロファイルフォルダーが残ります。
- **AppData(Roaming) folder**のリダイレクトポリシーが有効になっている場合、一部のタイルがスタートメニューから消えることがあります。この問題は、Citrix Virtual Apps and Desktops™ 1912以前を実行しているWindows Server 2016または2019マシンにログオンしたときに発生します。
- Profile Managementを使用してマルチセッションOS用VDAでOutlookの検索インデックスローミングが有効になっている場合、ログオンが遅くなり、公開アプリケーションの起動が失敗することがあります。
- プロファイル管理は、**レジストリインクルージョンリスト**にあるレジストリキーのサブキーを同期しません。たとえば、Software\Citrixを**レジストリインクルージョンリスト**に追加すると、HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrixのみがユーザー ストアに保存されます。サブキーは保存されません。
- Citrix Virtual Apps™ Optimizationが使用されている場合、Profile Managementはレジストリの変更を保存できないことがあります。この問題は、Citrix Virtual Apps最適化定義へのパスにアクセスできないか、パスファイルが無効な場合に発生します。**Enable Virtual Apps Optimization**および**Active write back**ポリシーが有効になっている場合も、レジストリの変更は保存されません。
- OutlookOST.vhdxまたはOutlookSearchIndex.vhdxファイルのマウントが、0x80070020エラーで断続的に失敗することがあります。この問題は、セッションからログオフしてすぐに別のセッションを起動したときに発生します。
- **Delete locally cached profiles on logoff**ポリシーを有効にし、ダウンロードフォルダーを**Exclusion list - directories**に追加すると、Profile Managementは、ユーザーストアからローカルへのプロファイル同期時に**Downloads**フォルダーを作成しません。その結果、**PC**または**クイックアクセス**の下にある**ダウンロード**をクリックすると、ファイルエクスプローラーに**場所が利用できません**というエラーメッセージが表示されます。
- **Migrate user store**ポリシーを通じて、ユーザーストアパスをホームディレクトリへの相対パスとして構成すると、Citrix Profile Managementはログオン時にユーザーストアを移行できません。

累積更新プログラム 1 (CU1)

リリース日: May 7, 2020

このリリースについて

Profile Management 1912 LTSR 累積更新プログラム 1 (CU1) は、1912 LTSR の初回リリース以降に報告された5つ以上の問題を修正します。

プロファイル管理 (初回リリース)

このリリースの既知の問題

非推奨と削除

Citrix製品のSubscription Advantageの対象日

1912 LTSR CU1 で修正された問題

比較対象: Profile Management 1912 LTSR 初期リリース

Profile Management 1912 LTSR CU1 には、1912 LTSR 初期リリースに含まれるすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Profile Management が有効な場合、スタートメニューから一部のアプリケーション（電卓や付箋など）を起動すると、予期せず終了することがあります。この問題は、Microsoft Windows 10 で実行されている VDA バージョン 1912 で発生します。
- VDA をバージョン 1808 からバージョン 1912 にアップグレードした後、Citrix Profile Management がイベント ID 1000 で予期せず終了することがあります。
- **Logon Exclusion Check** ポリシーが有効な場合、Profile Management は除外されたフォルダー内のファイルを同期できないことがあります。代わりに、Profile Management はログオン時にファイルを削除または無視する可能性があります。この問題は、**Files to synchronize** ポリシーのリストでワイルドカードを含むパスに一致するファイルで発生します。
- Microsoft Windows 10 バージョン 2004 でユーザープロファイルを作成しようとすると、失敗することがあります。
- 以下の問題が発生する可能性があります。
  - ファイルの種類関連付け (FTA) のローミングに失敗します。
  - スタートメニューから電卓、付箋、および類似のアプリを開こうとすると、失敗することがあります。

  新しいユーザープロファイルについては、Profile Management 1912 CU1 でこれらの問題が修正されています。Profile Management 1912 で作成された既存のプロファイルの場合、ALL APPLICATION PACKAGES のアクセス許可の継承を

HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft レジストリキーに対して手動で有効にする必要があります。

a. ターゲットユーザーアカウントで VDA にログオンします。
b. レジストリエディターを開きます。
c. **HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft** に移動します。
d. **Microsoft** キーを右クリックし、**Permissions** -> **Advanced** を選択して、**Enable inheritance** を選択します。
e. 「**適用**」をクリックし、次に「**OK**」をクリックします。

このリリースについて

新機能

1912 LTSR の新機能

このリリースには、パフォーマンスの強化とバグ修正が含まれています。

1912 LTSR の修正された問題

比較対象: Profile Management 1909

Profile Management 1912 LTSR には、以下の修正が含まれています。

- **「ミラーするフォルダー」ポリシー**と**「除外リスト」**ポリシーは連携しません。この問題は、**Profile Management が**「ミラーするフォルダー」**ポリシーを**「除外リスト - ファイル」**ポリシーまたは**「除外リスト - ディレクトリ」**ポリシーのいずれかと一緒に使用することをサポートしていないために発生します。
- **「ユーザー ストアへのパス」**が有効になっている場合、マシンへのログオン試行が「ProcessLogon: Locking userstore area failed. The data is invalid.」というエラーメッセージで失敗することがあります。この問題は、ユーザー ストアへのパスをこの形式で指定した場合に発生します: `C:\Users\<environment-specific strings>` または `C:\Users<environment-specific strings>`。
- Profile Management で検索インデックスを使用すると、イベントログに複数のエラーが報告されることがあります。
- サーバーにログオンしてからログオフすると、「Please wait for the Citrix Profile Management」というメッセージが表示されるまでサーバーがフリーズすることがあります。

さらに多くのユーザーがログオンとログオフを繰り返すと、サーバーがより頻繁にフリーズし、応答しなくなる可能性があります。その結果、サーバーをリセットする必要があります。

- Profile Management は、破損したローカルプロファイル**NTUSER.DAT**の読み込みに失敗した後も、プロファイルストアへのコピー操作をキャンセルしません。代わりに、Profile Management は破損したレジストリハイブをプロファイルストアにコピーし、**NTUSER.DAT** ファイルとそのバックアップを上書きします。
- レジストリパスを除外リストに追加しても、レジストリパスが保存されてしまうことがあります。この問題は、レジストリパスの末尾にバックスラッシュ (\\) が存在する場合に発生します。
- Profile Management で**「プロファイルストリーミング」**ポリシーが有効になっている場合、Internet Explorer 11 でファイルをダウンロードしようとすると失敗することがあります。
- レジストリエントリのアクティブライトバックが有効になっている場合、Profile Management で**「アクティブライトバック」**ポリシーが機能しないことがあります。この問題は、アクティブライトバックに関連するタイマーがタイムアウト値に達しない場合に発生します。その結果、タイムアウト値をキャプチャできません。
- Citrix Desktop Service (BrokerAgent.exe) が予期せず終了し、Citrix Profile Management Service を再起動するまで以下の例外が発生することがあります。
    - System_Management_Instrumentation_ni! WmiNative.WbemProvider.WmiNative.IWbemServices.CreateInstanceEnumAsync

クイックスタートガイド

これは、Profile Management のインストールと構成に関するクイックリファレンスです。

前提条件

すべてのシステム要件が満たされていることを確認します。詳細については、システム要件を参照してください。

インストール

Profile Management は、Virtual Delivery Agent (VDA) のインストールに含まれています。VDA の場合、Profile Management をインストールまたはアップグレードするには、VDA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードするだけです。

Profile Management の展開は、.msi ファイルと、.adm または .admx ファイルのいずれかをインストールすることで構成されます。これを行うには、インストールとセットアップの手順に従ってください。

> **注：**
>
> 潜在的な競合を避けるため、Citrix Profile Management プロセス (`%ProgramFiles%\Citrix\User Profile Manager\UserProfileManager.exe`) をアンチウイルスソフトウェアの除外リストに追加してください。詳細については、Citrix Antivirus Best Practicesを参照してください。

構成

Profile Management を構成する場所を決定する

Profile Management を構成できる場所は3つあります。

- Active Directory の GPO を使用する
- Citrix Studio のポリシーを使用する

Active Directory の GPO または Citrix Studio のポリシーを使用して Profile Management を構成する方法については、Knowledge Center の記事 CTX222893を参照してください。

- ワークスペース環境管理™ (WEM) の使用

  WEM を使用した Profile Management の構成手順については、Knowledge Center の記事 CTX229258 を参照してください。

Citrix は、Profile Management を構成する 3 つの方法のうち、いずれか 1 つのみを選択することを推奨します。

安全なユーザーストアを作成するための推奨事項（ファイル共有の作成やフォルダー権限の設定を含む）は、Microsoft の記事 Deploying Roaming User Profiles で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対する高いレベルのセキュリティを保証します。

基本設定を確認する

トラブルシューティングのためにログ記録を有効にする。ログ記録の有効化ポリシーが無効になっている場合、エラーのみがログに記録されます。

基本設定を確認するには、次の手順に従います。

1. Profile Management の構成後、VDA にログオンし、管理者として **gpupdate /force** を実行します。
2. VDA からログオフし、再度ログオンします。
3. デフォルトのログファイルパス **C:\Windows\System32\Logfiles\UserProfileManager** に移動し、**pm.log** ファイルを開き、**ログオンイベント**を探して、次のメッセージが存在することを確認します。

   「ログオン処理を開始しています…」

   「ログオン処理が で正常に完了しました: 」

プロファイル管理の構成を拡張するには、次のことができます。

プロファイル管理の展開を計画するには、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。ユーザープロファイルの**自動構成**機能は、Citrix Virtual Desktopsの展開における意思決定の一部を簡素化します。

展開の推奨されるアプローチを決定するには、環境に関する次の基本的な質問に答えてください。

- パイロット版ですか？本番環境ですか？
- プロファイルを移行しますか？新しいプロファイルですか？
- 永続的ですか？プロビジョニング済みですか？専用ですか？共有ですか？
- モバイルですか？静的ですか？
- どのアプリケーションですか？

ユーザープロファイルをストリーミングするには、ユーザープロファイルのストリーミングを参照してください。

アクティブライトバックを有効にするには、アクティブライトバックの構成を参照してください。

強制プロファイルを指定するには、テンプレートまたは強制プロファイルの指定を参照してください。

除外を構成する

詳細については、項目の含める/除外を参照してください。

フォルダーリダイレクトを構成する

詳細については、フォルダーリダイレクトの構成を参照してください。

アプリケーションの構成

詳細については、ネイティブOutlook検索エクスペリエンスの有効化を参照してください。

Profile Management設定の確認

Verify-basic-settingsの手順に従って、検証を実行します。

pm_configure.logファイルでポリシー設定を確認します。次のメッセージが存在することを確認してください。

- ポリシーから読み取られた構成値: LoggingEnabled=
- INIファイルから読み取られた構成値: CEIPEnabled=
- 構成値PSAlwaysCacheは、ポリシーにもINIファイルにも設定されていません。デフォルト値:

トラブルシューティング

詳細については、トラブルシューティングを参照してください。

Profile Management の仕組み

Profile Management は、同じユーザーによる同時ドメインログオンがプロファイルに複雑さと一貫性の問題を引き起こす環境において、ユーザープロファイルの欠点を解決します。たとえば、ユーザーがローミングプロファイルに基づいて2つの異なる仮想リソースへのセッションを開始した場合、最後に終了したセッションのプロファイルが、最初のセッションのプロファイルを上書きします。この「最終書き込み優先 (last write wins)」として知られる問題は、ユーザーが最初のセッションで行ったパーソナライズ設定をすべて破棄します。

各リソースサイロに個別のプロファイルを使用することで、この問題に対処できます。しかし、これにより管理オーバーヘッドとストレージ容量の要件が増加します。もう1つの欠点は、ユーザーがアクセスするリソースサイロによって異なる設定を経験することです。

Profile Management は、簡単かつ信頼性の高い方法でプロファイルを最適化します。中間段階およびログオフ時に、プロファイル内のレジストリの変更、ファイル、およびフォルダーは、各ユーザーのユーザーストアに保存されます。一般的ですが、ファイルが存在する場合、以前のタイムスタンプを持つ場合は上書きされます。

ログオン時に、ユーザーのレジストリエントリとファイルがユーザーストアからコピーされます。ローカルにキャッシュされたプロファイルが存在する場合、2つのセットは同期されます。これにより、すべてのアプリケーションとサイロのすべての設定がセッション中に利用可能になります。そして、各サイロに個別のユーザープロファイルを維持する必要がなくなります。Citrix® ストリーミングユーザープロファイルは、ログオン時間をさらに向上させることができます。

Profile Management は、ネットワーク障害を経験するモバイルユーザー（オフラインプロファイル機能が構成されている場合）および異なるオペレーティングシステムからリソースにアクセスするユーザー（クロスプラットフォーム設定機能が構成されている場合）のアプリケーション設定を保護するのに役立ちます。

注: Profile Management は、ローカルアカウントではなくドメインユーザーのログオンを処理します。

ネットワークベースのプロファイルが使用されている場合は、組織で Profile Management の採用を検討してください。強制プロファイルやローミングプロファイルなどの他のソリューションを実装し、Microsoft Windows の標準的な知識でそれらを維持することもできます。ただし、展開が

制限されている場合（たとえば、ユーザーのカスタマイズが制限されているため強制プロファイルが適切なコールセンターなど）を除き、Profile Management が推奨される場合があります。

Citrix は、ユーザー固有のデータがプロファイルとは別に保存されるように、フォルダーリダイレクトを使用することを推奨します。

ホームフォルダーとテンプレートのパスは、ネットワークの場所のみで構成する必要があります。

プロファイルについて

プロファイルを割り当てる

Windowsでユーザーにプロファイルを割り当てるには、どのような方法がありますか?

このトピックは、Citrix Profile Managementではなく、Microsoft Windowsにおけるプロファイルの割り当てについて説明します。

ユーザーにプロファイルを割り当てるには、いくつかの方法があります。

- Active Directory (AD) でユーザーアカウントのプロパティを使用する
- グループポリシー (GP) を使用する
- 前述の方法を使用して、Remote Desktop Services (旧称 Terminal Services) セッションに固有のプロファイルを割り当てる

これらの方法の一部は、特定のオペレーティングシステムでのみ利用可能です。

- **Remote Desktop Services**。Windows Server 2008 R2でRemote Desktop Servicesプロファイルを割り当てるには、GPO設定「Set path for Remote Desktop Services Roaming User Profile」を使用します。これは「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Component\\Remote Desktop Services\\Remote Desktop Session Host\\Profiles」にあります。以前のマルチセッションオペレーティングシステムでは、「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Components\\Terminal Services」にある設定「Set path for TS Roaming Profiles」を使用します。

  個々のユーザーのプロファイルを構成するには、ADのユーザーアカウントプロパティページにある個々のアカウントで「Set path for TS Roaming Profiles」を設定することもできます。ただし、通常、この割り当てはGPで行う方がはるかに優れています。

  ターミナルサーバーで「Use mandatory profiles」設定を使用して、強制プロファイルの使用を強制できます。

- **Windows 7、Windows 8、およびWindows Server**：ユーザーアカウントプロパティページを使用して、個々のアカウントで移動プロファイルを設定します。また、Windows Server 2008 ADおよびWindows 7デバイスの場合、「Set roaming profile path for all users logging on to this computer」というGPO設定を使用できます。これは「Computer\\Administrative Templates\\System\\User Profiles」にあります。Windows 8またはWindows Server 2012コンピューターにログオンするユーザーの場合、Windows Server 2012のActive Directoryを使用してユーザーのホームフォルダーを設定することもできます。

複数の方法が使用された場合、ドメインユーザーにプロファイルを配信するための優先順位は何ですか?

When Profile Management is used to manage a user's profile, it takes precedence over any other profile assignment method. A user whose profile data is not managed by Profile Management might be assigned a profile using multiple methods. The actual profile used is based on the following precedence:

1. Citrixユーザープロファイル (つまり、Profile Managementによって作成されたプロファイル)
2. GPOによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
3. ユーザープロパティによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
4. GPOによって割り当てられた移動プロファイル (Windows Server 2008 AD および Windows 7 のみ)
5. ユーザープロパティによって割り当てられた移動プロファイル

Profile Managementのアーキテクチャ

このトピックでは、ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアのフォルダー構造について説明します。ユーザー ストアは、Citrix® ユーザー プロファイルの集中管理場所です。クロスプラットフォーム設定ストアは、別の場所です。

Profile Managementストアに関する重要な情報

ユーザー ストアとクロスプラットフォーム設定ストアの構造は、情報提供とローカライズおよびトラブルシューティングの支援のためにここに記載されています。プロファイル データの問題を最小限に抑え、セキュリティを維持するために設計された、以下の重要な推奨事項に従ってください。

- どちらのストアの構造も変更しないでください。
- ストアのいかなる部分にもファイルやフォルダーを直接書き込まないでください。ユーザー ストアは、この点でリダイレクトされたフォルダーとは異なります。

- ユーザー ストアは、リダイレクトされたフォルダーとは別に保持してください。たとえば、`\\server1\profiles\%username%` や `\\server1\folders\%username%` のように、同じファイル サーバーまたはDFS名前空間の異なる共有に保持できます。この手法により、バージョン1とバージョン2のプロファイルを同時にサポートし、両方のプロファイル バージョンで共有される単一のリダイレクトされたフォルダーのセットをサポートすることがはるかに容易になります。
- ユーザーがユーザー ストアを見る必要はないため、ドライブ文字を割り当てないでください。
- ユーザー ストアにクォータを課さないでください。プロファイル サイズを制限する場合は、クォータを使用するのではなく、項目を除外することを検討してください。

ユーザー ストアのフォルダー構造

ユーザー ストアは、デフォルトでユーザーのホーム ディレクトリにある **WINDOWS** フォルダーになります。これはパイロット インストールを簡素化しますが、運用システムでは、ユーザー ストアをネットワーク共有、または（最高の拡張性のために）DFS名前空間として構成してください。エンタープライズ対応のユーザー ストアでサポートされる構成については、「Profile Managementによる高可用性と災害復旧」で説明されています。

セキュアなユーザー ストアの作成に関する推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「移動ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザー プロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

注: Windows 7およびWindows 2008 R2クライアント デバイスでは、Windows 2012 R2ファイル サーバーで共有を作成する際に、チェック ボックスを選択しないでください。

ルート レベルのユーザー ストアのフォルダー構造を次の表に示します。

フォルダ	注
	ユーザー ストア内のプロファイルのルート。
`\UPM_Profile`	このフォルダーには、プロファイルからのファイルとフォルダーが含まれています。
`\UPM_Drive_C`	このフォルダーには、プロファイル外から含まれる項目（この場合はCドライブから）が含まれています。このフォルダーは、Profile Management 4.x以前からのアップグレード時に存在します。Profile Management 5.0では、

フォルダ	注
	プロファイル外の項目の管理はサポートされていません。
`\Pending`	このフォルダーには、ロックファイル、保留中のファイル、およびストリーミング機能が使用されている場合はスタンプファイルが含まれています。

いくつかの例を次の表に示します。

フォルダー名の例	注
`\UPM_Profile\Data`	ユーザープロファイル内の**Data**フォルダーの同期されたコンテンツ。
`\UPM_Profile\AppData_upm_var`	ユーザープロファイル内の非ローカライズされたApplication Dataフォルダーの同期されたコンテンツ。このフォルダーは、Profile Management 4.x以前からのアップグレード時に存在します。バージョン1プロファイル（Application Dataはその例となるフォルダー）の管理は、Profile Management 5.0ではサポートされていません。

保留領域

ユーザー ストアには保留領域が含まれます。この領域は、ストリーミングされたユーザープロファイルとアクティブなライトバック機能によって使用される保持領域です。ユーザーが最後のセッションからログオフした後、すべてのファイルは保留領域からユーザー ストアに同期されます。新しいセッションでは、ユーザー ストアと保留領域の両方からファイルがダウンロードされるため、ユーザーは常に最新のプロファイルを体験できます。

サーバーが応答しなくなった場合、保留領域内のファイルをユーザー ストアに解放するタイムアウトを設定できます（ストリーミングされたユーザープロファイル機能の一部として構成されている場合）。

複数のプラットフォームを持つユーザー ストアのフォルダー構造

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、複数のプラットフォームが関係します。各プラットフォームのプロファイルを分離するために、プラットフォーム固有のフォルダーを定義する必要があります。通常、これはユーザー ストアへのパスポリシーでProfile Management変数を使用して行います（たとえば、パスに`%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`を使用します）。

クロスプラットフォーム設定ストアは、クロスプラットフォーム設定機能が構成された後、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。構成中にストアの名前と場所を指定します（クロスプラットフォーム設定ストアへのパスポリシーを使用）。このストアは、オペレーティングシステム間でローミングするユーザー設定のサブセットを保持します。

たとえば、Windows XPとWindows 7の間で設定をローミングしたい場合があります。プラットフォーム固有のフォルダーには、Windows XPとWindows 7に固有のユーザー設定が含まれています。クロスプラットフォーム設定ストアには、これらのオペレーティングシステム間でローミングする設定のサブセットが含まれています。ログオン時に、このサブセットはプラットフォーム固有のフォルダーにコピーされ、その一部として残ります。ログオフ時に、サブセットへの変更が抽出され、クロスプラットフォーム設定ストアに戻されます。

プラットフォーム固有の各フォルダーには、標準のサブフォルダー（UPM_Profileなど）が含まれています。詳しくは、「ユーザー ストアのフォルダー構造」を参照してください。さらに、UPM_CPS_Metadataサブフォルダーも存在します。このシステムによって作成されたフォルダーには、オペレーティングシステム間で共有される一時設定が含まれています。

ユーザー ストアとADフォレスト

Citrixユーザープロファイルは、フォレストをまたいで管理することはできません。同じフォレスト内のドメインをまたいで管理することはでき、同じログオン名を持つ複数のユーザーがフォレスト内の同じリソースにアクセスできます。これには、ユーザー ストアへのパスにある`%USERDOMAIN%`および`%USERNAME%`変数を使用してプロファイルを一意に識別することが含まれます。

ただし、この場合、ユーザー ストアへのパスを設定するときに、同じログオン名を区別するために変数を使用する必要があります。これを行うには、ドメイン名変数をパスに追加します。また、ユーザー ストアのアクセス許可を設定し、Active Directoryのユニバーサルグループを使用してProfile Managementの処理済みグループ設定を有効にする必要があります。

オペレーティングシステムのバージョンを設定するには、%ProfVer%などの手動で定義されたシステム変数を使用できます。または、Profile Management変数を使用して、オペレーティングシステム名、ビット数、またはプロファイルバージョンを設定することもできます。ADフォレスト内

のユーザー ストアパスの例については、「ユーザー ストアへのパスの指定」を参照してください。

ユーザー ストアのローカライズ

次の表は、プロファイルデータがユーザー ストアに移動されるとき、およびユーザー ストアから移動されるときに、Profile Managementがフォルダーをローカライズおよび非ローカライズする方法の概要を示しています。フォルダー名のみがローカライズおよび非ローカライズされます。たとえば、スタートメニューのエントリやレジストリ設定は、Profile Managementによって正しい言語に翻訳されません。

この情報は、Profile Management 4.x以前からアップグレードする場合にのみ関連します。この場合、バージョン1のプロファイルが存在する可能性があります。Profile Management 5.0では、バージョン1のプロファイルの管理はサポートされていません。

バージョン1の英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー	ユーザープロファイルに対する相対フルパス
アクセシビリティ	Accessibility_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
アクセサリ	Accessories_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
管理ツール	AdminTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
アプリケーションデータ	AppData_upm_var	`\Local Settings`
クッキー	Cookies_upm_var	
デスクトップ	Desktop_upm_var	
エンターテイメント	Entertainment_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`
お気に入り	Favorites_upm_var	
履歴	History_upm_var	`\Local Settings`
リンク	Links_upm_var	`\Favorites`
ローカル設定	LocalSettings_upm_var	

バージョン1の英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー	ユーザープロファイルに対する相対フルパス
マイドキュメント	MyDocuments_upm_var	
マイミュージック	MyMusic_upm_var	`\My Documents`
マイピクチャ	MyPictures_upm_var	`\My Documents`
マイビデオ	MyVideos_upm_var	`\My Documents`
NetHood	NetHood_upm_var	
PrintHood	PrintHood_upm_var	
プログラム	Programs_upm_var	`\Start Menu`
最近	Recent_upm_vars	
スタートメニュー	StartMenu_upm_var	
テンプレート	Templates_upm_var	
インターネット一時ファイル	TemporaryInternetFiles_upm_var	`\Local Settings`
送る	SendTo_upm_var	
スタートアップ	Startup_upm_var	`\\Start Menu\Programs`
システムツール	SystemTools_upm_var	`\\Start Menu\Programs\Accessories`

Profile Managementのユースケース

Citrix Profile Managementは、アプリケーションがユーザーにどのように配信されるか、またはどこに格納されているかに関わらず、さまざまなシナリオでユーザーのプロファイルを管理するために実装できます。以下にこれらのシナリオの例を示します。

- 公開アプリケーションを使用するCitrix Virtual Apps™
- 公開デスクトップを使用するCitrix Virtual Apps

- 分離環境にストリーミングされたアプリケーションを使用するCitrix Virtual Apps
- Citrix Virtual Desktops™にストリーミングされたアプリケーション
- Citrix Virtual Desktopsにインストールされたアプリケーション
- 物理デスクトップにストリーミングされたアプリケーション
- 物理デスクトップにローカルにインストールされたアプリケーション

これらのシナリオの中で、Citrixは以下を最も一般的なユースケースと見なしています。

- **複数セッション** - ユーザーは複数のCitrix Virtual Appsサーバーサイロにアクセスするため、複数のセッションを開いています。ただし、サーバー上でのアプリケーション分離とストリーミングは、サーバーサイロの代替手段であることに注意してください。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **「最終書き込み優先」とローミングプロファイルの整合性の問題** - ローミングプロファイルへの最終書き込みにより、すべての設定が保存されます。したがって、複数のセッションが開いていて一時的な変更が行われた場合、ローミングプロファイルは正しいデータを保持しない可能性があります。さらに、ネットワーク、ストレージの問題、またはその他の問題により、設定がプロファイルに正しく書き込まれない場合があります。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **大規模なプロファイルとログオン速度** - プロファイルの肥大化により、ユーザープロファイルが扱いにくくなり、ストレージと管理の問題が発生する可能性があります。通常、ログオン時にWindowsはユーザーのプロファイル全体をネットワーク経由でローカルユーザーデバイスにコピーします。肥大化したプロファイルの場合、これによりユーザーのログオン時間が長くなる可能性があります。

複数セッション

特に大規模な環境では、ユーザーが、同じファーム内であろうと複数のファーム内であろうと、異なるCitrix Virtual Appsサーバーに格納されている異なるアプリケーションにアクセスするために、複数のセッションを開く必要がある場合があります。可能な場合は、アプリケーション分離またはストリーミングを検討して、同じCitrix Virtual Appsサーバーにアプリケーションを格納し、ユーザーが単一のサーバーからすべてのアプリケーションにアクセスできるようにし、それによって単一のセッションを使用できるようにします。ただし、事業部門が特定のサーバーを制御している場合や、アプリケーションをストリーミングできない場合は、これが不可能な場合があります。

ユーザーが様々なCitrix Virtual Appsサーバーからアプリケーションにアクセスする必要があると判断された場合、プロファイルへの影響を特定する必要があります。

以下の図は、複数のセッションが存在する場合にアプリケーション設定が失われる可能性がある例を示しています。

図(/en-us/profile-management/1912-ltsr/media/upm-multiple-sessions-1.png)

例えば、MaryはApp A、App B、App Cにアクセスしたいと考えており、それぞれServer 1、Server 8、Server 12にルーティングされます。各アプリケーションにログオンすると、Maryのターミナルサービスローミングプロファイルが各サーバーにロードされ、各セッションでフォルダーがリダイレクトされます。MaryがServer1のApp Aにログオンしているときに、Setting1を変更し、そのセッションからログオフします。その後、Maryは他の2つのアプリケーションでの作業を完了し、ログオフします。

ログオフ時に、MaryがServer 1のセッション内で行った変更は上書きされます。これは、一時的な変更ではなく、最後に閉じられたセッション内の設定が保持されるためです。翌日、MaryがApp Aにログオンすると、彼女が行った変更が表示されないため、不満を感じます。

Profile Managementは、一般的にこの状況の発生を防ぐことができます。Profile Managementは、セッション中に変更された特定の設定のみを書き戻し、変更されていない他のすべての設定はそのまま残します。したがって、発生する可能性のある唯一の競合は、Maryが別のセッション内でSetting1を変更した場合です。ただし、このシナリオでProfile Managementが使用されている場合、ユーザーは最新の変更が保持されることを期待するでしょうし、実際にそのようになります。

「最終書き込み優先」とローミングプロファイルの整合性の問題

このシナリオは、このトピックの最初のシナリオと似ています。「最終書き込み優先」の問題は様々な形で現れる可能性があり、アクセスするデバイスの数が増えるにつれてユーザーの不満が高まる可能性があります。

ローミングプロファイルは、リダイレクトされたフォルダーを除き、すべてのプロファイルデータを保持するため、ユーザープロファイルは大きくなる可能性があります。これにより、プロファイルをダウンロードする必要があるためログオン時間が増加するだけでなく、特にネットワークの問題がある場合、ログオフの書き込みフェーズ中に整合性の問題が発生する可能性が高まります。

Profile Managementを使用すると、特定のデータをユーザープロファイルから除外できるため、ユーザープロファイルを最小限のサイズに保つことができます。プロファイルには差分のみが書き込まれるため、ログオフの書き込みフェーズでは処理するデータが少なくなり、高速化されます。Profile Managementは、一時的なデータにプロファイルを使用するが、アプリケーション終了時にそれらをクリーンアップしないアプリケーションにとって有益です。

複数のリソースにアクセスする

ユーザーが複数のリソースにアクセスするにつれて、プロファイルはより複雑になります。プロファイルがネットワークに保存されている場合、Microsoft Windows はレジストリを使用してユーザー設定を保存します。プロファイルはログオン時にネットワークからローカルデバイスにコピーされ、ログオフ時にネットワークにコピーし直されます。日常的に、ユーザーは複数のコンピューターにアクセスし、デスクトップとラップトップを切り替え、Citrix Virtual Apps and Desktops で作成された仮想リソースにアクセスします。

この図は、複数のリソースにログオンするユーザーに、単一の Citrix® ユーザープロファイルがどのように追従するかを示しています。

複数の Citrix リソースにログオンするユーザーと、コンピューター間で追従する Citrix ユーザープロファイル(/en-us/profile-management/1912-ltsr/media/upm-access-multiple-resources.png)

たとえば、ユーザーはローカルの物理デスクトップを持ち、そこから Citrix Virtual Apps で公開されたアプリケーションにアクセスします。また、Citrix Virtual Desktops で作成された仮想デスクトップにもアクセスします。設定が適切に構成されていない限り、ユーザーの設定はこれらのすべてのリソースで統一されません。

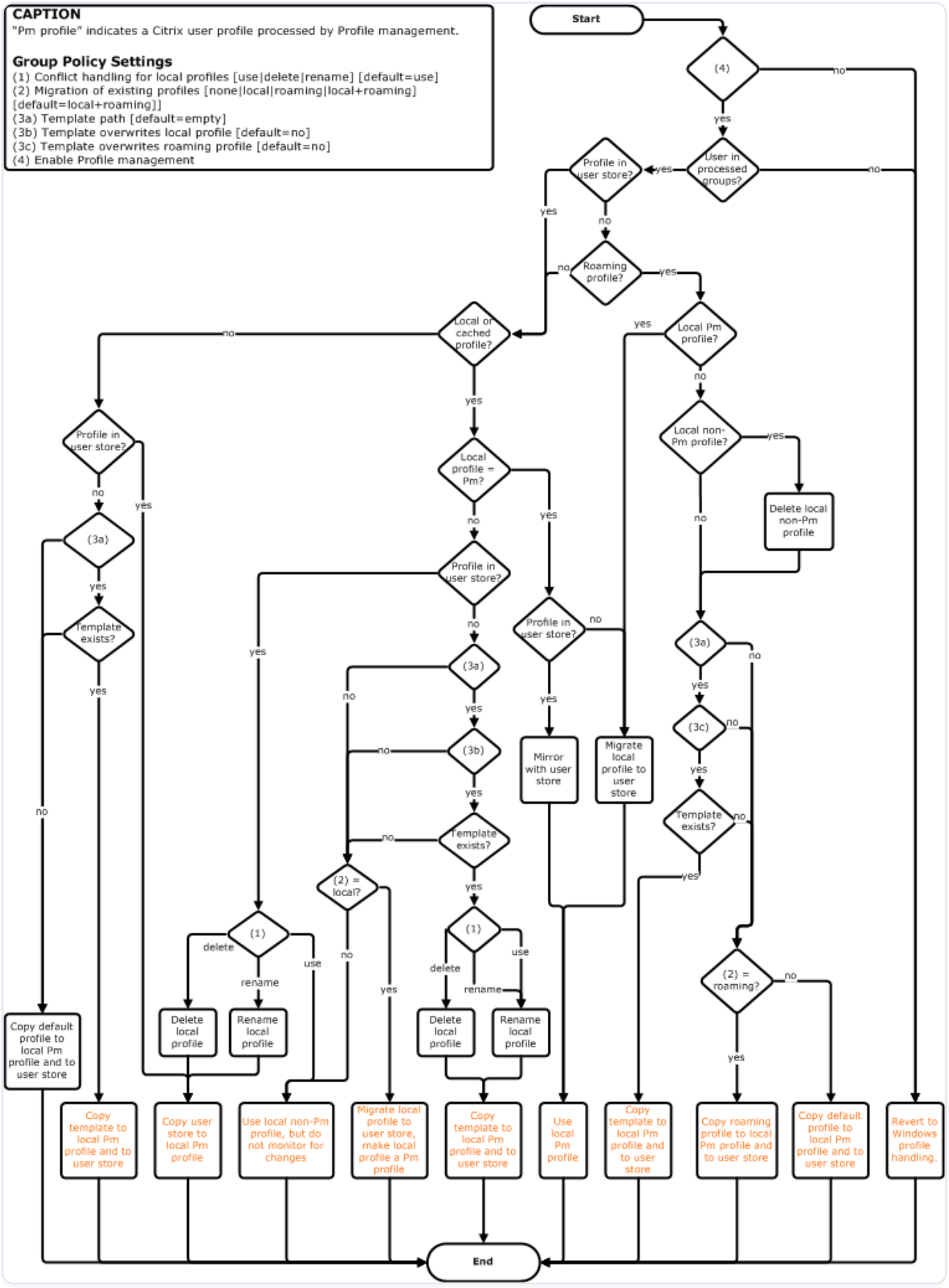
さらに、共有リソースにアクセスする場合、移動プロファイルの動作は「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。たとえば、管理者が移動プロファイルを有効にし、ユーザーがローカルデスクトップの背景色を変更したとします。その後、ユーザーは Citrix 仮想デスクトップにログオンし、ローカルデスクトップからログオフし、仮想デスクトップからログオフします。ローカルデスクトップと仮想デスクトップの両方が同時に開いており、最後のログオフは仮想デスクトップからでした。したがって、仮想デスクトップセッションからの設定がプロファイルに最後に書き込まれたため、背景色の変更は失われます。

ログオン図

この図は、ユーザープロファイルの移行戦略の詳細を検討するのに役立ちます。また、パフォーマンスの次の側面についても説明します。

- プロファイルを移行すると、2つのネットワークコピーが発生し、ログオンプロセスが遅くなる可能性があります。たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルとユーザーストアにコピー**する操作には、次の2つのコピーが含まれます。1つはローミングプロファイルストアからローカルコンピューターへの完全なプロファイルコピー、もう1つはローカルコンピューターからユーザーストアへの完全なプロファイルコピーです。
- キャッシュされたプロファイルが使用されている場合、ネットワークを介したプロファイルデータのコピーは行われません。

図を下から上に読みます。下部のボックスで目的の操作（たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルとユーザーストアにコピー**）を確認します。その後、必要な移行設定を特定するためにパスをたどります。

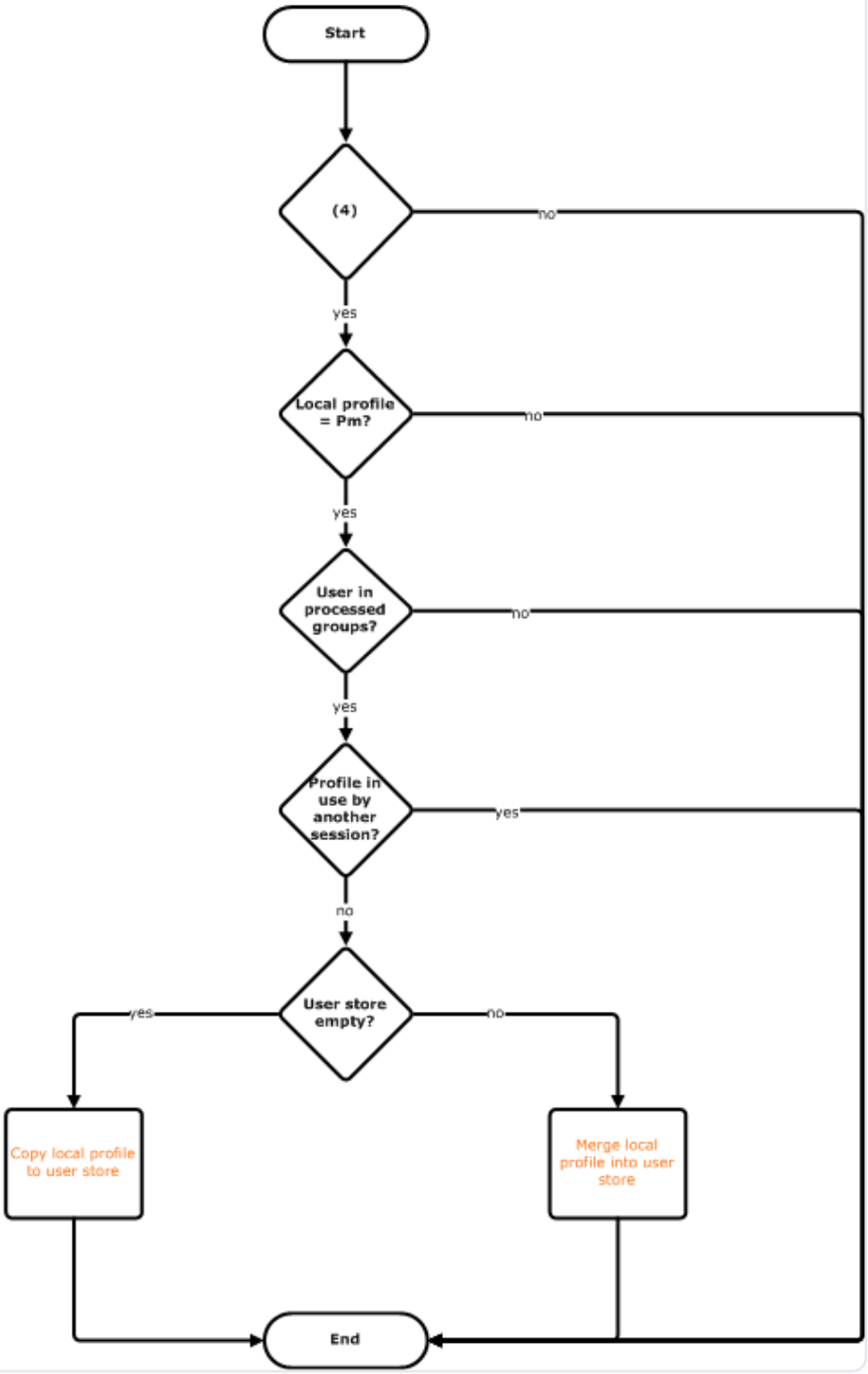


ログオフ図

この図は、ログオフ時にプロファイルデータをコピーまたはマージするために使用されるロジックを説明します。

CAPTION
"Pm" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.

Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management



展開計画

構成を決定する

Profile Management を構成するには、環境に関する以下の基本的な質問に答えることをお勧めします。

1. パイロット版ですか？本番環境ですか？
2. プロファイルを移行しますか？新しいプロファイルですか？
3. 永続的ですか？プロビジョニング済みですか？専用ですか？共有ですか？
4. モバイルですか？静的ですか？
5. どのアプリケーションですか？

各質問への回答に応じて、このセクションの残りのトピックで説明されているように、Profile Management を異なる方法で構成します。これらの質問への回答に合うポリシーのみを構成し、他のポリシーはデフォルト設定のままにすることができます。構成しないポリシーのリストについては、管理を参照してください。

各質問に回答し、Profile Management を適切に構成したら、以下を予測してください。

- Profile Management の確認、テスト、アクティブ化
- トラブルシューティング

UPMConfigCheck

UPMConfigCheck は、稼働中の Profile Management 展開を調査し、最適に構成されているかどうかを判断する PowerShell スクリプトです。このツールの詳細については、Knowledge Center の記事 CTX132805を参照してください。

コンピューターをOUにグループ化する

質問への回答が異なるコンピューターセットで同じである場合は、それらをActive Directoryの組織単位（OU）にグループ化することを検討してください。また、そのOUにアタッチされた単一のグループポリシーオブジェクト（GPO）を使用してProfile Managementを構成することを検討

してください。これらの質問への回答が異なる場合は、コンピューターを別々のOUにグループ化することを検討してください。

あるいは、ドメインがWMIフィルタリングをサポートしている場合、すべてのコンピューターを同じOUにグループ化し、適切に構成されたGPOの中から選択するためにWMIフィルタリングを使用できます。

パイロットか、実稼働か?

パイロット展開の目的は、ソリューションを迅速かつ確実に実証できるようにすることです。重要な目標は、パイロットにおけるコンポーネントの数を減らすことかもしれません。Profile Managementの場合、2つのコンポーネントはユーザー ストアと、プロファイルが処理されるユーザーの選択です。

ポリシー：ユーザー ストアへのパス

Citrix® ユーザー プロファイル用のユーザー ストアの設定は、Windows ローミング プロファイル用のプロファイル ストアの設定とまったく同じです。

パイロット展開の場合、これらの考慮事項を無視できることがよくあります。ユーザー ストアへのパス ポリシーのデフォルト値は、ユーザーのホーム ディレクトリにある **Windows** フォルダーです。これは、1つのオペレーティングシステム（したがって1つのプロファイルバージョン）のみが展開されている限り、シングルプラットフォームのパイロットでうまく機能します。プロファイルバージョンについては、「プロファイルについて」を参照してください。このオプションは、ユーザーのホーム ディレクトリに十分なストレージが利用可能であり、ファイルサーバーのクォータが適用されていないことを前提としています。Citrix は、プロファイルでのファイルサーバー クォータの使用を推奨していません。その理由は、「複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する」に記載されています。

実稼働展開の場合、セキュリティ、ロードバランシング、高可用性、およびディザスターリカバリを慎重に考慮する必要があります。ユーザー ストアの作成と構成については、以下のトピックの推奨事項に従ってください。

- プロファイル管理アーキテクチャ
- ユーザー ストアを作成する
- ユーザー ストアへのパスを指定する
- プロファイル管理による高可用性とディザスターリカバリ

ポリシー：処理されたグループ、除外されたグループ

実稼働展開の複雑さにより、Profile Managementの展開をすべてのユーザーに同時にリリースするのではなく、段階的に行う必要がある場合があります。展開が進行中である間、ユーザーは異なるリソースに接続する際に異なるプロファイルエクスペリエンスを受け取ることを伝えることができます。

パフォーマンス上の理由から、Profile ManagementはEULAによってライセンスされており、組み込みのライセンスチェックは行われません。ユーザーをActive Directory (AD) ユーザーグループに割り当てるか、適切な既存のADグループを使用してライセンス割り当てを管理することを選択できます。

パイロット展開では、Profile Managementの使用は、単一の代表的なADグループを使用できない、おそらく複数の部署からの少数のユーザーグループへの招待によって制限されます。この場合、処理されたグループと除外されたグループのポリシーを未構成のままにします。Profile Managementはグループメンバーシップのチェックを行わず、すべてのユーザーが処理されます。

これらのポリシーの詳細については、「どのグループのプロファイルを処理するかを定義する」を参照してください。

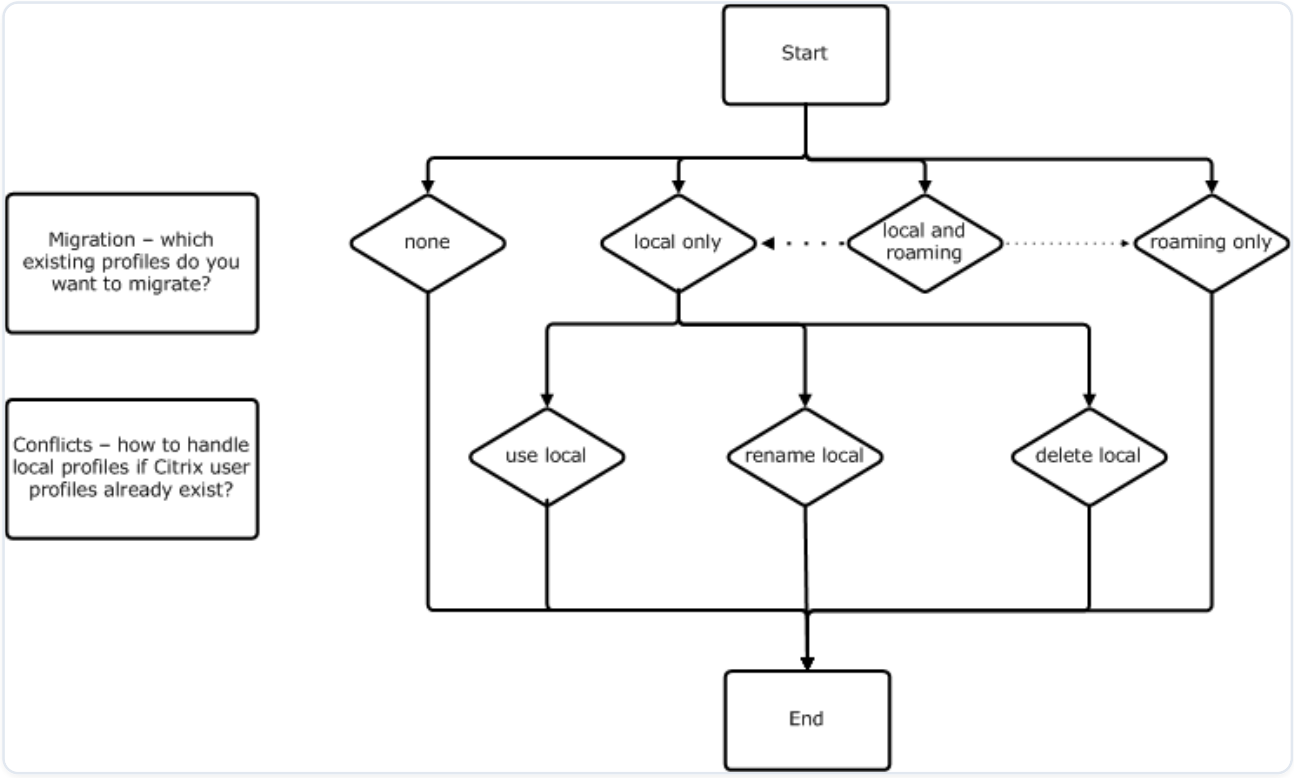
重要: いずれの場合も、Profile Management で処理されるユーザー数が、関連するEULAで設定された制限を超過しないようにしてください。

プロファイルの移行、新規プロファイル?

Profile Managementの展開を利用して、組織のプロファイルを更新できます。最初は小規模なカスタマイズされたプロファイルを使用し、それへの追加を厳密に制御します。あるいは、既存のプロファイルをProfile Management環境に移行し、長年にわたって蓄積された個人設定を保持する必要があるかもしれません。

既存のプロファイルを移行することを決定した場合は、「既存のプロファイルの移行」ポリシーと「ローカルプロファイルの競合処理」ポリシーを構成します。

次の図は、この質問に対する回答に基づいてこれらのポリシーを構成する方法を示しています。



ポリシー: テンプレートプロファイル

まったく新しいプロファイルセットを作成する場合は、「テンプレートプロファイル」ポリシーを使用して、この目的のためのテンプレートを作成することを検討してください。詳細については、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。テンプレートを作成しない場合、Profile Managementはユーザーにデフォルトの Windows プロファイルを提供します。テンプレートが不要な場合は、このポリシーを無効のままにします。

テンプレートプロファイルポリシーは、**ユーザーストアへのパス**ポリシーに似ています。このポリシーは、Profile Managementによって管理されるコンピューターにユーザーが初めてログオンしたときに、ユーザープロファイルを作成するための基礎として使用できるプロファイルの場所を指定します。

オプションで、すべてのログオンに対してテンプレートをCitrix®必須プロファイルとして使用できます。計画の一環として、ユーザーがアクセスするアプリケーションの特定などのタスクを実行する必要があります。それに応じて、プロファイル内のレジストリの状態、ショートカット、デスクトップ設定を構成する必要があります。プロファイルフォルダーのアクセス許可を設定し、ユーザーのログオンスクリプトを変更する必要があります。

> **注:**

> Citrix Virtual Desktops™展開で必須プロファイルを選択する場合、Profile Managementの.admまたは.admxファイルではなく、Citrix Studioを使用することをお勧めします。

永続的、プロビジョニング済み、専用、共有?

プロファイルを作成するマシンの種類は、構成の決定に影響します。主な要因は、マシンが永続的かプロビジョニング済みか、および複数のユーザーで共有されるか、1人のユーザー専用であるかです。

永続システムには何らかのローカルストレージがあり、その内容はシステムがオフになっても永続することが期待されます。永続システムは、ローカルディスクのエミュレーションを提供するために、SANなどのストレージテクノロジーを使用する場合があります。対照的に、プロビジョニング済みシステムは、ベースディスクと何らかのIDディスクから「オンザフライ」で作成されます。ローカルストレージは通常、RAMディスクまたはネットワークディスクによってエミュレートされ、後者は高速リンクを備えたSANによって提供されることがよくあります。プロビジョニングテクノロジーは通常、Provisioning ServicesまたはMachine Creation Services™（あるいはサードパーティ製の同等品）です。プロビジョニング済みシステムが永続的なローカルストレージを持つ場合もあり、これはPersonal vDiskによって提供されることがあります。これらは永続的として分類されます。

これら2つの要素を組み合わせると、次のマシンタイプが定義されます。

- **永続的かつ専用** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix Virtual Desktops™内）で作成された、静的割り当てとPersonal vDiskを持つシングルセッションOSマシン、VDI-in-a-Boxで作成されたPersonal vDiskを持つデスクトップ、物理ワークステーション、およびラップトップがあります。
- **永続的かつ共有** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix Virtual Desktops内）で作成されたマルチセッションOSマシン、およびCitrix Virtual Apps™サーバーがあります。
- **プロビジョニング済みかつ専用** - 例としては、Provisioning Services（Citrix Virtual Desktops内）で作成された、静的割り当てを持つがPersonal vDiskを持たないシングルセッションOSマシンがあります。
- **プロビジョニング済みかつ共有** - 例としては、Provisioning Services（Citrix Virtual Desktops内）で作成された、ランダム割り当てを持つマルチセッションOSマシン、VDI-in-a-Boxで作成されたPersonal vDiskを持たないデスクトップ、およびCitrix Virtual Appsサーバーがあります。

以下のProfile Managementポリシー設定は、異なるマシンタイプに対する推奨ガイドラインです。これらは通常うまく機能しますが、展開の要件に応じて逸脱することもできます。

注：Citrix Virtual Desktopsの展開では、 ログオフ時にローカルキャッシュされたプロファイルを削除、 プロファイルストリーミング、および 常にキャッシュが自動構成機能によって適用されます。

ポリシー	永続的かつ専用	永続的かつ共有	プロビジョニング済みかつ専用	プロビジョニング済みかつ共有
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除	無効	有効	無効 (注 5)	有効
プロファイルストリーミング	無効	有効	有効	有効
常にキャッシュ	有効 (注 1)	無効 (注 2)	無効 (注 6)	無効
アクティブライトバック	無効	無効 (注3)	有効	有効
ローカル管理者ログオンの処理	有効	無効 (注4)	有効	有効 (注7)

注

1. このマシンタイプではプロファイルストリーミングが無効になっているため、「常にキャッシュ」設定は常に無視されます。
2. 「常にキャッシュ」を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限 (MB単位) を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルに読み込まれるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
3. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルへの変更を保存する場合を除き、アクティブライトバックを無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
4. ホスト型共有デスクトップの場合を除き、ローカル管理者ログオンの処理を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
5. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除しないようにします。これにより、ローカルにキャッシュされたプロファイルが保持されます。マシンは個々のユーザーに割り当てられているため、プロファイルがキャッシュされているとログオンが速くなります。

6. 常にキャッシュする機能を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限（MB単位）を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルに読み込まれるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
7. ローカル管理者のログオンを処理する機能を有効にします。ただし、Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルは除きます。この場合、このポリシーを無効にします。

モバイルかスタティックか?

お使いのマシンはActive Directoryドメインに常時接続されていますか？ノートPCや同様のモバイルデバイスは、おそらく接続されていません。同様に、一部の展開では、永続的なローカルストレージを持つ固定マシンがあるものの、データセンターから長期間分離されている場合があります。たとえば、リモート支社が衛星通信によって本社と接続されている場合などです。別の例としては、インフラストラクチャが復旧中で電力や通信が断続的である災害復旧の場合が挙げられます。

通常、Profile Managementは、ネットワークが利用できない間にユーザーがログオフしない限り、短時間のネットワーク停止（24時間未満）に対して回復力があります。このような状況では、ログオンプロセスを大幅に高速化するいくつかの方法でProfile Managementを最適化できます。これがスタティックケースです。

長期間の切断が予想される場合、または企業ネットワークから切断されている間にユーザーがコンピューターをログオフまたはシャットダウンできる必要がある場合、Profile Managementを最適化することはできません。ユーザーが再接続すると、プロファイル全体がユーザーストアからフェッチされるため、ログオンが遅くなります。これがモバイルケースです。

モバイルケース

長期間の切断（およびActive Directoryドメインへの接続が断続的な期間のみ）の場合、Offline profile supportポリシーを有効にします。これにより、サポートされていない最適化を制御する以下のポリシーの効果が自動的に無効になります。これらのポリシーはグループポリシーでは無効になっていないように見えるかもしれませんが、効果はありません。

- プロファイルストリーミング
- 常にキャッシュ

注： Offline profile supportが有効になっている場合、 **Active write back**は尊重されますが、コンピューターがネットワークに接続されている場合にのみ機能します。

重要： Citrix VDI-in-a-Boxで Offline profile supportを有効にしないでください。このポリシーは、それで作成されたデスクトップには永続的なローカルストレージがないため、この製品には適していません。

スタティックケース

ポリシー: オフラインプロファイルのサポート

短時間の切断の場合、Offline profile supportポリシーを無効にします。これにより、以下のいずれかのポリシーを設定できます。

ポリシー：ストリーミングされたユーザープロファイルグループ

Streamed user profile groupsポリシーをUnconfiguredに設定します。このポリシーを有効にしても、Profile streamingも有効になっている場合にのみ効果があります。Streamed user profile groupsは、ストリーミングプロファイルの利用を特定のActive Directoryユーザーグループに制限するために使用されます。これは、Profile Managementの古いバージョンから移行する際の一部のシナリオで役立ちます。このポリシーの設定方法については、「ユーザープロファイルのストリーム」を参照してください。

このポリシーに適用される高可用性と災害復旧に関する情報については、シナリオ 4 - 移動ユーザーを参照してください。

ポリシー: 保留中のエリアロックファイルのタイムアウト

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトポリシーを「未構成」に設定すると、保留中のエリアロックの1日タイムアウトというデフォルトの操作が適用されます。これはサポートされている唯一の値であるため、このポリシーを調整しないでください。

ポリシー: アクティブなライトバック

このポリシーの詳細については、永続的? プロビジョニング済み? 専用? 共有?を参照してください。

どのアプリケーション?

デプロイで利用されているアプリケーションは、Profile Management の構成方法に影響します。ただし、他の構成決定とは異なり、単純なイエス・ノーの推奨事項はありません。決定は、アプリケーションが永続的なカスタマイズをどこに保存するか（レジストリまたはファイルシステム）によって異なります。

アプリケーションが設定とユーザーのカスタマイズをどこに保存するかを特定するために、ユーザーのアプリケーションを徹底的に分析し、理解してください。Process Monitor などのツールを使用して、アプリケーションのバイナリを監視します。Google も別の情報源です。Process Monitor の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>` を参照してください。

アプリケーションの動作を理解したら、インクルージョンを使用して、Profile Management で処理されるファイルと設定を定義します。除外を使用して、処理されないものを定義します。デフォルトでは、プロファイル内のすべてのものが処理されますが、`AppData\Local` 内のファイルは除外されます。デプロイに DropBox や Google Chrome、または Visual Studio のワンクリック発行で作成されたアプリケーションが含まれている場合、`AppData\Local` のサブフォルダーを明示的に含める必要がある場合があります。

シンプルなアプリケーション

シンプルなアプリケーションとは、適切に動作するアプリケーションのことです。これらは、パーソナライズ設定を HKCU レジストリハイブに、パーソナライズファイルをプロファイル内に保存します。シンプルなアプリケーションには基本的な同期が必要であり、これには以下の方法で項目を含めたり除外したりする必要があります。

- 以下のいずれかのポリシーにおける相対パス（%USERPROFILE% に対する相対パス）：
    - 同期するディレクトリ
    - 同期するファイル
    - 除外リスト - ディレクトリ
    - 除外リスト - ファイル
    - ミラーリングするフォルダー 注：%USERPROFILE% は Profile Management によって暗黙的に指定されます。これらのポリシーに明示的に追加しないでください。
- 以下のいずれかのポリシーにおけるレジストリ相対パス（つまり、HKCU ルートに対する相対パス）：
    - 除外リスト
    - 包含リスト

項目の含め方と除外方法については、「項目の含め方と除外方法」を参照してください。

レガシーアプリケーション

レガシーアプリケーションは適切に動作しません。パーソナライズファイルをプロファイル外のカスタムフォルダーに保存します。推奨される解決策は、レガシーアプリケーションで Profile Management を使用するのではなく、Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用することです。

複雑なアプリケーション

複雑なアプリケーションには特別な処理が必要です。アプリケーションのファイルは相互参照する可能性があり、相互に関連するグループとして扱われる必要があります。Profile Management は、複雑なアプリケーションに関連する2つの動作、つまり Cookie 管理とフォルダーミラーリングをサポートしています。

Internet Explorer の Cookie 管理は、以下の両方のポリシーが常に指定される基本的な同期の特殊なケースです。

- ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する
- ミラーリングするフォルダー

フォルダーミラーリング、Cookie 管理の詳細、およびこれらのポリシーの設定方法については、「Cookie フォルダーおよびその他のトランザクションフォルダーの管理」を参照してください。

クロスプラットフォームアプリケーション

クロスプラットフォームアプリケーションとは、複数のプラットフォームでホストされる可能性のあるアプリケーションです。Internet Explorer および Microsoft Office の特定のバージョンでは、Profile Management は、設定がレジストリに保存されているかプロファイル内のファイルとして保存されているかにかかわらず、プラットフォーム間でのパーソナル設定の共有をサポートします。クロスプラットフォームアプリケーションに推奨されるポリシー設定については、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」に記載されています。

他のアプリケーションの設定をプラットフォーム間で共有する場合は、Citrix® は Sepago の Profile Migrator を使用することをお勧めします。

Java および Web アプリケーション

Java アプリケーションはプロファイル内に多くの小さなファイルを残す可能性があり、プロファイルの読み込み時間を大幅に増加させる可能性があります。これを防ぐには、`AppData\Roaming\Sun\Java` を除外することを検討してください。

ポリシーの概要

次の表は、さまざまな種類のアプリケーションに対して Profile Management を構成するために使用するポリシーをまとめたものです。表では、次の用語が使用されています。

- **相対パス**。ローカルボリューム上の相対パスで、%USERPROFILE% (指定してはいけません) を基準とします。例: `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`、`AppData\Roaming\Adobe\`。
- **絶対パス**。ローカルボリューム上の絶対パスです。例: `C:\BadApp*.txt`、`C:\BadApp\Database\info.db`。
- **レジストリ相対パス**。HKCU ハイブ内のパスを指します。例: `Software\Policies`、`Software\Adobe`。
- **フラグ**。パス情報が不要な処理を有効または無効にするためにフラグを使用します。例: Enabled、Disabled。

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
同期するディレクトリ	フォルダ		相対	絶対値	
同期するファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ディレクトリ	フォルダ		相対	絶対値	
除外リスト - ファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
包含リスト	レジストリ		レジストリ相対		
除外リスト	レジストリ		レジストリ相対		

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
ミラーリングするフォルダー	フォルダ			絶対値	相対
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する					フラグ

ファイル名でのワイルドカード処理

ファイル（フォルダーまたはレジストリエントリではなく）を参照するポリシーは、ワイルドカードをサポートしています。詳細については、「ワイルドカードの使用」を参照してください。

含めるルールと除外するルール

Profile Management は、ユーザープロファイル内のファイル、フォルダー、およびレジストリキーをユーザープロファイルから含めたり除外したりするためのルールを使用します。これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。この開始点から、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を含めるとして構成することができます。ルールに関する詳細情報（項目の含め方と除外方法に関する手順を含む）については、「項目の含め方と除外方法」を参照してください。

プロファイル内の非英語フォルダー名

バージョン1プロファイルを使用する英語以外のシステムでは、含めるリストと除外するリストにローカル言語で相対パスを指定します。たとえば、ドイツ語システムでは、**Documents**ではなく**Dokumenten**を使用します。複数のロケールをサポートしている場合は、含める項目または除外する項目を各言語で追加します。

次のステップ

重要: このトピックでは、Profile Managementの展開を構成するために回答する必要がある最後の質問について説明します。質問は、 構成の決定に記載されています。すべての質問に回答し、そ

れに応じて設定を構成したら、 Profile Managementの確認、テスト、およびアクティブ化で説明されているように、構成を確認して稼働を開始する準備が整います。その他のすべてのポリシーは、デフォルト設定のままにしておくことができます。構成してはならないポリシーのリストについては、 管理の「構成を必要としないポリシー」を参照してください。

Profile Management を確認、テスト、およびアクティブ化する

このトピックでは、構成の決定 に記載されている展開に関するすべての質問に回答済みであることを前提としています。また、それに応じて Profile Management ポリシーを構成済みであることも前提としています。これで、構成を確認して運用を開始する準備が整いました。

同僚にポリシー設定を確認してもらいます。次に、構成をテストします。テストには .ini ファイルを使用できます。テストが完了したら、設定を手動でグループポリシーオブジェクトに転送します。

ポリシー: Profile Management を有効にする

このポリシーを有効にするまで、Profile Management は非アクティブです。

複数のプラットフォームの計画

複数のプラットフォームでのユーザープロファイルが課題となるのはなぜか?

ユーザーが複数のコンピューティングデバイスにアクセスすることは一般的です。あらゆる種類のローミングプロファイルにおける課題は、これらのデバイス上のシステム間の違いから生じます。たとえば、別のデバイスに移動したときに存在しないローカルファイルへのショートカットをデスクトップに作成した場合、デスクトップに壊れたショートカットが残ります。

シングルセッションオペレーティングシステム（OS）とマルチセッションOSの間でローミングする場合も同様の問題が発生します。一部の設定（電源設定やビデオ設定など）はサーバーに適用できない場合があります。さらに、各デバイスにアプリケーションが同様にインストールされていない場合、ローミング時に他の問題が発生する可能性があります。

一部のパーソナライズ設定（マイ ドキュメント、お気に入り、およびOSやアプリケーションのバージョンに依存せずに機能するその他のファイルなど）は、他の設定よりもはるかに管理が容易です。しかし、ドキュメントの種類が1つのシステムでのみサポートされている場合、これらの設定でさえローミングが困難になることがあります。たとえば、ユーザーがMicrosoft Projectを1つのシステムにインストールしているが、別のデバイスではそのファイルの種類が認識されない

場合などです。同じアプリケーションが2つのシステムに存在し、一方のシステムには異なるアドオンがインストールされており、ドキュメントがそれを期待している場合、この状況はさらに悪化します。

アプリケーションのインストール方法を変更すると、どのように問題が発生するか?

プラットフォームが同じようにインストールされていても、アプリケーションがそれぞれ異なる構成になっている場合、アプリケーションの起動時にエラーが発生する可能性があります。たとえば、あるプラットフォームではExcelでマクロやアドオンがアクティブになるが、別のプラットフォームではアクティブにならない、といった場合です。

スタートメニュー

スタートメニューにはリンク（LNKファイルとLNK2ファイル）が含まれています。メニューのユーザー固有の部分はプロファイルに保存され、ユーザーはその部分を変更できます。カスタムリンク（実行可能ファイルやドキュメントへのリンク）を追加することは一般的です。さらに、言語固有のリンクは、同じアプリケーションに対して複数のスタートメニューエントリを生成します。また、ドキュメントを指すリンクは、他のコンピューターでは無効になる場合があります。これは、ドキュメントへのパスが別のシステムに対する相対パスであるか、アクセスできないネットワークパスであるためです。

デフォルトでは、Profile Managementはスタートメニューフォルダーの内容を保存しません。これは、実行可能ファイルを指すリンクがコンピューターに依存することが多いためです。ただし、システムが類似している状況では、Profile Managementの構成にスタートメニューを含めることで、ユーザーがデスクトップ間をローミングする際の整合性が向上します。あるいは、フォルダーリダイレクトを使用してスタートメニューを処理することもできます。

注： 最も無害に見える変更からでも、予測不能な副作用が生じることがよくあります。たとえば、Sepagoブログの `<https://helgeklein.com/blog/2009/09/citrix-user-profile-manager-upm-and-the-broken-rootdrive/>` の記事を参照してください。

常にプラットフォーム間でスタートメニューの動作をテストし、検証してください。

クイック起動ツールバー

クイック起動ツールバーにはリンクが含まれており、ユーザーが構成できます。デフォルトでは、**クイック起動**ツールバーはProfile Managementによって保存されます。一部の環境では、リンクがコンピューターに依存する可能性があるため、**クイック起動**ツールバーの保存が望ましくない場合があります。

ツールバーをプロファイルから除外するには、フォルダー除外リストに次のエントリを追加します: `AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch`。

どのような種類のプロファイルを作成しますか?

重要: 構造の違いがあるため、複数のプラットフォームを含む環境では、各ユーザーに対して個別のバージョン1およびバージョン2プロファイルを作成することをお勧めします。Windows VistaとWindows 7のプロファイル名前空間の違いにより、これらのプラットフォーム間でプロファイルを共有することは困難です。また、Windows XPとWindows Server 2003の間でも障害が発生する可能性があります。バージョン1およびバージョン2プロファイルの詳細は、 プロファイルについて を参照してください。

ここでの複数のプラットフォームの定義には、複数のオペレーティングシステム（異なるビット数を含む）だけでなく、同じオペレーティングシステム上で実行されている複数のアプリケーションバージョンも含まれます。以下の例は、この推奨事項の理由を示しています。

- 32ビットシステムには、オペレーティングシステムに32ビットオペレーティングシステムに固有の場所でアプリケーションを起動するように指示するレジストリキーが含まれている場合があります。Citrix®ユーザープロファイルによって64ビットシステムでキーが使用される場合、そのシステムに場所が存在せず、アプリケーションが起動に失敗する可能性があります。
- Microsoft Office 2003、Office 2007、およびOffice 2010は、一部のWord設定を異なるレジストリキーに保存します。これらのアプリケーションが同じオペレーティングシステムで実行されている場合でも、Wordアプリケーションの3つの異なるバージョンに対して個別のプロファイルを作成する必要があります。

プロファイルの相互運用性を確保するために、CitrixユーザープロファイルでMicrosoftフォルダーリダイレクトを使用することをお勧めします。Windows VistaまたはWindows 7がWindows XPと共存する必要がある環境では、これはさらに重要です。

ヒント: 組織のデータ管理ポリシーによっては、Active Directoryから削除されたユーザーアカウントのプロファイルをユーザー ストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアから削除することをお勧めします。

複数のファイルサーバーでCitrix®ユーザープロファイルを共有する

Profile Management の最もシンプルな実装は、ユーザーストアが1つの地理的場所にいるすべてのユーザーをカバーする1つのファイルサーバー上にあるものです。このトピックでは、複数のファ

イルサーバーを含む、より分散された環境について説明します。高度に分散された環境については、「Profile Management を使用した高可用性と災害復旧」を参照してください。

注：ユーザーストアのサーバー側ファイルクォータは無効にしてください。クォータがいっぱいになるとデータ損失が発生し、プロファイルのリセットが必要になるためです。プロファイルに保持される個人データ（例：ドキュメント、音楽、画像）の量を制限するには、サーバー側ファイルクォータが有効になっている別のボリュームにフォルダーリダイレクトを使用する方が適切です。

ユーザーストアは複数のファイルサーバーに配置でき、これは多くのプロファイルをネットワーク全体で共有する必要がある大規模な展開でメリットがあります。Profile Management は、単一の設定である **ユーザーストアへのパス** でユーザーストアを定義するため、この設定に属性を追加することで複数のファイルサーバーを定義します。Active Directory のユーザースキーマで定義されている任意の LDAP 属性を使用できます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/adschema/attributes-all?redirectedfrom=MSDN>` を参照してください。

ユーザーが異なる都市にある学校にいると仮定し、これを表すために #l# 属性（location の小文字の L）が構成されているとします。ロンドン、パリ、マドリードに拠点があります。ユーザーストアへのパスは次のように構成します。

```
\&num;l#.userstore.myschools.net\profile&num;sAMAccountName#\%ProfileVer%\
```

パリの場合、これは次のように展開されます。

```
\\Paris.userstore.myschools.net\profile\JohnSmith\v1\
```

次に、利用可能なサーバー間で都市を分割します。たとえば、DNS で Paris.userstore.myschools.net を Server1 にポイントするように設定します。

このように属性を使用する前に、そのすべての値を確認してください。それらはサーバー名の一部として使用できる文字のみを含んでいる必要があります。たとえば、#l# の値にはスペースが含まれていたり、長すぎたりする場合があります。

#l# 属性を使用できない場合は、同様のパーティショニングを実現する #company# や #department# などの他の属性について AD ユーザースキーマを調べてください。

カスタム属性を作成することもできます。特定のドメインでどの属性が定義されているかを確認するには、sysinternals ツールである Active Directory Explorer を使用します。Active Directory Explorer は `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/adexplorer>` で入手できます。

注： プロファイルやサーバーを区別するために、%homeshare% などのユーザー環境変数を使用しないでください。Profile Management はシステム環境変数を認識しますが、ユーザー環境変数は認識しません。ただし、関連する Active Directory プロパティである #homeDirectory# を使用できます。したがって、ユーザーの HOME ディレクトリと同じ共有にプロファイルを保存する場合は、ユーザーストアへのパスを `\#homeDirectory#\profiles` のように設定します。

ユーザーストアへのパスでの変数の使用については、次のトピックで説明されています。

- ユーザーストアへのパスを指定する
- OU 内および OU 間でプロファイルを管理する
- Profile Management を使用した高可用性と災害復旧

OU内およびOU間でプロファイルを管理する

OU内

Profile Management が組織単位 (OU) 内でプロファイルを管理する方法を制御できます。Windows Server 2008 環境では、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、.adm または .admx ファイルを OU 内のコンピューターのサブセットに制限します。WMI フィルタリングは、Service Pack 1 (SP1 を含む GPMC) を適用した Group Policy Management Console の機能です。

WMI フィルタリングの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc779036(v=ws.10)>` および `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc758471(v=ws.10)>` を参照してください。

SP1 を適用した GPMC の詳細については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=21895>` を参照してください。

以下の方法を使用すると、単一の OU 内で単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、異なる OS を持つコンピューターを管理できます。各方法は、ユーザー ストアへのパスを定義するための異なるアプローチです。

- ハードコードされた文字列
- プロファイル管理変数
- システム環境変数

ハードコードされた文字列は、1 種類のコンピューターのみを含む場所を指定します。これにより、それらのコンピューターからのプロファイルを Profile Management によって一意に識別できます。たとえば、Windows 7 コンピューターのみを含む OU がある場合、**ユーザー ストアへのパス**に `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Windows7` を指定できます。この例では、Windows7 フォルダーがハードコードされています。ハードコードされた文字列は、Profile Management Service を実行するコンピューターでのセットアップを必要としません。

Profile Management 変数は、コンピューターを一意に識別するために柔軟に組み合わせることができ、セットアップを必要としないため、推奨される方法です。たとえば、異なるビット数のオペレーティングシステムで実行されている Windows 7 および Windows 8 プロファイルを含む OU がある場合、ユーザー ストアへのパスに `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を指定できます。この例では、2 つの Profile Management 変数は、Win7x86 (Windows 7 32 ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) および Win8x64 (Windows 8 64 ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) のフォルダーに解決される可能性があります。Profile Management 変数の詳細については、Profile Management ポリシー を参照してください。

システム環境変数には、いくつかの構成が必要です。これらは、Profile Management Service を実行する各コンピューターで設定する必要があります。Profile Management 変数が適さない場合は、次のようにシステム環境変数をユーザー ストアへのパスに組み込むことを検討してください。

各コンピューターで、%ProfVer% というシステム環境変数を設定します。(ユーザー環境変数はサポートされていません。) 次に、ユーザー ストアへのパスを次のように設定します。

```
`\\upmserver\upmshare\%username%.%userdomain%\%ProfVer%`
```

たとえば、Windows 7 32 ビットコンピューターの場合は %ProfVer% の値を Win7 に、Windows 7 64 ビットコンピューターの場合は Win7x64 に設定します。Windows Server 2008 32 ビットおよび 64 ビットコンピューターの場合は、それぞれ 2k8 および 2k8x64 を使用します。これらの値を多数のコンピューターで手動で設定するのは時間がかかりますが、Provisioning Services を使用する場合は、ベースイメージに変数を追加するだけで済みます。

ヒント: Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 では、グループポリシーを使用して環境変数の作成と適用を高速化できます。グループポリシー管理エディターで、 **コンピューターの構成 > 基本設定 > Windows の設定 > 環境** をクリックし、次に **操作 > 新規 > 環境変数** をクリックします。

OU間

Profile Management が OU 間でプロファイルを管理する方法を制御できます。OU の階層と GPO の継承に応じて、複数の OU に適用される共通の Profile Management ポリシーセットを1つの GPO に分離できます。たとえば、**ユーザー ストアへのパス** と **Profile Management を有効にする** は、すべての OU に適用する必要があります。そのため、これらを専用の GPO に個別に保存し、そこでこれらのポリシーのみを有効にすることができます（他のすべての GPO では未構成のままにします）。

専用の GPO を使用して、継承されたポリシーを上書きすることもできます。GPO の継承の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

Profile Management におけるドメインとフォレストのサポート

Profile Management は、Windows Server 2008 および Windows Server 2012 のドメインおよびフォレストの機能レベルをサポートしています。古いオペレーティングシステムはサポートされていません。

システム環境変数を使用すると、複数のドメインにおけるユーザー名の曖昧さを解消するのに役立ちます。詳細については、「OU 内および OU 間でのプロファイルの管理」を参照してください。

Profile Management を使用した高可用性とディザスターリカバリ

前提条件として、ユーザー ストアの構造と作成方法を理解してください。詳細については、「Profile Management のアーキテクチャ」および「ユーザー ストアの作成」を参照してください。

これらのトピックでは、Citrix Profile Management に適用される高可用性とディザスターリカバリのサポートされているシナリオについて説明します。シナリオを関連する基盤となる Microsoft テクノロジーに関連付け、サポートされているものを特定します。

- シナリオ 1: 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本的なセットアップ
- シナリオ 2: 複数のフォルダー ターゲットとレプリケーション
- シナリオ 3: ディザスターリカバリ
- シナリオ 4: 移動ユーザー

- シナリオ 5: ユーザー ストアの負荷分散

Profile Management は、信頼性の高い環境で動作することを前提としています。この信頼性は主に、Active Directory (AD) とネットワーク ユーザー ストア (NUS) の可用性に適用されます。どちらかが利用できない場合、Profile Management はプロファイルを提供できず、Windows に責任を委ねます。Windows は通常、デフォルトのプロファイルを提供します。

ローミングプロファイルとの比較

ディザスターリカバリおよび高可用性のシナリオでは、Citrix Profile Management は Microsoft 移動プロファイルに影響するのと同じ問題の影響を受ける可能性があります。特に明記されていない限り、Profile Management はそのような問題を解決しません。

特に、次の点に注意してください。

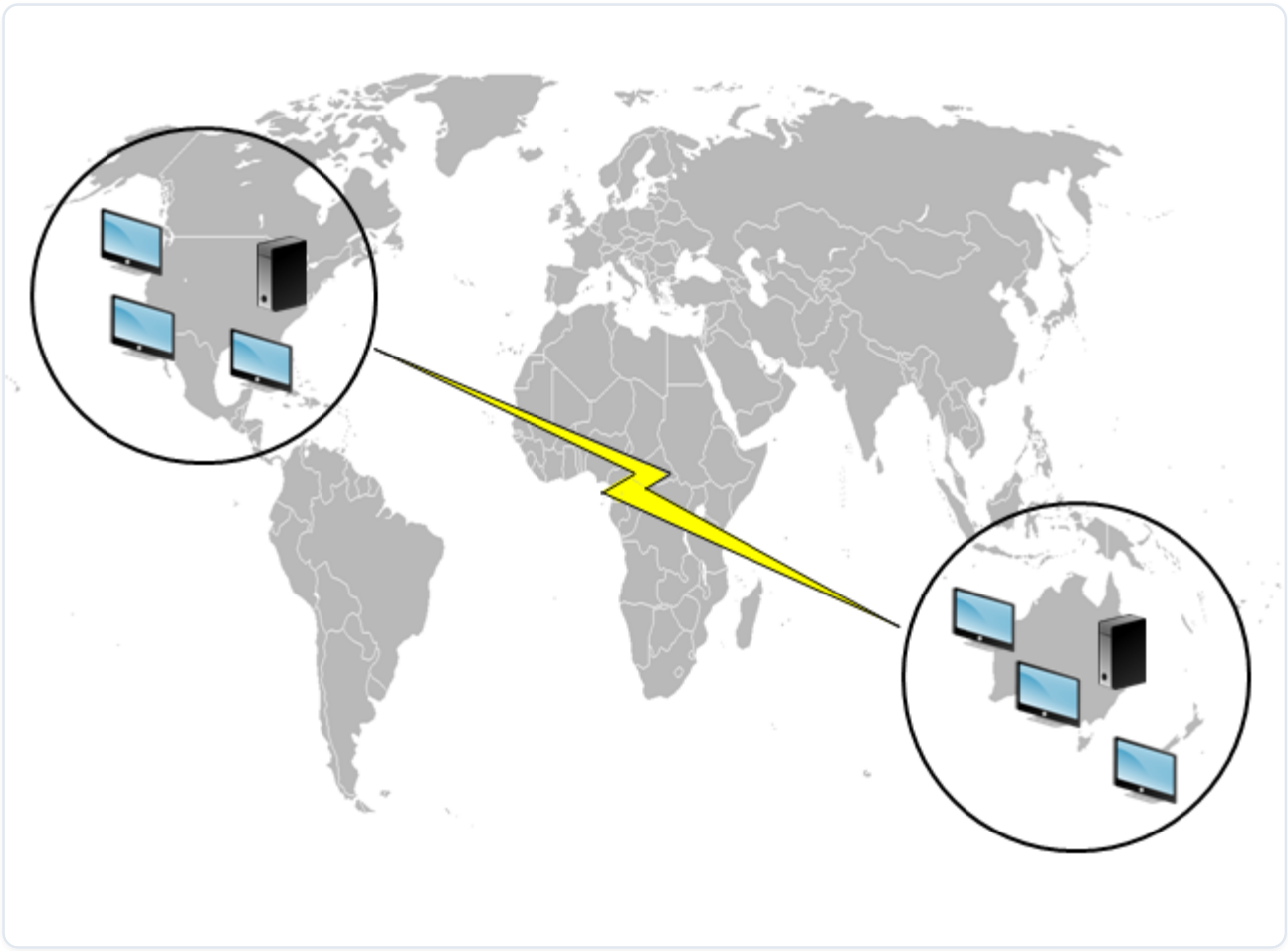
- Profile Management のサポートは、移動プロファイルもサポートされているシナリオに限定されます。
- オフライン ファイルのキャッシュ オプションは、移動ユーザー プロファイル共有で無効にする必要があります。同じ制限が Profile Management 共有にも適用されます。
- 移動プロファイルは DFS 共有からロードされません。同じ制限が Profile Management 共有にも適用されます。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2533009>` を参照してください。

シナリオ 1 - 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本設定

「ユーザーには、常に地理的に隣接した、優先されるネットワーク ユーザー ストア (NUS) をプロファイルに使用させたい。」この場合、オプション 1 と 2 が適用されます。

「NUS をフェールオーバー クラスター上に配置して、高可用性を実現したい。」この場合、オプション 2 が適用されます。

次の図は、このシナリオを示しています。北米 (NA) のユーザーは、ブリスベンではなくニューヨークの NUS を使用したいと考えています。目的は、遅延を減らし、オーストラリアまたはニュージーランド (ANZ) への大陸間リンクを介して送信されるトラフィックを最小限に抑えることです。



オプション 1 – DFS 名前空間

参考資料

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、DFS 名前空間の概要 を参照してください。

このオプションの実装

DFS 名前空間は、ブログ記事で提示された問題の一部を解決できます。

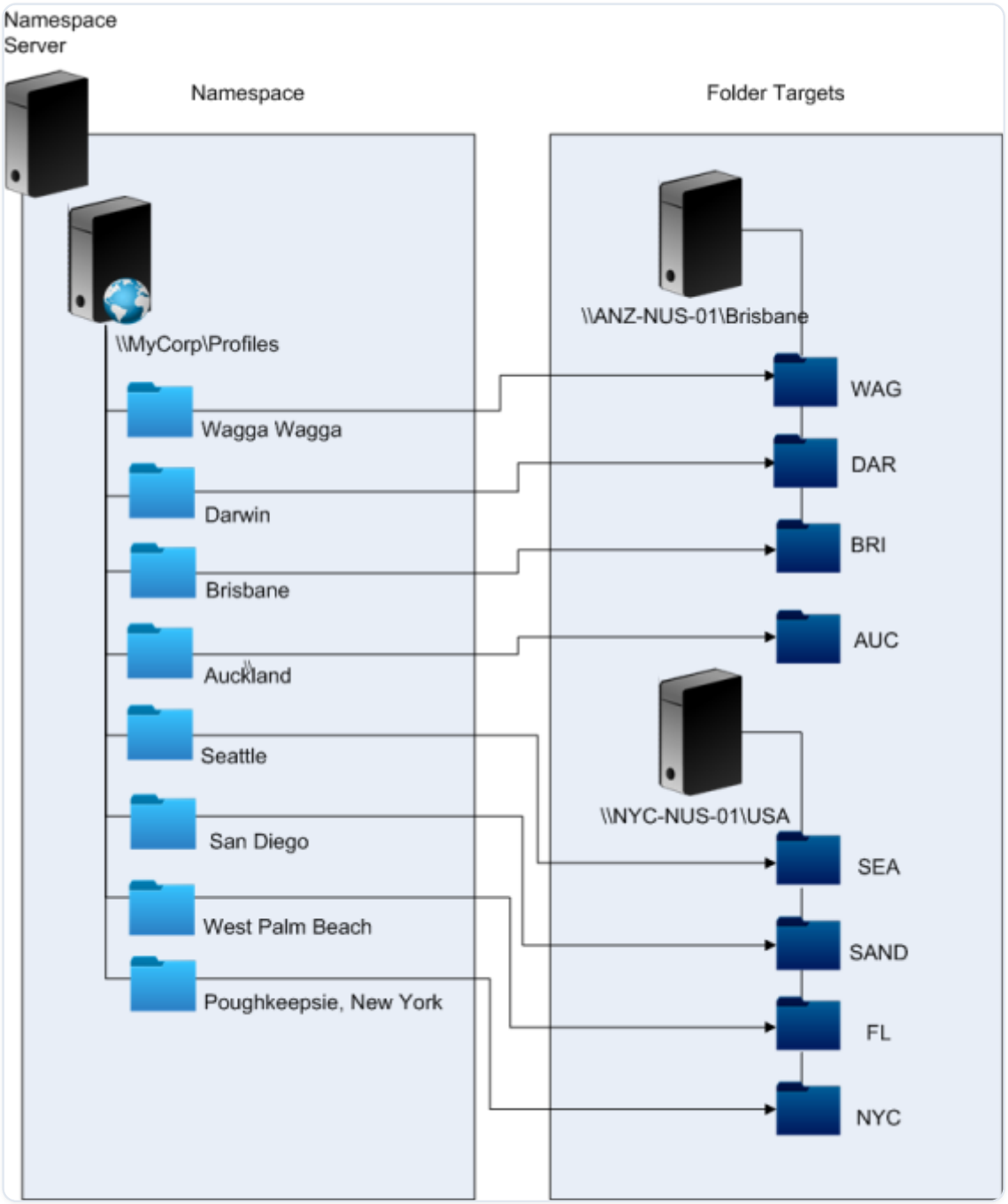
`\\MyCorp\Profiles` という NUS の名前空間を設定しましょう。これは名前空間ルートです。ニューヨークとブリスベン (およびその他のサイト) に名前空間サーバーを設定します。各名前空間サーバーには、各 Active Directory の場所に相当するフォルダーがあり、それらのフォルダーはニューヨークまたはブリスベンのサーバー上のターゲットを持っています。

Active Directory (ユーザー レコードの一部) には、次の場所が構成されている場合があります。

AD ロケーション属性 (#L#)	地理的な場所
ワガワガ	ANZ

AD ロケーション属性 (#L#)	地理的な場所
ダーウィン	ANZ
ブリスベン	ANZ
オークランド	ANZ
シアトル	該当なし
サンディエゴ	該当なし
ウェストパームビーチ	該当なし
ポキプシー、ニューヨーク	該当なし

次の図は、DFS 名前空間を使用してこれを設定する1つの方法を示しています。



設定が完了したら、 設定を次のように構成します。

`\\MyCorp\Profiles#l#`

8つのサイトに属するユーザーのプロファイルは、シナリオで要求される地理的制約を満たすように、わずか2つのサーバーに分散されます。

代替案

名前空間ターゲットを順序付けし、次のように順序付けルールを使用できます。DFS 名前空間が使用するターゲットを解決するときに、ローカルサイト内のターゲットのみを選択するように指

定できます。これは、特定のユーザーについて、すべてのデスクトップとサーバーが同じサイトに属することが保証されている限り機能します。

たとえば、通常ポキプシーに拠点を置くユーザーがワガワガを訪れた場合、この手法は失敗します。そのユーザーのラップトッププロファイルはブリスベンから取得されるかもしれませんが、公開アプリケーションで使用されるプロファイルはニューヨークから取得されるかもしれません。

AD 属性を使用する推奨される手法は、ユーザーが開始するすべてのセッションで同じ DFS 名前空間の選択が行われることを保証します。その理由は、#I# がマシン構成ではなく、ユーザーの AD 構成から派生するためです。

オプション 2 - フェールオーバークラスタリングを使用した DFS 名前空間

参考資料

- 2 ノードファイルサーバーフェールオーバークラスターの構成に関するステップバイステップガイドについては、「2 ノードクラスターファイルサーバーの展開」を参照してください。
- 名前空間タイプの選択に関する情報については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/choose-a-namespace-type>` を参照してください。

このオプションの実装

フェールオーバークラスタリングを追加することで、基本的な高可用性を提供できます。

このオプションの重要な点は、ファイルサーバーをフェールオーバークラスターにすることです。これにより、フォルダーターゲットが単一のサーバーではなくフェールオーバークラスターでホストされるようになります。

名前空間サーバー自体に高可用性が必要な場合は、スタンドアロンの名前空間を選択する必要があります。ドメインベースの名前空間は、名前空間サーバーとしてフェールオーバークラスターの使用をサポートしていません。フォルダーターゲットは、名前空間サーバーのタイプに関係なく、フェールオーバークラスターでホストされる場合があります。

重要: フェールオーバークラスター内のサーバーが失敗した場合、ファイルロックの状態が保持されない可能性があります。Profile Management は、プロファイル処理中の特定の時点で NUS でファイルロックを行います。重要な時点でのフェールオーバーがプロファイルの破損につながる可能性があります。

シナリオ 2 - 複数のフォルダーターゲットとレプリケーション

「ローカルのNUSが利用できない場合でも、ユーザーが企業ネットワーク上の別のバックアップ場所からプロファイルデータを取得できるようにしたい。変更を加えた場合、その変更は、優先NUSが再び利用可能になったときに、そこに戻される必要がある。」

このシナリオにおける基本的な要件は、ネットワーク上でプロファイルの代替場所を提供することです。ユースケースには、ネットワークインフラストラクチャの部分的な障害や、フェールオーバークラスターなどのフォルダーターゲットの完全な利用不能が含まれます。

考慮すべきオプションは、複数のフォルダーターゲットの使用とDFSレプリケーションの使用です。

オプション 1 - 複数のフォルダーターゲットへのリフェラル

背景情報

DFS名前空間のチューニングについては、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/tuning-dfs-namespaces>`を参照してください。

このオプションについて

リフェラルとは、ユーザーデバイスによって順番に試行されるターゲットの順序付けられたリストです。これは、ソフトウェアライブラリのようにターゲットが読み取り専用であるシナリオ向けに設計されています。ターゲット間にリンクがないため、この手法をプロファイルで使用すると、同期できない複数のプロファイルが作成される可能性があります。

ただし、リフェラル内のターゲットに対して、順序付け方法とターゲットの優先順位の両方を定義することは可能です。適切な順序付け方法を選択すると、すべてのユーザーセッションで一貫したターゲット選択が行われるように見えます。しかし実際には、ユーザーのすべてのデバイスが同じサイト内にある場合でも、サイト内ルーティングの問題により、異なるセッションで異なるターゲットが選択される可能性があります。デバイスがリフェラルをキャッシュすると、この問題はさらに複雑になる可能性があります。

重要: このオプションはProfile Managementの展開には適しておらず、サポートされていません。ただし、ファイルレプリケーションは、単一セッションのみが保証され、 アクティブな書き戻しが無効になっている一部の特殊な展開で使用されてきました。これらの特殊なケースについては、Citrix Consultingにお問い合わせください。

オプション 2 - 分散ファイルシステムレプリケーション

背景情報

- 分散ファイルシステムレプリケーション（DFSR）の概要については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-replication/dfsr-overview>`を参照してください。
- レプリケートされたユーザープロファイルデータのサポートに関する声明については、`<https://techcommunity.microsoft.com/t5/ask-the-directory-services-team/microsoft-8217-s-support-statement-around-replicated-user/ba-p/398230>`を参照してください。
- DFSR が分散ファイルロックをサポートしない理由を理解するには、`<https://blogs.technet.com/b/askds/archive/2009/02/20/understanding-the-lack-of-distributed-file-locking-in-dfsr.aspx>` を参照してください。

このオプションの実装

DFS レプリケーションは、帯域幅が制限されたネットワーク接続を介したフォルダー同期を提供します。このオプションは、単一の名前空間フォルダー定義が参照する複数のフォルダーターゲットを同期するため、オプション1の問題を解決するように見えます。実際、フォルダーがフォルダー定義のターゲットとして追加されると、レプリケーショングループに属するものとして指定できます。

考慮すべきレプリケーションには2つの形式があります。

- 一方向レプリケーション（アクティブ-パッシブレプリケーションとも呼ばれる）は、重要なデータを安全なリポジトリにバックアップするために設計されています。このレプリケーションは、たとえばディザスタリカバリサイトの維持に適しています。パッシブターゲットが参照に対して無効になっており、ディザスタリカバリ計画がアクティブ化されたときにのみ呼び出される限り、Profile Management で機能させることができます。
- 双方向レプリケーション（アクティブ-アクティブレプリケーションとも呼ばれる）は、グローバル共有データへのローカルな読み取り/書き込みアクセスを提供することを目的としています。ここでは、瞬時レプリケーションは必ずしも要件ではありません。共有データはめったに変更されない可能性があります。 重要: アクティブ-アクティブ DFSR はサポートされていません。

スケジュールは、データがレプリケートされる頻度を定義します。頻繁なスケジュールはCPUと帯域幅の両方でより集中的ですが、瞬時の更新を保証するものではありません。

Profile Management は、その操作のさまざまな時点で、(共有) ユーザー ストアへの更新を調整するために、NUS 内の特定のファイルをロックする必要があります。通常、これらの更新はセッションの開始時と終了時、およびアクティブなライトバックが有効になっている場合はセッションの途中で行われます。DFS レプリケーションでは分散ファイル ロックがサポートされていないため、Profile Management は NUS として 1 つのターゲットしか選択できません。この設定により、双方向レプリケーション (アクティブ-アクティブ レプリケーション) の価値が事実上なくなり、したがって Profile Management には適しておらず、サポートされていません。一方向レプリケーション (アクティブ-パッシブ レプリケーション) は、ディザスタ リカバリ システムの一部としてのみ Profile Management に適しています。その他の用途はサポートされていません。

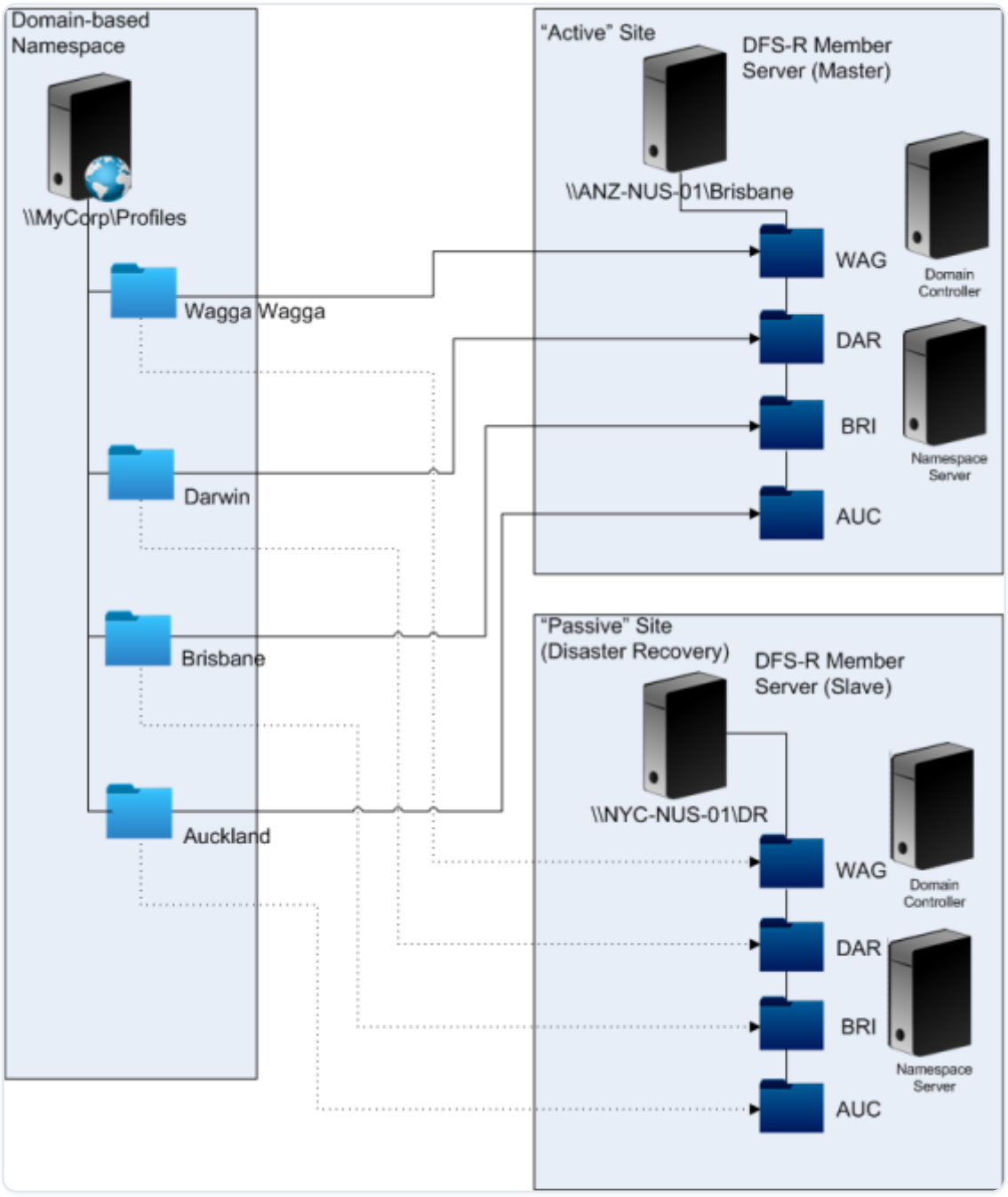
シナリオ 3 - ディザスターリカバリー

「Citrix®ユーザープロファイルを処理するための完全なディザスターリカバリーサイトをどのように設定しますか？」

Profile Management は、ディザスターリカバリー (DR) に必要な主要な機能をサポートしています。

- **DFS 名前空間**。このシナリオでは、DRサイトが独自の名前空間サーバーを持つことができるため、ドメインベースの名前空間サーバーが推奨されます。(スタンドアロンの名前空間サーバーはレプリケートできませんが、フェールオーバークラスターでホストできます。)
- **複数のフォルダーターゲットとDFSレプリケーション**。各NUSに対して、少なくとも2つのターゲットを提供しますが、通常運用では1つだけを有効にします。無効になっているターゲット（DRサイトにある）が最新の状態に保たれるように、一方向のDFSレプリケーションを設定します。
- **個々のフォルダーターゲットをホストするためのフェールオーバークラスター**。オプション。DRサイトのリソースを浪費する可能性があります。

この図では、ドメインベースの名前空間がNUSを管理しています。(シナリオ1の図では、意図的に名前空間を含んでいませんでした。) DRサイトを含む各サイトに名前空間サーバーを含めることができます。すべてのサーバーは、名前空間の同じビューをサポートします。



DRプランがアクティブ化された場合、DRサイトのNUSは、マスターNUSからレプリケートされた変更で最新の状態になります。ただし、名前空間サーバーはまだ名前空間の誤ったビューを反映しているため、その構成を更新する必要があります。各フォルダーについて、マスターサイトのフォルダーターゲットを無効にし、DRサイトのフォルダーターゲットを有効にする必要があります。

ADの更新が伝播した後、名前空間サーバーはDRフォルダーターゲットを正しく特定し、DRサイトはProfile Managementによって使用できるようになります。

Note: The Path to user store setting refers to namespace folders, not real servers, so there is no need to update the Profile Management configuration.

実際には、DRサイトは通常プロファイルには使用されないため、一方向または双方向のレプリケーションが可能です。災害が終了すると、DRサイトからマスターサイトへの接続により、災害中にNUSに加えられた変更がマスターサイトにレプリケートされます。

シナリオ 4 - 移動するユーザー

「スタッフが異なるオフィス間を移動する際、地理的に近いNUSを使い続けられるように、優先NUSを変更したい。」

このシナリオの難点は、ユーザーのログオンセッションが複数の場所から集約される可能性があることです。通常、ユーザーはデスクトップセッションをあるサイトから別のサイトへとローミングします。しかし、多くのアプリケーションは、ユーザーのデスクトップの現在の場所を認識しないバックエンドサーバーでホストされています。

さらに、ユーザーは切断されたセッション（おそらくホームロケーションでホストされている）に再接続する可能性があります。何らかの理由でセッションがユーザーの新しい場所にあるNUSに切り替えられた場合、パフォーマンスが低下します。

ホットデスクを利用する移動ユーザーの場合、**プロファイルストリーミング**と**常にキャッシュ**の設定を使用するのが最善の選択肢です。固定マシンを使用している場合でも、Citrix®ストリーミングユーザープロファイルを使用して迅速にログオンできます。常にキャッシュを有効にすると、プロファイルの残りの部分がバックグラウンドでロードされます。

シナリオ 5 - ユーザー ストアの負荷分散

「地理的に隣接する複数のネットワーク ユーザー ストア (NUS) にわたってユーザーの負荷分散を行いたい。」

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、DFS 名前空間の概要を参照してください。

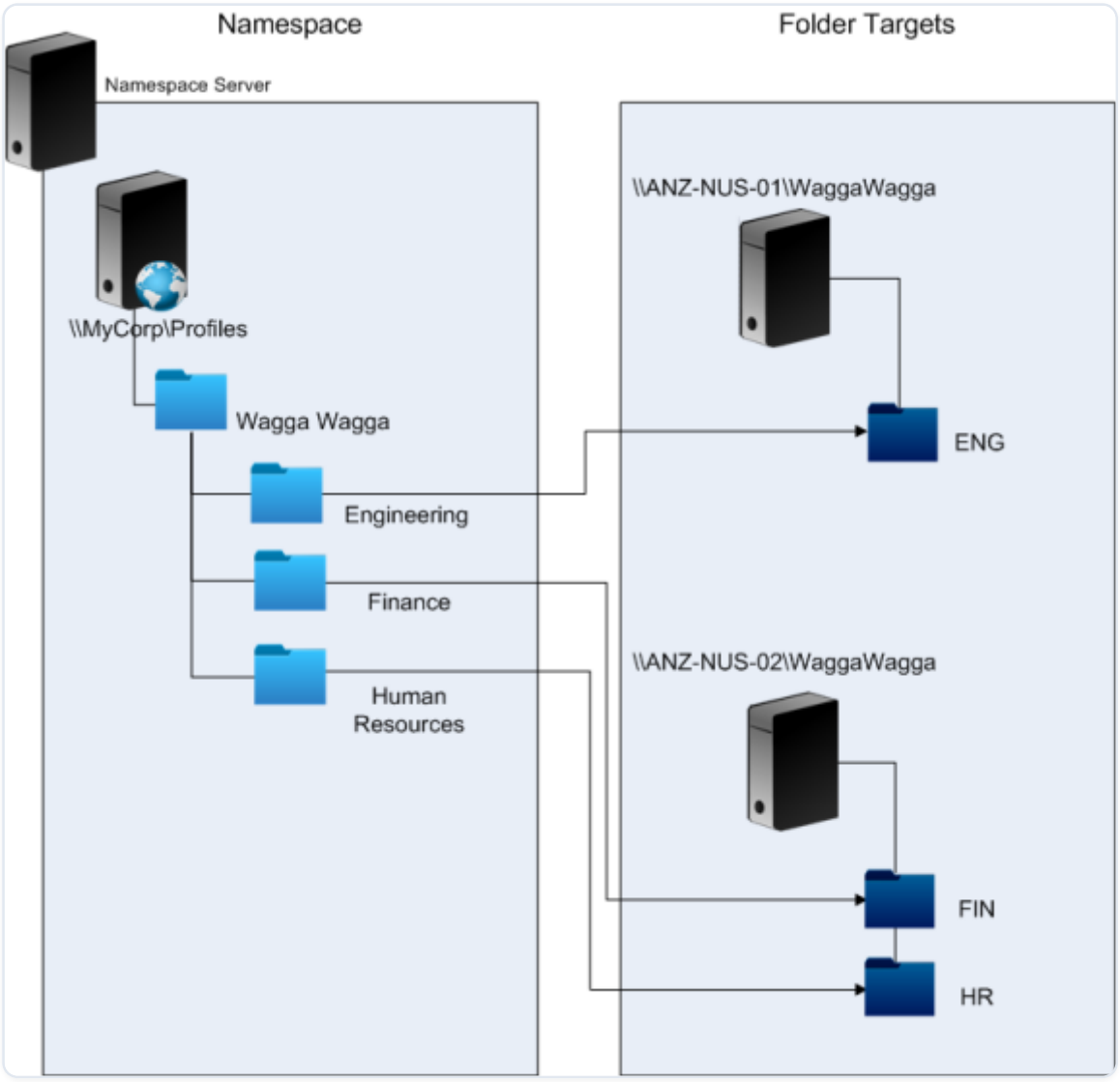
シナリオ 1 とは異なり、このシナリオでは、複数の NUS を必要とするほど大規模な単一サイトがあります。DFS 名前空間を使用することで、シナリオ 1 のソリューションを改善できます。

シナリオ 1 (オプション 1) では、DFS 名前空間を使用して、複数のサイトを同じサーバー上の異なるフォルダーにマッピングしました。同様の手法を使用して、名前空間のサブフォルダーを異なるサーバー上のフォルダーにマッピングできます。

理想的には、ユーザー アカウントを #department# のように同様のサイズのチャンクに分割する AD 属性が必要です。シナリオ 1 と同様に、#department# は常に定義され、正しいフォルダー名が含まれていることが保証されている必要があります。

シナリオ 1 と同様に、`\\MyCorp\Profiles` と呼ばれる NUS の名前空間を設定します。

この図は、名前空間の設定方法を示しています。



セットアップが完了したら、 設定を次のように構成します。

`\\MyCorp\Profiles#l##department#`

この構成では、Wagga Wagga のユーザーは、両方ともローカルである 2 台の NUS サーバーに分散されます。

Profile Management を使用したフォルダーリダイレクトの計画

Profile Management はフォルダーリダイレクトをサポートしており、その使用が推奨されます。

Active Directory (AD) を使用すると、アプリケーションデータやドキュメントなどのフォルダーをネットワーク上の場所に保存（リダイレクト）できます。フォルダーの内容はリダイレクトされた場所に保存され、ユーザープロファイルには含まれないため、プロファイルのサイズが削減されます。AD のバージョンによっては、一部のフォルダーはリダイレクトできますが、他のフォルダーはできません。さらに、フォルダーリダイレクトを構成することで、強制プロファイルを使用するユーザーでも、プロファイルの使用を制限しながら一部の設定、ファイル、その他のデータを保存できます。

一般的なガイドラインとして、ネットワーク帯域幅が許す限り、セッション中に定期的にアクセスされないすべてのユーザーデータに対してフォルダーリダイレクトを有効にすることをお勧めします。

リダイレクト可能なすべてのフォルダーが AD でアクセスできるわけではありません。特定のオペレーティングシステムでリダイレクト可能なフォルダーは、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User Shell Folders` のレジストリにあります。

フォルダーリダイレクトに関する重要な情報

Profile Management でフォルダーリダイレクトを使用する際の以下の重要な点に注意してください。

- XenDesktop 7 では、Citrix Virtual Desktops™ ポリシーを使用して、Studio でリダイレクトするフォルダーを指定します。詳しくは、Citrix Virtual Desktops のドキュメントを参照してください。
- フォルダーリダイレクトを正常に構成するには、バージョン 1 とバージョン 2 のプロファイル間のフォルダー構造の違いに注意してください。
- フォルダーリダイレクトを使用する際のセキュリティに関する考慮事項については、Secure および Microsoft TechNet Web サイトの「Folder Redirection Overview」を参照してください。
- ユーザー ストアは、リダイレクトされたフォルダーに使用される共有とは異なるものとして扱います。
- リダイレクトされたフォルダーを除外リストに追加しないでください。

サードパーティのディレクトリ、認証、およびファイルサービス

この記事では、Microsoft が提供するサービス以外のディレクトリ、認証、およびファイルサービスに対するサポートについて説明します。

ディレクトリサービス

重要: Active Directory (AD) は、Profile Management の運用に不可欠です。その他のディレクトリサービスはサポートされていません。これらのサービスには以下が含まれます。

- ノベル イーディレクトリ。
- Windows 2000 Server またはそれ以前のオペレーティングシステム (OS)。Windows 2000 Server は AD をサポートしていますが、必要なレベルではありません。詳細については、「Profile Management でのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。Microsoft Windows NT 4.0 は AD より前のものです。
- Samba 4 またはそれ以前。

認証サービス

その他の認証サービスは、ドメイン内で AD と共存できますが、Profile Management ではサポートされていません。その理由は、Profile Management Service と同様に、これらのサービスが winlogon.exe と相互作用し、ユーザーログオンプロセスに問題を引き起こす可能性があるためです。たとえば、Novell の認証サービスは、ユーザーがプリンターやファイル共有などの Novell リソースにアクセスすることを許可しますが、サポートされていません。

ファイルサービス

サードパーティのファイルサービスは、ユーザーストアおよびフォルダーリダイレクト (使用されている Windows オペレーティングシステムでサポートされている場合) に使用できます。ファイルサーバーは、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) タイプであり、NTFS ファイルシステムをサポートしている必要があります。これらの理由により、以下がサポートされています。

- ウィンドウズ サーバー 2003 以降
- サンバ 3

重要: Novell ディレクトリに対する認証が必要なため、Novell ファイルサービスはサポートされていません。

複数のプラットフォームでのプロファイルとProfile Managementの移行に関するFAQ

このセクションには、複数のWindowsオペレーティングシステム、または単一オペレーティングシステムの複数のバージョンやビット数を持つ環境でプロファイルを使用することに関する質問と回答が含まれています。

プロファイルとの互換性の問題を確実に回避するにはどうすればよいか?

異種環境をサポートする必要性と、ユーザーとそのデバイスを追跡するためのパーソナライズ設定の必要性とのバランスを取ります。通常、これら2つのニーズ間のバランスは、管理者とIT部門によってのみ決定できます。ユーザープロファイルを次のように調整することで、異なるシステムを管理します。プロファイルがローミングする場合、問題は適切に処理されるか、必要に応じて設定が完全に無視され、まったく追跡されないようにする必要があります。これは、多くのサードパーティ製ソフトウェアソリューションの基礎となっています。

トラブルシューティングを最小限に抑えるには、同じデバイス設定（インストールされているアプリケーション、OSバージョンなど）間でプロファイルをローミングするようにしてください。しかし、現代の多くのシナリオでは、これは容易に達成できず、不完全なユーザーエクスペリエンスにつながります。たとえば、ユーザーは複数のオペレーティングシステムを使用しているからといって、お気に入りやマイドキュメントを複製する必要はありません。このような場合、管理者はフォルダーリダイレクトを使用することで、ユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。このMicrosoft機能の使用は、他のシナリオでも推奨されます。

異なるシステム間でプロファイルを共有できるか?

Citrixでは、プラットフォームごとに1つのベースプロファイルを持つことを推奨しています。これは必ずしもオペレーティングシステムごとに1つのプロファイルと同じではありません。この推奨事項の詳細については、「複数のプラットフォームの計画」を参照してください。これにより、互いに機能しない可能性のある設定や、特定のOSに適用されない設定の数が最小限に抑えられます。たとえば、デスクトップの電源設定は、サーバーシナリオやリモートデスクトップサービス（旧称ターミナルサービス）を含むシナリオには適用されません。

プロファイルの数を簡素化して減らそうとし、それらが複数のOSで使用されるようになると、設定の競合のリスクが高まります。システムが同じでない場合、これはさらに複雑になります。たとえば、Microsoft Officeのアドインはすべてのデバイスに存在するとは限りません。幸いなことに、特定のデバイスに適用されないこのような設定は、多くの場合無視されます。無視されない場合にサポートの問題が発生します。アドインが存在しない場合、Microsoft Excelは起動に失敗します。

プロファイル管理は、複数のバージョンまたはプラットフォーム間で設定をどのように有効にしますか?

Citrix®は、複数のベースプロファイル間で共通設定をローミングする機能を提供します。Citrixは、Microsoft Office、Internet Explorer、壁紙などの設定のローミングを可能にします。これらの種類のシナリオをサポートする能力は、アプリケーションがプラットフォーム間の設定のローミングをどの程度サポートしているかによって制限されます。次の質問のリンクは、Microsoftの立場とベストプラクティスをカバーしています。

Microsoftは、プラットフォームとバージョン間でローミングプロファイルをどのようにサポートしていますか?

関連情報については、「ローミングユーザープロファイルの展開」を参照してください。

Office 2007のツールバー設定については、「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

標準のMicrosoft Windowsプロファイルソリューションが技術的、カスタム、またはビジネス要件を完全に満たさない場合、Profile Managementは実行可能なソリューションとなります。

x86プラットフォームとx64プラットフォーム間でプロファイルを共有することは可能ですか?

Windows x86 と x64 間で 1 つのプロファイルを共有することは一般的に機能する可能性がありますが、いくつかの問題が発生する可能性があります。

いくつかの理由があります。たとえば、その理由の 1 つは、使用ごとのファイルの関連付けが `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes` に保存されることです。非管理者が Firefox を既定のブラウザーとして設定すると、32 ビットシステムに次が保存されます。

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes\FirefoxHTML\shell\open\command` -\> " `C:\Program Files\Mozilla Firefox\firefox.exe` " -リクエスト保留中 -OS情報 -URL "%1"

このパスを含むプロファイルが Windows x64 で使用されると、OS は Firefox の 64 ビットバージョンを探しますが、これは存在しません。代わりに、32 ビットバージョンが `C:\Program Files (x86)\Mozilla Firefox` にインストールされている可能性があります。これにより、ブラウザーが起動しなくなります。

逆もまた同様です。パスは x64 プラットフォームで設定されますが、x86 プラットフォームで使用されます。

複数のプラットフォームで 1 つのプロファイルがどのように動作するかをテストしたいです。どこから始めればよいですか?

複数のプラットフォームで 1 つのプロファイルを使用する実験を行うには、テストと検証が重要です。推奨されるアプローチは、プラットフォームごとに 1 つのプロファイルを持つことです。単一のプロファイルが複数のプラットフォームでどのように動作するかを調べたい場合は、次の情報が役立つかもしれません。

次の質問に答えることで、何が問題を引き起こす可能性があるかを特定することから始めます。このトピックの残りの質問を、問題への対処と追跡のアイデアとして使用してください。

プラットフォーム間で機能する項目:

- マイドキュメントとお気に入り
- 構成情報 (既定値を含む) をプロファイル内に完全に保存するアプリケーション

機能しない可能性のある項目:

- ハードコードされたデータ、パスデータなどを保存するアプリケーション
- x64 または x86 プラットフォームに固有の設定
- すべてのシステムに存在するわけではない Excel アドインなど、同一ではないアプリケーションのインストール。これらのインストールは、アプリケーションによって異なるあらゆる種類のエラー状態を引き起こす可能性があります。

ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができますか?

はい。Profile Managementは、ローカルデスクトップ、Citrix Virtual Apps、Citrix Virtual Desktops™、またはこれらの任意の組み合わせに基づいてプロファイルを適用できます。

適切なProfile Management設定が有効になっている場合、Remote Desktop Services（旧Terminal Services）プロファイルは、ユーザーがTerminal ServerまたはCitrix Virtual Apps™セッションを持っている場合にのみ使用されます。この設定は、ユーザーがRemote Desktop Servicesセッションを介してログオンするときに、既存のプロファイル（Citrixユーザープロファイルを除く）をすべて上書きします。

Windows 7では、GPOコンピューター設定を使用して、ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます。繰り返しになりますが、これはGPに基づいているため、プロファイルの割り当てはGPOが適用されるOUに依存します。

コンピューターに基づくプロファイルの割り当てが望ましいのはなぜですか?

異なるユーザーエクスペリエンスが必要な場合、ユーザーがログオンするコンピューターにプロファイルを割り当てることは非常に有用です。たとえば、管理者は、Remote Desktop Services（旧Terminal Server）セッションで使用されるプロファイルを、デスクトップで使用されるプロファイルとは別に保持することを決定する場合があります。

Profile ManagementはWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行しますか?

Profile Managementを構成して、ユーザーがログオンするときに既存のローミングプロファイルとローカルプロファイルを自動的に移行できます。また、テンプレートプロファイルまたはデフォルトのWindowsプロファイルを新しいCitrixユーザープロファイルのベースとして使用することもできます。

Profile Managementの移行の計画と設定については、プロファイルの移行？新しいプロファイル？を参照してください。ソフトウェアがWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する方法の詳細については、ログオン図を参照してください。

どのプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行できますか?

Profile Managementは、Windowsローカルプロファイルと Windowsローミングプロファイルを移行できます。必須プロファイル（.manファイル）はProfile Managementによって無視されますが、Citrixユーザープロファイルのテンプレートとして使用できます。Profile Managementが正しく機能するように、すべてのユーザーへの必須プロファイルの割り当てを無効にしてください。

既存のWindows必須プロファイルをテンプレートとして使用するには、テンプレートまたは必須プロファイルの指定を参照してください。

テンプレートプロファイルを使用するにはどうすればよいですか?

Profile Managementでは、新しいCitrixユーザープロファイルの作成の基礎として使用されるテンプレートプロファイルを指定できます。通常、初めてプロファイルを割り当てられたユーザーは、ログオンするWindowsデバイスのデフォルトユーザープロファイルを受け取ります。これは許容できるかもしれませんが、異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルのバリエーションが、ユーザーのために作成されるベースプロファイルの違いにつながることを意味します。したがって、テンプレートプロファイル機能をグローバルなデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

ユーザーがプロファイルデータに変更を加えるのを防ぎたい場合は、テンプレートプロファイルをCitrix必須プロファイルとして識別することもできます。

詳細については、テンプレートプロファイルまたは必須プロファイルを指定するを参照してください。

インストールとセットアップ

ダウンロードに含まれるファイル

このリリースには、以下のファイルが含まれています。

ファイル名	説明
profilemgt_x86.msi	32ビットシステム用インストーラー
profilemgt_x64.msi	64ビットシステム用インストーラー
`GPO\ctxprofile5.1.0.adm`	グループポリシーで使用される`.adm`ファイル
`GPO\ctxprofile5.1.0.admx`	グループポリシーで使用される`.admx`ファイル
`GPO\ctxprofile5.1.0.adml`	グループポリシーで.admxファイルとともに使用される`.adml`ファイル
welcome.html	ドキュメントリソースのリスト
`CrossPlatform*.xml`	サポートされるアプリケーションの定義ファイル

DLLやその他のファイルに加えて、以下のファイルに注意してください。インストール場所（デフォルトでは`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager`）にあるインストーラーがこれらのファイルを作成します。

ファイル名	説明
UPMPolicyDefaults_all.ini	Profile Management .iniファイル
UserProfileManager.exe	Profile Managementによって管理されるコンピューター上で機能を実行するWindowsサービス

ユーザーストアを作成する

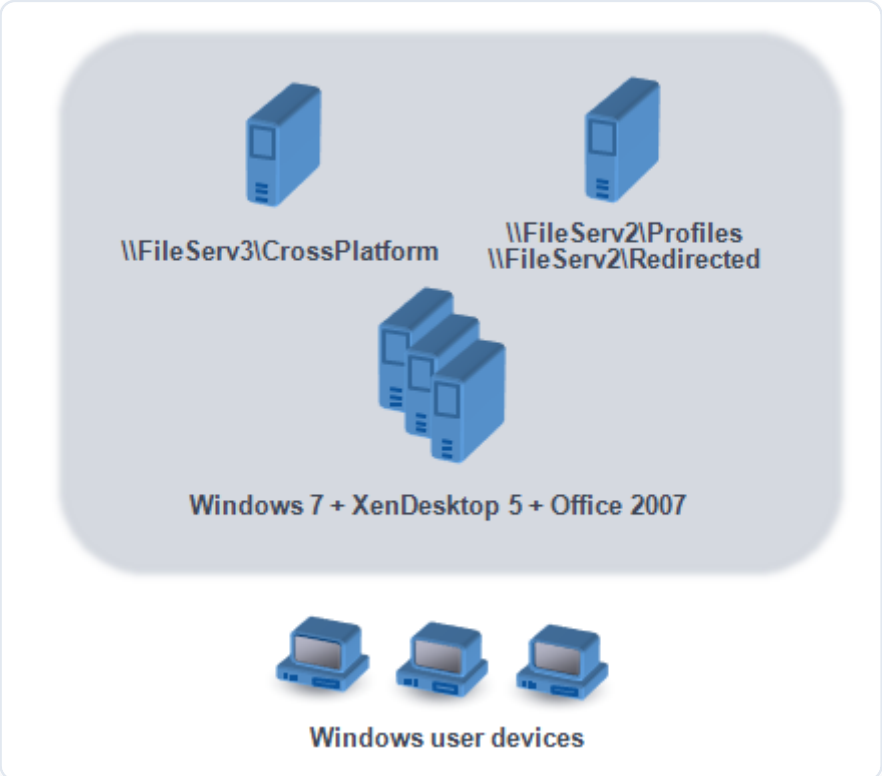
このトピックでは、組織に最適な方法でユーザーストアを作成する方法について説明します。ここにある情報を確認するだけでなく、ユーザーストアへのパスを可能な限り効率的に構成するようにしてください。たとえば、変数を適切に使用してパスを構成します。この件に関するアドバイスと例については、「ユーザーストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザーストアは、Citrix®ユーザープロファイルを保存するための中央ネットワークロケーションです。

任意のServer Message Block（SMB）またはCommon Internet File System（CIFS）ファイル共有をユーザーストアとして使用できます。ベストプラクティスは、次のことを確認することです。

- 共有がCitrixユーザープロファイルで使用されるアカウントからアクセス可能であること。
- 共有がプロファイルデータを保存するのに十分な大きさであること。
- ディスクまたはネットワーク障害が発生した場合に共有が堅牢であること。

この図は、リダイレクトされたフォルダーアイテムのストレージ、クロスプラットフォーム設定ストア（別のファイルサーバー上）、およびCitrix Virtual Desktops™で公開されMicrosoft Officeを実行しているWindows 7仮想デスクトップに関連するユーザーストアの例を示しています。仮想デスクトップにアクセスするユーザーデバイスも参考として示されています。



セキュアなユーザーストアの作成に関する推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「移動ユーザープロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限

の推奨事項は、基本的な操作に対して高レベルのセキュリティを保証します。また、ユーザーストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザープロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

展開に複数のプラットフォームが含まれる場合は、「複数のプラットフォームの計画」でバージョン1およびバージョン2のプロファイルタイプに関する情報を確認してください。ユーザーストアの構造については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

注： アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのアクセス制御リスト（ACL）を変更しても、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアに複製しません。この動作はWindowsの移動プロファイルと一貫しています。

ローカルGPOでProfile Managementをテストする

本番環境にProfile Managementを展開する前に、Citrix®はテスト環境を使用することを推奨します。この設定は、提供されている.iniファイルを使用してローカルマシンで作成できます。設定をドメインGPOに転送するための完全にサポートされたより簡単な方法は、デバイスへのADMファイルのローカルインストールと構成に基づいています。ログオンおよびログオフの動作をテストし、満足のいく結果が得られるまでローカルGPOを調整します。デバイスが本番OUのメンバーである場合、この方法で安全にテストを実行できます。その理由は、OUおよびドメインポリシーが存在しないか、構成されていない場合にローカルポリシーが呼び出されるためです。ローカルポリシーを使用する場合は、他の場所（たとえば、ドメインやサイトなど）でProfile Management GPOが使用されていないことを確認してください。

さらに、管理者がProfile Management ADMファイルの構成のためにドメインGPOへのアクセスまたは制御を持たない場合、ローカルGPOを長期的なソリューションとして使用できます。ただし、この方法は環境に複雑さをもたらします。たとえば、Profile Management ADMファイルが各デバイスにインストールされ、構成されていることを確認する必要があります。また、ドメインユーザーが複数のデバイスにアクセスする際に設定を維持できない可能性があります。

重要: これらの理由から、CitrixはローカルGPOを長期的なエンタープライズソリューションとして使用することを推奨しません。

Windows 2008ドメインコントローラーでテストしている場合は、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルターを使用して、構成を一時的にOU内の1台のマシンのみに制限することを検討してください。

ユーザーエクスペリエンスをテストする

プロファイルソリューションを実装する際の目標は、さまざまなデバイスからリソースにアクセスする際のエンドユーザーエクスペリエンスの違いを最小限に抑えることです。Profile Management以前は、ユーザーのレジストリとファイルの内容は、物理デバイス、プロファイル構成、およびオペレーティングシステムによって異なる場合があります。このため、Profile Managementは、ユーザーがローミングするコンピューター上のシステムインストール間の違いに対処するように構成する必要があります。

したがって、本番環境を模倣する方法で、ユーザーのリソースへのアクセスを確認する必要があります。これらのリソースには以下が含まれる場合があります。

- ローカルにインストールされたアプリケーションを持つクライアントデバイス
- Citrix Virtual Desktops™で作成され、ストリーミングまたはローカルにインストールされたアプリケーションを含む仮想デスクトップ
- Citrix Virtual Appsサーバーで公開またはストリーミングされたCitrix Virtual Apps™アプリケーション
- ターミナルサービスクライアント

オペレーティングシステムのバリエーションをテストする

ユーザーは異なるオペレーティングシステムからアプリケーションにアクセスする場合があります。それらの間のバリエーションは、単一のユーザープロファイル内で競合する設定を作成する可能性があります。バージョン1とバージョン2のプロファイルの違い、およびそれらが展開にどのように影響するかを理解する必要があります。これらのバリエーションは、あらゆるプロファイルソリューションの鍵となります。バージョン1とバージョン2のプロファイルの詳細は、「プロファイルについて」を参照してください。

アップグレードと移行

Profile Management のアップグレード

この記事では、Active Directory を使用して Profile Management の展開をアップグレードする方法について説明します。

重要：このアップグレードプロセスでは、手順の順序に従うことが重要です。新しい .adm または .admx ファイルをグループポリシーに追加した後にのみ、すべてのコンピューターのソフトウェアをアップグレードしてください。事前にアップグレードすると、ログファイルが2つの場所に保存される可能性があります。1つは古いバージョンのログファイルを含み、もう1つは新しいバージョンのファイルを含みます。この考慮事項は、特に Citrix Virtual Desktops™ の展開に影響します。

また、アップグレードはスケジュールされたメンテナンス期間中に行うことも重要です。または、Active Directory のレプリケーションによって変更が展開全体に伝播される時間帯にアップグレードしてください。通常、アップグレードには最大24時間かかることがあります。

アップグレードプロセスには以下が含まれます。

1. グループポリシーオブジェクト (GPO) を作成し、新しい .adm または .admx ファイルを新しい GPO に追加する

   \- または -

   以下の手順1で説明されているように、既存の .adm または .admx ファイルをアップグレードする.
2. 以下の手順2で説明されているように、すべてのコンピューターの .msi ファイルをアップグレードする.
3. GPO を適用する.

既存の .adm ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management .adm ファイルがグループポリシーに存在する場合、以下の手順を使用してアップグレードできます。アップグレード時に、以前のバージョンのすべてのポリシー設定は保持されます。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

   - 既存の .adm ファイルをインポートします。このファイルは、ダウンロードパッケージの GPO_Templates フォルダーにあります。
   - ダウンロードパッケージの GPO_Templates フォルダーから .admx ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions` フォルダーにコピーし、.adml ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized` フォルダーに\>コピーします。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\> は en-US です。

2. Profile Management を構成するために使用するコンピューターで、グループポリシーオブジェクトエディターを開きます。
3. グループポリシーオブジェクトエディターで、**管理用テンプレート**を右クリックし、**テンプレートの追加と削除**を選択します。
4. 既存バージョンの Profile Management .adm ファイル（例: ctxprofile5.4.1）を選択し、**削除**をクリックしてから**閉じる**をクリックします。Administrative Templates\\Citrix フォルダーが削除されます。
5. **管理用テンプレート**を右クリックし、もう一度**テンプレートの追加と削除**を選択します。
6. **追加**をクリックし、新しいバージョンの .adm または .admx ファイルの場所（例: ctxprofile5.5.0）を参照して選択し、**閉じる**をクリックします。新しいファイルがインポートされますが、古い設定は保持されます。

.msi ファイルをアップグレードするには

Citrix® は、すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、その同じバージョンの .adm または .admx ファイルをすべてのドメインコントローラーの各グループポリシーオブジェクトに追加することを推奨します。これにより、異なるユーザーストア構造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

Citrix は、新しい設定を有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンの Profile Management にアップグレードすることを推奨します。使用しているバージョンで設定が新しいかどうかを確認するには、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

1. アップグレードするコンピューターからすべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. 各コンピューターで .msi ファイルを実行して、既存のバージョンに新しいバージョンの Profile Management をインストールします。詳しくは、「インストールとセットアップ」を参照してください。

.ini ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management で .ini ファイルを編集し、新しいバージョンにアップグレードします。ソフトウェアはファイルが編集されたことを検出し、デフォルトでは上書きしません。.ini ファイルの設定を保持し、新しいバージョンの新しい設定を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しいバージョンの .ini ファイルから新しい設定を、既存の編集済み .ini ファイルに手動で追加します。
- 既存の編集済みバージョンの .ini ファイルのコピーを保存します。アップグレード中にファイルを強制的に上書きするには、OVERWRITEINIFILES=yes コマンドラインオプションを使用します。保存した設定をアップグレードされた .ini ファイルに追加します。例:

  msiexec /i \<MSI ファイルへのパス\> /quiet \[INSTALLDIR=\<インストールディレクトリ\>\] \[OVERWRITEINIFILES=yes\] \[INSTALLPOLICYINIFILES=no\]

注

HDX™を介してProfile Managementポリシーを設定するには、次の操作を行う必要があります。

- Delivery Controllerをアップグレードします。その理由は、HDXがXenAppおよびXenDesktopレイアウト `image-full\x64\Citrix Desktop Delivery Controller` にあるUserProfileManager_PowerShellSnapIn.msiファイルからProfile Managementポリシー設定を読み取るためです。
- VDAをアップグレードして、Profile Managementの最新バージョンを入手します。

その他のリソース

- Profile Managementポリシー
- インストールとセットアップ

構成

管理

重要: 以下のポリシーは通常、構成を必要としません。Citrix®の担当者から指示がない限り、デフォルト設定のままにしてください。

ポリシー: ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

このポリシーを有効にする必要性はほとんどありません。

During logoff, if there are any locked files, the Profile Management Service tries the specified number of times to access the files and copy them back to the user store. But typically the Service only reads (not writes to) the files for the copy operation to succeed. If any locked files exist, the Service does not delete the local profile and instead leaves it "stale" (as long as the appropriate policy was enabled).

Citrix は、このポリシーを有効にしないことを推奨します。

競合するプロファイルの解決

既存の展開にProfile Managementを追加すると、ローカルのWindowsユーザープロファイルとCitrix®ユーザープロファイル（ユーザーストア内）の間で競合が発生する可能性があります。このシナリオでは、ローカルのWindowsプロファイルのデータがどのように管理されるかを決定する必要があります。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. ポリシーをダブルクリックします。
3. を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

    - ローカルプロファイルを使用する。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを処理しますが、それを変更することはありません。
    - ローカルプロファイルを削除する。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを削除し、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

- ローカルプロファイルの名前を変更する。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的）、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

ここでが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

テンプレートまたは強制プロファイルを指定する

デフォルトでは、新しいCitrix®ユーザープロファイルは、ユーザーが最初にログオンするコンピューターのデフォルトユーザープロファイルから作成されます。Profile Managementは、プロファイル作成時に、代わりに一元的に保存されたテンプレートを使用できます。テンプレートは、任意のネットワークファイル共有に存在する標準の移動プロファイル、ローカルプロファイル、または強制プロファイルにすることができます。

異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルにばらつきがあると、ユーザー用に作成されるベースプロファイルに違いが生じます。テンプレートプロファイルの選択は、グローバルデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

前提条件：

- テンプレートプロファイルにユーザー固有のデータが含まれていないことを確認します
- ユーザーがテンプレートプロファイルへの読み取りアクセス権を持っていることを確認します
- 強制プロファイルをテンプレートプロファイルに変換するには、ファイルNTUSER.MANの名前をNTUSER.DATに変更します
- テンプレートプロファイルのNTUSER.DATからSACLを削除します

既存のMicrosoftプロファイルをカスタマイズしてテンプレートプロファイルを作成する方法については、`<https://support.microsoft.com/kb/959753>`および`<https://support.microsoft.com/kb/973289>`を参照してください。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. ポリシーをダブルクリックします。
3. を選択します。

4. で、テンプレートまたは強制プロファイルとして使用するプロファイルの場所を入力します。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーへの完全なパスです。

   重要：パスがNTUSER.DATのみで構成されている場合、パスにファイル名を含めないでください。たとえば、ファイル`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`の場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。

   絶対パスを使用します。これはUNCパスまたはローカルマシン上のパスのいずれかです。後者は、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージ上にテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

   このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。

5. オプションで、既存のWindowsユーザープロファイルを上書きするチェックボックスを選択します。ユーザーがCitrixユーザープロファイルを持たず、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。そして、これが無効になっていない場合、このファイルはユーザーストアに移行されます。設定を変更するには、「テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする」または「テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする」チェックボックスを有効にします。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別します。Windows強制プロファイルと同様に、Citrix強制プロファイルには変更を保存できません。

ここで**テンプレートプロファイル**設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートまたは強制プロファイルは使用されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

移行ポリシーを選択する

Profile Managementが有効になった後、ユーザーが初めてログオンするとき、そのユーザーのCitrix®ユーザープロファイルは存在しません。しかし、ログオン中に既存のWindowsユーザープロファイルを「オンザフライ」で移行できます。既存のどのプロファイル（ローミング、ローカル、またはその両方）をコピーして、その後のすべての処理で使用するかを決定します。

移行戦略の計画に関する詳細については、プロファイルを移行しますか？新しいプロファイルですか？を参照してください。さらに、既存のプロファイルを移行するためのシステム要件をシステム要件で確認してください。

1. Profile Managementの下で、「プロファイル処理」フォルダーを開きます。
2. 「既存プロファイルの移行」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「有効」を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

    - ローカル。ローカルプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローカルとローミング。ローカルプロファイルとローミングプロファイル（以前はターミナルサービスプロファイルとして知られていたリモートデスクトップサービスプロファイルを含む）を移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローミング。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。

もし ここで既存プロファイルの移行が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルが移行されます。この設定が無効になっている場合、プロファイルは移行されません。この設定が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、Profile Managementを使用しないセットアップと同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

プロファイル管理を有効にする

デフォルトでは、展開を容易にするため、プロファイル管理はログオンまたはログオフを処理しません。プロファイル管理は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように機能するかをテストした後にのみ有効にしてください。

グループポリシーを使用してプロファイル管理を有効にするには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理**で、**プロファイル管理を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。

3. **有効**を選択します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルを使用してプロファイル管理を有効にすることもできます。これを行うには、次の手順に従います。

1. プロファイル管理がインストールされているマシンで、`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager\UPMPolicyDefaults_all.ini`に移動します。
2. メモ帳を使用してUPMPolicyDefaults_all.iniを開きます。
3. 構成を編集して、特定の要件を反映させます。

この設定がグループポリシーで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、プロファイル管理はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

次の方法でプロファイル管理を有効にすることもできます。

- Citrix Studio。Citrix Studioを使用してプロファイル管理を有効にする方法については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。
- Workspace Environment Management (WEM)。WEMを使用してプロファイル管理を有効にする方法については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

構成の優先順位

Profile Managementは、グループポリシーと.iniファイルを使用して構成できます。構成設定は次のように適用されます。

1. グループポリシーで定義された設定が優先されます。ポリシー設定が**未構成**に設定されている場合にのみ、.iniファイルが照会されます。

   注： 組織単位内のサイトおよびドメインにグループポリシーオブジェクトを選択的に適用する場合、さらに優先順位が適用されます。「グループポリシー：フィルタリングとアクセス許可」を参照してください。ドメインおよびOUグループポリシーは、ローカルポリシーよりも優先されます。
2. 設定がポリシーによって定義されていない場合、Profile Managementは.iniファイルから設定を読み取ろうとします。

3. 設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト設定が使用されます。

XenDesktop 7の展開では、Citrix Virtual Desktopsポリシーによって導入される追加の優先順位に注意してください。詳細については、Citrix Virtual Desktopsドキュメントのトピック「ユーザープロファイル」を参照してください。

グループポリシーと.iniファイルで同じ設定を異なる方法で構成したい場合があります。たとえば、グループポリシー設定でデフォルトのログ記録を有効にし、トラブルシューティングに使用するコンピューターで.iniファイルを使用して詳細なログ記録を有効にする場合などです。

Profile Management .ini ファイルについて

デフォルト構成

Profile Management には、.ini ファイルに保存されているデフォルト構成が付属しています。このファイルは、Profile Management Service が認識できるようにインストールフォルダーに配置する必要があります。デフォルト構成は、ほとんどの環境に適しています。すべてのグループのすべてのユーザーのプロファイルを処理します。

Windows XP または Windows Server 2003 で英語以外の Profile Management 展開を使用している場合は、UPMPolicyDefaults_all.ini を使用して、.ini ファイルの適切な言語バージョンを作成する必要があります。このファイルのコピーを、お使いの言語を反映するように名前変更し（たとえば、スペイン語の場合は UPMPolicyDefaults_all_es.ini）、フォルダー名をローカライズします。次のファイル名を使用します。

- フランス語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_fr.ini
- ドイツ語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_de.ini
- スペイン語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_es.ini
- 日本語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_ja.ini
- 簡体字中国語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_zh-CN.ini

.ini ファイルの変更

.ini ファイルにエントリを追加する場合は、変数と値が正しい形式であることを確認してください。

フラグ（オン/オフインジケーター）は、次の形式である必要があります。

```
<variable>=<value>
```

値が 1 の場合は設定が有効になり、その他の値または値がない場合は無効になります。たとえば、次のエントリは `ServiceActive` 設定を有効にします。

```
ServiceActive=1
```

次のいずれかのエントリは、設定を無効にします。

```
ServiceActive=ON

ServiceActive=OFF

ServiceActive=TRUE

ServiceActive=FALSE

ServiceActive=
```

リストエントリは、次の形式である必要があります。

```
<value>=
```

次のエントリは、同期するMicrosoft Officeファイルを指定します。

```
[SyncFileList]

AppData\Local\Microsoft\Office\*.OfficeUI
```

グループポリシー設定への変更は、ターゲットコンピューターで手動または自動のポリシー更新が行われたときに有効になります。.iniファイルへの変更は、推奨されている `gpupdate /force` コマンドを発行したときに有効になります。または、ターゲットコンピューターでProfile Managementサービスを再起動したときに変更が有効になります。

アイテムの包含と除外

このトピックでは、Profile Managementがユーザープロファイルからアイテムを包含および除外するために使用するプロセスについて説明します。ログオンおよびログオフエクスペリエンスを向上

させるために、デフォルトの包含リストまたは除外リストを変更することを決定した場合は、このプロセスを理解していることを確認してください。この変更が必要かどうかを判断するには、「どのアプリケーションか？」を参照してください。

たとえば、Microsoft Wordは高度にカスタマイズ可能で頻繁に使用されるアプリケーションであり、アクセス方法に関わらずローミングユーザーに同じエクスペリエンスを提供できるため、包含する場合があります。逆に、一部のグループではめったに使用されないエンタープライズアプリケーションは、ログオンおよびログオフのたびにプロファイルデータをダウンロードする必要がないため、除外する場合があります。

デフォルトでは、ローカルプロファイル内のすべてのファイルとフォルダーはユーザー ストアと同期されます。同期したくないファイルとフォルダーは、除外リストに追加することで指定できます。フォルダーを除外した場合でも、同期したいサブフォルダーは包含リストに追加することで指定できます。

包含および除外できるもの:

- プロファイル内に含まれるファイルとフォルダー。
- 個人設定を保存するHKCUハイブのレジストリエントリ。HKLMハイブのエントリはデフォルトでは処理されず、そのように構成することもできません。

アイテムを包含および除外する前に

ユーザープロファイルの内容を調整する前に、組み込みのWindowsパフォーマンスモニター (Perfmon) カウンターのセットを使用することを検討してください。これらはプロファイルの動作に関する洞察を提供します。利用可能なカウンターには、プロファイルサイズとローカルコンピューターでCitrix®ユーザープロファイルを作成するのにかかる時間の測定値が含まれます。

プロファイルをローカルにキャッシュするかどうか（Profile Managementを実行するコンピューター上）を決定する必要がある場合があります。この決定に影響する要因には、展開内のCitrix製品、ローカルコンピューター上の利用可能なスペース、および展開内のユーザー数などがあります。

ファイルとフォルダー

包含および除外されるすべてのフォルダー名は言語固有です。ただし、ユーザー ストア内のフォルダー名は、オペレーティング システムの言語に依存しない形式です。

オペレーティングシステムによってローカルとして扱われるディスク上のファイルまたはフォルダーを同期できます。ネットワークマップされたドライブ上のファイルまたはフォルダーは同期できません。

レジストリ

既存のユーザーの場合、HKCUハイブ全体がユーザー ストアにコピーされます。新規ユーザーの場合、Microsoftのローカル、ローミング、デフォルト、またはテンプレートプロファイルのハイブがコピーされます。ユーザー ストアに変更が加えられると、包含が追加され、除外がハイブから削除されます。

不要なキーを含むテンプレートプロファイルがある場合は、Sepago の Profile Nurse などのツールを使用して、それらをユーザー ストアから削除します。

除外について

除外はログオン時ではなくログオフ時に処理されます。これらはユーザー ストアからデータを削除するのではなく、新しいデータが書き込まれるのを防ぎます。

デフォルトの除外を除いて、通常、Profile Management を初めて展開するときに項目を除外する必要はありません。その後、アプリケーションのパフォーマンスを追跡し、ユーザーからのフィードバックを収集するにつれて、複数のアプリケーションの設定が競合する場合や、不要な設定を収集した結果、ユーザーの NTUSER.DAT ファイルが大きくなった場合に、項目を除外する必要があるかもしれません。

リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。

重要: Citrix は、`AppData\LocalLow` フォルダーを同期から除外することを推奨しています。デフォルトの構成では、除外リストにすでに `AppData\LocalLow` が含まれています。`AppData\Local` フォルダーから一部のコンテンツを除外することも選択できます。`AppData\LocalLow` または `AppData\Local` を除外しない場合、大量のデータがネットワーク経由で転送され、ユーザーはログオンの遅延を経験する可能性があります。これらのフォルダーは、標準の Windows ローミング プロファイルでは同期されません。

含めるルールと除外するルール

Profile Management がファイル、フォルダー、およびレジストリ キーを含めたり除外したりする際に、以下のルールが使用されます。

1. すべての項目はデフォルトで含まれます
2. 同じパスが含める項目と除外する項目の両方として構成されている場合、含める項目が優先されます
3. 同じフォルダー内では、含める項目が除外する項目よりも優先されます
4. フォルダー階層の上位にある除外する項目よりも、含める項目が優先されます
5. フォルダー階層の上位にある含める項目よりも、除外する項目が優先されます

これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。この出発点から、最上位の例外を除外として構成し、次に最上位の例外に対するより深い例外を含める項目として構成するといったことができます。

デフォルトの包含と除外

このトピックでは、Profile Management が処理に含めるデフォルトの項目と、処理から除外するデフォルトの項目について説明します。展開内のアプリケーションによっては、追加の (デフォルト以外の) 項目が必要になる場合があります。含めるまたは除外する追加項目を決定するには、「どのアプリケーションですか？」を参照してください。

重要: .ini ファイルではなくグループポリシーを使用する場合 (または、.ini ファイルでのテストが成功した後にグループポリシー展開を展開する場合)、インストールされている .ini ファイルとは異なり、.adm または .admx ファイルではデフォルトで項目が含められたり除外されたりすることはありません。デフォルトの項目は手動でファイルに追加する必要があります。これらの項目は、このトピックの表に示されています。次の点に注意してください。

- .ini ファイルと .adm または .admx ファイルの設定名をマッピングし、Profile Management 変数 (例: \!ctx_internetcache\!) がどのように展開されるかを理解するには、「Profile Management ポリシー」を使用します。
- .ini ファイルから包含と除外を貼り付ける際は、各項目の末尾の = (等号) を削除してください。
- 包含と除外の先頭にバックスラッシュを追加しないでください。

レジストリ包含リスト

デフォルト値
空

レジストリ除外リスト

デフォルト値
`Software\Microsoft\AppV\Client\Integration=`
`Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing=`
`Software\Microsoft\Speech_OneCore=`

注: Microsoft App-V を使用している場合、この除外は正しくなく、 Profile Management と App-V に記載されているように、異なる除外が必要です。

フォルダー包含リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のすべてのフォルダーは、デフォルトで含まれます。

フォルダー除外リスト

この表のフォルダーは、同期から除外されます。

デフォルト値
!ctx_internetcache!=
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cache=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cached Theme Images=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIcons=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsOld=`
`\\!ctx_localappdata!\GroupPolicy=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\AppV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Messenger=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Office\15.0\Lync\Tracing=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\OneNote=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Terminal Server Client=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\UEV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live=`

デフォルト値
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live Contacts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Application Shortcuts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Burn=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\CD Burning=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Notifications=`
`\\!ctx_localappdata!\Packages=`
`\\!ctx_localappdata!\Sun=`
`\\!ctx_localappdata!\Windows Live=`
`\\!ctx_localsettings!\Temp=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Microsoft\AppV\Client\Catalog=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\cache=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\log=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\tmp=`
$Recycle.Bin=
`AppData\LocalLow=`
トレース=

ファイルインクルージョンリスト

既定値
<空>

プロファイル内のすべてのファイルは、デフォルトで含まれます。

ファイル除外リスト

既定値
<空>

プロファイル内のファイルは、デフォルトでは除外されません。

項目を含める/除外する

前提条件として、包含と除外の仕組みを理解していることを確認してください。詳細については、「項目を含める/除外する」を参照してください。デフォルトで含まれる項目と除外される項目については、「デフォルトの包含と除外」を参照してください。

項目を含めたり除外したりする際に、複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

項目を除外するには

1. **Profile Management** \> **Registry** の下で、**Exclusion list** ポリシーをクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. **Show** をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで同期したくないHKCUハイブ内のレジストリキーを追加します。例: `Software\Policies`。
4. **Profile Management** \> **File system** の下で、**Exclusion list - directories** ポリシーをダブルクリックします。
5. 「**Enabled**」を選択します。
6. **Show** をクリックし、Profile Managementで同期したくないフォルダーを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスを使用してフォルダーを指定し、パスの先頭のバックスラッシュは省略します。

     例:

     - `Desktop`。ユーザープロファイル内の `Desktop` フォルダーを同期しません。
     - `MyApp\tmp`。`%USERPROFILE%\MyApp\tmp` フォルダーを同期しません。

   - プロファイルの場所を特定するには変数 %USERPROFILE% を使用しますが、このポリシーに変数を直接入力しないでください。

7. **Profile Management** \> **File system** の下で、**Exclusion list - files** ポリシーをダブルクリックします。
8. 「**Enabled**」を選択します。
9. **Show** をクリックし、Profile Managementで同期したくないファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスでファイル名を指定します。このポリシーに変数を (%USERPROFILE%) 入力しないでください。
   - ワイルドカードは許可されていますが、ファイル名のみです。ワイルドカードは再帰的に適用されます。Profile Management 7.15以降、垂直バー `|` を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーに適用されないようにすることができます。

     例:

     - `Desktop\Desktop.ini`。Desktopフォルダー内のDesktop.iniを無視します。
     - `AppData*.tmp`。フォルダー `AppData` およびそのサブフォルダー内の拡張子.tmpを持つすべてのファイルを無視します。
     - `AppData*.tmp|`。フォルダー `AppData` 内の拡張子.tmpを持つすべてのファイルを無視します。

除外リストが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここまたは.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

除外リスト - ディレクトリが無効になっている場合、フォルダーは除外されません。ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここまたは.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

除外リスト - ファイルが無効になっている場合、ファイルは除外されません。ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここまたは.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、ファイルは除外されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

アイテムを含めるには

> **ヒント:**
>
> 特定のトップレベルフォルダーを含めることができます。共同作業環境では、この手順により、重要なフォルダーを他の管理者に通知できるという利点があります。

1. **Profile Management** \> **Registry** の下で、**インクルージョンリスト**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. **表示**をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで処理するHKEY_CURRENT_USERハイブ内のプロファイル関連のレジストリキーを追加します。例: `Software\Adobe`。
4. **Profile Management** \> **ファイルシステム** \> **同期** の下で、**同期するディレクトリ**ポリシーをダブルクリックします。
5. 「**Enabled**」を選択します。
6. **表示**をクリックし、除外されたフォルダー内にあるがProfile Managementで同期したいフォルダーを追加します。例: `Desktop\exclude\include` は、フォルダー `Desktop\exclude` が同期されていない場合でも、サブフォルダー `include` が同期されるようにします。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスを使用してフォルダーを指定します。
   - プロファイル管理は、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにユーザー プロファイルのサブフォルダーを追加して含める必要はありません。
7. **プロファイル管理** \> **ファイルシステム** \> **同期** の下で、**同期するファイル** ポリシーをダブルクリックします。
8. 「**Enabled**」を選択します。
9. **表示** をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、プロファイル管理で同期させたいファイルを追加します。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスでファイルを指定します。
   - ワイルドカードは使用できますが、ファイル名にのみ許可されます。ワイルドカードはネストできず、再帰的に適用されます。Profile Management 7.15以降では、垂直バー `|` を

使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーには適用されないようにすることができます。

例:

- `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`。デフォルト設定で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
- `AppData\Local\MyApp*.cfg`。プロファイルフォルダー `AppData\Local\MyApp` およびそのサブフォルダー内の、拡張子 .cfg を持つすべてのファイルを指定します。

- プロファイル管理は、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにユーザー プロファイル内のファイルを追加して含める必要はありません。

ここで **包含リスト** が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、HKEY_CURRENT_USER ハイブ全体が処理されます。

ここで **同期するディレクトリ** が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

ここで **同期するファイル** が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ワイルドカードの使用

ファイルを参照するポリシー（たとえば、ファイルの包含リストと除外リスト）では、疑問符 (`?`) やアスタリスク (`*`) などのDOS形式のワイルドカード文字を使用できます。疑問符 (`?`) は1文字に一致します。アスタリスク (`*`) は0文字以上に一致します。

Profile Management 7.15以降、垂直バー `'|'` を使用して、ポリシーをサブフォルダーに伝播せずに現在のフォルダーにのみ適用できます。

ワイルドカードは再帰的に機能します。ワイルドカードを使用する場合は、有効なパスを指定してください。

ワイルドカードをサポートするポリシーは、環境変数やActive Directory属性の使用など、他の種類の処理をサポートしていません。フォルダーまたはレジストリエントリを参照するポリシーでは、ワイルドカードを使用できません。

例

ワイルドカード `<path name>\h*.txt` は house.txt、h.txt、および house.txt.txt に一致しますが、ah.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c.txt` は abc.txt に一致しますが、ac.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c*d.txt` は abcd.txt および abccd.txt に一致しますが、acd.txt には一致しません。

プロファイルルートフォルダーでのポリシーの構成: `*.txt` は、ルートフォルダーおよびサブフォルダー内の拡張子 .txt を持つすべてのファイルを指定します。

`*h.txt` は、ルートフォルダーおよびサブフォルダー内のこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

`h*.txt` は、ルートフォルダーおよびそのサブフォルダー内のこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

`a?c.txt` は、ルートフォルダーおよびそのサブフォルダー内のこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

`*.txt|` は、サブフォルダーに伝播せずに、ルートフォルダー内の拡張子 .txt を持つすべてのファイルを指定します。

プロファイル非ルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `*` または `?` で始まるファイル名の一部の例?

  `AppData*.txt` は、AppDataディレクトリとそのサブフォルダー内の、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

  `AppData*h.txt` は、AppDataディレクトリとそのサブフォルダー内の、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

- `*` または `?` で始まらないファイル名の一部の例?

`AppData\h*.txt`は、サブフォルダーに伝播せずに、AppDataディレクトリ内のこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

`AppData\a?c.txt`は、サブフォルダーに伝播せずに、AppDataディレクトリ内のこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

注： Profile Management 7.15以降、このような構成は、現在のフォルダーだけでなくサブフォルダーにも適用されます。たとえば、`AppData\h*.txt`は、AppDataディレクトリとそのサブフォルダー内の、このワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

ログオン除外チェックを有効にする

ログオン除外チェックを有効にする機能は、ユーザーがログオンしたときにユーザー ストア内のプロファイルに除外されたファイルとフォルダーが含まれている場合に、Profile Managementが何を行うかを制御します。デフォルトでは、この機能は無効になっています。

この機能を使用するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート：ポリシー定義（ADMXファイル） > Citrixコンポーネント > Profile Management > ファイルシステム**で、**ログオン除外チェック**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンメニューからオプションを選択します。デフォルトでは、**除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**が選択されています。
5. **OK**をクリックします。

この機能には、次の3つのオプションがあります。

- **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを削除します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを無視します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアからローカルプロファイルに除外されたファイルとフォルダーを同期します。

> **警告：**

> **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**を選択すると、Profile Managementはユーザー ストアから除外されたファイルとフォルダーを完全に削除します。除外されたファイルとフォルダーを再度含めても、ログオン時にProfile Managementはキャッシュされたローカルプロファイルからそれらを削除します。

> 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。ログオフして再度ログオンします。`gpupdate /force`コマンドの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

「**ログオン除外チェックを有効にする**」設定がグループポリシーオブジェクトで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

.iniファイルを使用してログオン除外チェックを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Management .iniファイルを開きます。.iniファイルの詳細は、「Profile Management .iniファイルについて」を参照してください。
2. セクションにEnableLogonExclusionCheck項目を追加します。
3. EnableLogonExclusionCheck項目の値を次のように設定します。
    - ユーザーストアから除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーを無視するには、値を1に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=1。
    - ユーザーストアから除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーを削除するには、値を2に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=2。
    - チェックを無効にするには、値を0に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=0。
4. Profile Management .iniファイルを保存して閉じます。
5. 変更を有効にするには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。

どのグループのプロファイルを処理するかを定義します

プロファイルが処理されるユーザーと、処理されないプロファイルを定義できます。コンピューターのローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）の両方を使用できます。ドメイングループは`<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>`の形式で指定します。ローカルグループは「GROUP NAME」の形式で指定します。

注: コンピューターのローカルグループは、新しく作成されたローカルグループである必要があり、メンバーはドメインユーザーである必要があります。

1. Profile Managementで、「処理されたグループ」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. **表示**をクリックします。
4. Profile Managementで処理するプロファイルを持つユーザーが含まれるグループを追加します。複数のエントリを区切るには、Enterキーを使用します。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、「除外されたグループ」ポリシーを使用して除外しない限り、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。
5. Profile Managementで、「除外されたグループ」ポリシーをダブルクリックします。
6. 「**Enabled**」を選択します。
7. **表示**をクリックします。
8. Profile Managementで処理したくないユーザーが含まれるグループを追加します。複数のエントリを区切るには、**Enter**キーを使用します。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。
9. ローカル管理者のプロファイルを管理するには、Profile Managementで、「ローカル管理者のログオンを処理する」ポリシーをダブルクリックし、**有効**をクリックします。

   重要: デフォルトでは、Profile Managementは使用中のオペレーティングシステムを認識し、サーバーではなくデスクトップオペレーティングシステム上のローカル管理者のアカウントを処理します。その理由は、ユーザーは通常デスクトップでのみローカル管理者グループのメンバーであり、サーバー環境での処理からローカル管理者を排除することはトラブルシューティングに役立つためです。したがって、デフォルトの動作を変更したい場合にのみ、このポリシーを有効にしてください。

   「除外されたグループ」ポリシーは、「ローカル管理者のログオンを処理する」ポリシーよりも優先されます。アカウントが両方のポリシーに表示される場合、Profile Managementによって処理されません。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ローカル管理者のプロファイルは処理されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ユーザー ストアへのパスを指定する

ユーザー ストアへのパスを指定する前に、「Profile Management のアーキテクチャ」(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/how-it-works/architecture.html) を参照し、展開に関連する場合は、次の影響を理解してください。

- 多言語プロファイルの保存
- 含める設定と除外する設定の組み合わせ

1. Profile Management で、「ユーザー ストアへのパス」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「有効」を選択し、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されるディレクトリ（ユーザー ストア）へのパスを入力します。

パスは次のいずれかです。

- **相対パス**。このパスはホームディレクトリに対する相対パスである必要があります。ホームディレクトリは通常、Active Directory (AD) のユーザーの #homeDirectory# 属性として構成されます。
- **UNC パス**。このパスは通常、サーバー共有または DFS 名前空間を指定します。
- **無効または未構成**。この場合、`\#homeDirectory#\Windows` の値が想定されます。

この設定には、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: %ProfVer%）。システム環境変数には通常、追加のセットアップが必要です。詳しくは、(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/plan/administer.html) の「OU 内および OU 間でのプロファイルの管理」を参照してください。
- ハッシュで囲まれた AD ユーザー オブジェクトの属性（例: #sAMAccountName#）。
- Profile Management 変数。詳しくは、(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/policies/settings.html) の「Profile Management のポリシー」を参照してください。

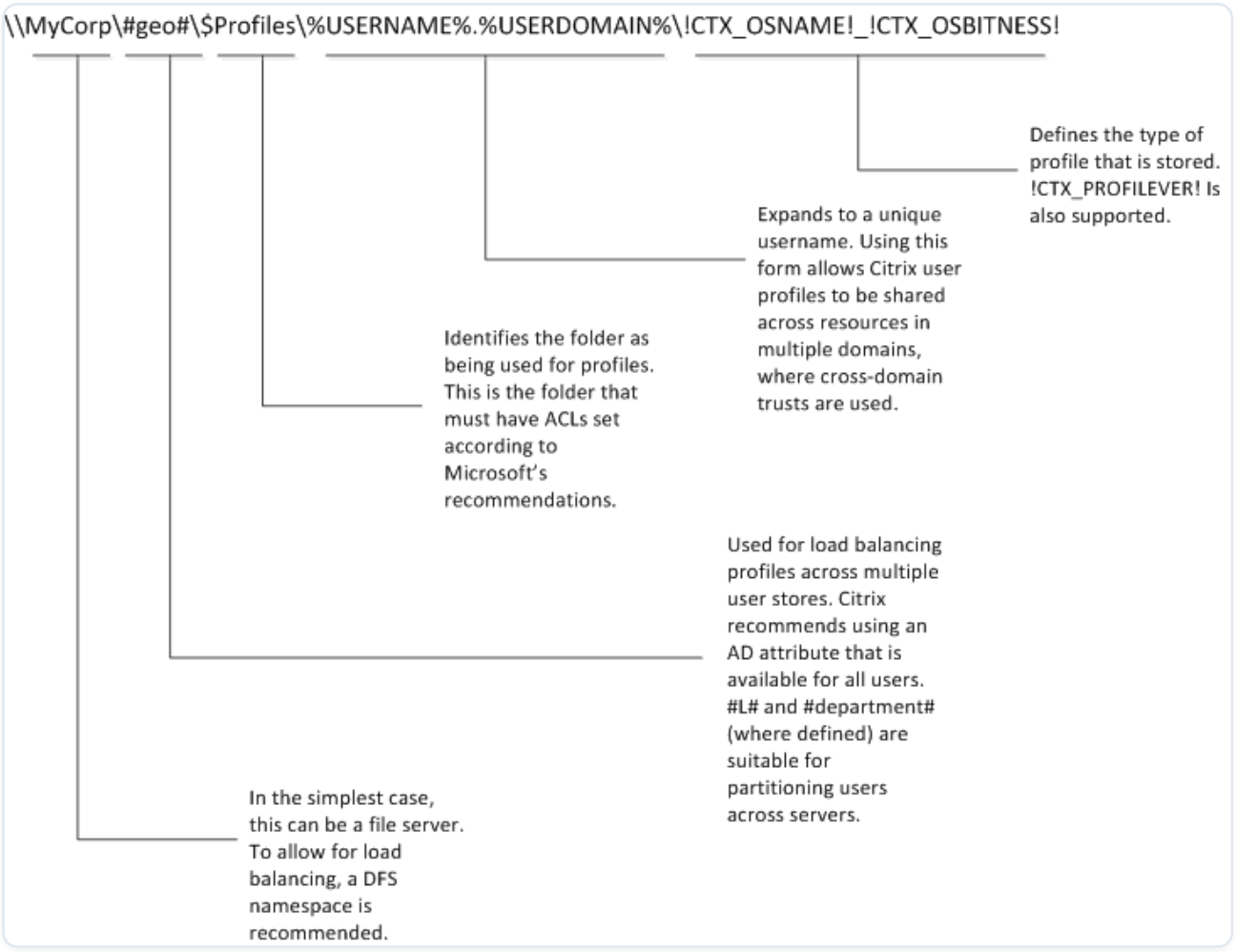
ユーザー環境変数は、`%username%` と `%userdomain%` を除いて使用できません。場所やユーザーなどの組織変数を定義するために、カスタム AD 属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定を UNC パス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの #sAMAccountName# が JohnSmith に解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、この設定がNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile` に含まれている場合、ユーザーストアへのパスを `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` として設定します（`\UPM_Profile` サブフォルダーではありません）。

この図は、AD属性、環境変数、およびProfile Management変数を組み込んだ、ユーザーストアへの一般的なパスのコンポーネントを示しています。



ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する

- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、ホームドライブ上のWindowsディレクトリが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ユーザー ストアの移行

Profile Managementは、データを失うことなくユーザー ストアを移行するソリューションを提供します。この機能は、ユーザー ストアをよりスケーラブルなファイル サーバーに移行したい場合に役立ちます。

ユーザー ストアを移行するには、 ポリシーを ポリシーと組み合わせて使用します。 ポリシーを使用すると、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が以前に保存されていたフォルダーへのパス（以前使用していたユーザー ストアのパス）を指定できます。

パスは絶対UNCパスでも、ホームディレクトリに対する相対パスでも構いません。どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- システム環境変数（パーセント記号で囲む）
- Active Directoryユーザーオブジェクトの属性（ハッシュ記号で囲む）

例：

- フォルダー`Windows\%ProfileVer%`は、ユーザー ストアの`Windows\W2K3`というサブフォルダーにユーザー設定を保存します（%ProfileVer%がW2K3に解決されるシステム環境変数である場合）。
- `\\server\share#SAMAccountName#`は、ユーザー設定をUNCパス`\\server\share\<JohnSmith>`に保存します（`#SAMAccountName#`が現在のユーザーに対してJohnSmithに解決される場合）。

パスでは、`%username%`と`%userdomain%`を除くユーザー環境変数を使用できません。

この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルからの対応する設定が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

ポリシー設定の変更が有効になると、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は、**ユーザー ストアへのパス** ポリシーで指定された現在のユーザー ストアに移行されます。

グループポリシーでユーザー ストアの移行を構成するには、次の手順を完了します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management** の下で、**ユーザー ストアの移行**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **オプション**ペインで、以前使用したユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「ユーザー ストアの移行」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**ユーザー ストアの移行**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、以前使用したユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

証明書を保存する

セッション中に証明書ストアにインポートされた個人証明書を保存するには、この手順に従ってください。デフォルトでは、証明書は自動的に同期されます。

1. 「**同期するディレクトリ**」設定にパス `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` を追加します。オペレーティングシステムの言語によって、この場所のアプリケーションデータフォルダーが決まります。ポリシーを使用して多言語システムを構成する場合は、各言語の場所をリストに追加します。

例

英語システムでは、パスは `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` です。ドイツ語システムでは、`Anwendungsdaten\Microsoft\SystemCertificates\My` です。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

ストリームユーザープロファイル

Citrix®のストリームユーザープロファイル機能を使用すると、プロファイルに含まれるファイルとフォルダーは、ユーザーがログオンした後にアクセスされた場合にのみ、ユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。レジストリエントリと保留領域内のファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。保留領域の詳細については、「保留領域」を Profile Management architectureで参照してください。

ストリーミングは必須ではなく、Citrix Virtual DesktopsのPersonal vDisk機能はサポートしていません。

1. Profile Managementで、 をダブルクリックします。
2. をダブルクリックします。
3. を選択し、 をクリックします。
4. オプションで、ユーザーのストリーミングエクスペリエンスを向上させるには、 をダブルクリックし、 を選択して、次のいずれかを実行します。

    - ストリーミングされるファイルまたはフォルダーのサイズに下限を設定してネットワーク帯域幅を節約するには、MB単位で制限を設定します。制限を超えるファイルおよびフォルダーは、ログオン後できるだけ早くフェッチされます。
    - プロファイル全体をキャッシュする機能をオンにするには、制限をゼロに設定します。ログオン後、これによりユーザーストア内のすべてのファイルがバックグラウンドシステムタスクとしてフェッチされ、ユーザーへのフィードバックはありません。 大きなファイルが存在する場合、 ポリシーはログオン時間を短縮することでパフォーマンスを向上させることができます。

5. **OK**をクリックします。
6. オプションで、 をダブルクリックし、 を選択して、サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合に、保留領域からユーザーストアにファイルが書き戻されるようにファイルを解放するタイムアウト期間（日数）を入力します。この設定を使用して、保留領域の肥大化を防ぎ、ユーザーストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。
7. **OK**をクリックします。
8. オプションで、OU内のユーザープロファイルの一部のみをストリーミングする場合は、 をダブルクリックし、 を選択して、グループのリストを入力します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。他のすべてのグループのユーザープロファイルはストリーミングされません。
9. **OK**をクリックします。

ポリシーまたは.iniファイルで**** 設定が構成されていない場合、プロファイルストリーミングは無効になります。

ここで**** 設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

ここでが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

設定が無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

プロファイルストリーミング除外を有効にするには

プロファイルストリーミング除外が有効になっている場合、Profile Managementは除外リスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンすると、すべてのフォルダーとファイルがユーザーストアからローカルコンピューターに即座にフェッチされます。

プロファイルストリーミング除外を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Managementの下で、をダブルクリックします。
2. ポリシーをダブルクリックします。

3. を選択します。
4. をクリックします。
5. Profile Managementでストリーミングしたくないフォルダーを追加します。フォルダー名は、絶対パスまたはユーザープロファイル（%USERPROFILE%）に対する相対パスとして指定できます。この変数を使用してプロファイルの場所を特定しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。パスの先頭のバックスラッシュは省略してください。

例:

- デスクトップ。デスクトップフォルダーはユーザープロファイルでは処理されません。
- `MyApp\tmp`。`%USERPROFILE%\MyApp\tmp`フォルダーは処理されません。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイル内の次のフォルダーはデフォルトで除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、すべてのフォルダーがストリーミングされます。

変更を有効にするには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

注:

- このポリシーは、プロファイルストリーミングが有効になっている場合にのみ有効になります。
- このポリシーは、ワイルドカード`*`および`?`をサポートしていません。
- Enter キーを使用して複数のエントリを区切ります。
- プロファイルストリーミング除外リストを手動で編集する場合は、ログオンがハングするのを避けるため、前述のデフォルトで除外されるフォルダーを追加する必要があります。

フォルダーリダイレクトを構成する

フォルダーリダイレクトは Microsoft Windows の機能であり、Profile Management とともに使用できます。

> **重要:**
>
> フォルダーリダイレクトは、次のいずれかの方法のみを使用して構成してください。Microsoft Active Directory (AD) GPO または Citrix® ポリシー。複数の方法を使用してフォルダーリダイレクトを構成すると、予期しない結果が生じる可能性があります。

フォルダーリダイレクトを構成するには、次の手順を実行します。

1. 該当するユーザーを、Profile Management が管理するOUに移動します。
2. GPOを作成し、編集のために開きます。
3. **ユーザーの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > フォルダーリダイレクト** に移動し、リダイレクトするフォルダーを選択します。
4. `<folder name>` フォルダーのリダイレクトポリシーを有効にし、リダイレクトされたパスを入力します。リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。パスにユーザー名やフォルダー名を追加しないでください。たとえば、**デスクトップ** フォルダーへのパスを `\\server\share\` に設定した場合、ユーザー環境内のフォルダーは `\\server\share\<user name>\Desktop` としてリダイレクトされます。
5. 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

次のフォルダーはリダイレクトできます。

- AppData(ローミング)
- デスクトップ
- スタートメニュー
- ドキュメント
- 写真
- 音楽
- ビデオ

- お気に入り
- 連絡先
- ダウンロード
- リンク
- 検索
- 保存されたゲーム

フォルダーをリダイレクトする際は、次の点に注意してください。

- 「**ドキュメント**」フォルダー。ユーザーのホームディレクトリにリダイレクトできます。
- 「**音楽**」、「**写真**」、および「**ビデオ**」フォルダー。これらは「**ドキュメント**」フォルダーを基準としたフォルダーにリダイレクトできます。

フォルダーリダイレクトが機能することを確認する方法

フォルダーリダイレクトが機能することを確認するには、次の手順を実行します。

1. セッションで、リダイレクトしたフォルダーに移動し、フォルダーを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
2. プロパティウィンドウで、**ショートカット**タブに移動し、**ターゲット**フィールドを確認します。フィールドにリダイレクトされたパスが表示されている場合、フォルダーリダイレクトは機能しています。そうでない場合、フォルダーリダイレクトは機能していません。

フォルダーリダイレクトログ

> **注:**

> プロファイル管理は、フォルダーリダイレクトが失敗した場合にのみ、Windowsイベントログに情報を書き込みます。

> プロファイル管理は、Windowsイベントログに情報を書き込みます。Windowsイベントビューアーの**アプリケーション**ペインでイベントを表示できます。この情報は、フォルダーリダイレクト機能の使用時に発生する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

オフラインプロファイルを構成する

Citrix® オフラインプロファイルは、ネットワークへのアクセスが断続的であるラップトップユーザーまたはモバイルデバイスユーザー向けです。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザー ストアと同期できます。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーが作業するにつれて、プロファイルはローカルで更新され、ネットワーク接続が再確立されると最終的にユーザー ストアと同期されます。

この機能は、ドメインに参加しているコンピューター (Citrix XenClient® を実行しているコンピューターを含む) でのみ機能します。ネットワーク接続が永続的である傾向があるサーバーまたはデスクトップコンピューターでの使用は意図されていません。

通常、オフラインプロファイルとストリーミングユーザープロファイルの両方を有効にすることはありません。このため、オフラインプロファイルが優先され、ストリーミングユーザープロファイルと「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」設定が無効になります。ユーザーが最初にログオンするときに、ラップトップまたはモバイルデバイスに常に完全なプロファイルがあることを確認してください。

オフラインプロファイルは、次の方法で構成できます。

- **グループポリシーを使用する**。このポリシーにより、機能の一元的な管理制御が可能になりますが、オフラインプロファイルを使用するラップトップまたはデバイスを含む個別のOUを作成する必要があります。
- **.iniファイルを使用する**。ラップトップやモバイルデバイス専用の特別なOUを作成したくない場合は、より簡単なオプションです。しかし、この機能の制御は実質的に個々のデバイス所有者に委ねられます。このオプションでは、各ラップトップまたはモバイルデバイスの1回限りの構成が必要です。

グループポリシーを使用してオフラインプロファイルサポートが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

グループポリシーを使用する

1. Profile Management で管理されているすべてのコンピューターを含むOUを作成します。オフラインプロファイルを使用するラップトップとモバイルデバイス、Citrix Virtual Apps™ サーバー、および仮想デスクトップを含めます。
2. ラップトップとモバイルデバイスのみを含む子OUを作成します。

3. グループポリシー管理で、サイト全体のポリシーを適用するベースライングループポリシーオブジェクト (GPO) を作成し、両方のOUにリンクします。
4. すべてのコンピューターに共通するProfile Management設定でベースラインGPOを構成します。
5. 2番目のオフラインGPOを作成し、子OUにリンクします。
6. オフラインGPOを次のように構成します。

    a. プロファイル管理で、オフラインプロファイルサポートをダブルクリックします。
    b. 有効を選択し、OKをクリックします。
    c. ラップトップおよびモバイルデバイスにのみ適用したい他の設定を構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

.iniファイルの使用

前提条件として、ベースラインとオフラインの両方のGPOで、オフラインプロファイルサポートが未構成（デフォルト）であることを確認してください。これらの設定が構成されている場合、.iniファイルの設定は上書きされます。

1. 各ラップトップまたはモバイルデバイスで、Profile Managementインストーラーによって作成された.iniファイルを見つけます。.iniファイルの場所については、ダウンロードに含まれるファイルを参照してください。
2. この行のコメントを解除します（セミコロンを削除して）：

    ```
    ;OfflineSupport=
    ```

3. .iniファイルを保存します。

    変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を構成する

CEIP を構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**で、**カスタマーエクスペリエンス向上プログラム**をダブルクリックします。
3. **有効**または**無効**を選択し、**OK**をクリックします。
4. 変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

注: グループポリシーオブジェクトとHDX™でCEIPが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルトで有効になります。

CEIPの詳細については、Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) について を参照してください。

クロスプラットフォーム設定の構成

クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション

このトピックでは、このリリースのProfile Managementのクロスプラットフォーム設定機能でサポートされるアプリケーションとオペレーティングシステム（OS）について説明します。

定義ファイルについて

定義ファイルには、選択されたWindowsアプリケーションの共通のパーソナライズ設定が含まれています。各ファイルとその中の定義により、ユーザーは複数のOSで同じアプリケーションに接続でき、各プラットフォームで実質的に同一のプロファイルが提示されます。たとえば、ユーザーはMicrosoft Officeの2つのインスタンスにアクセスする場合があります。1つはWindows 7仮想デスクトップにインストールされ、もう1つはWindows Server 2003上のCitrix Virtual Apps™で公開されています。どちらのインスタンスにアクセスしても、ユーザーのOfficeの使用体験は一貫しています。

事前構成された定義ファイルは、クロスプラットフォーム設定機能の重要な側面です。サポートされている各アプリケーションには定義ファイルがあります。定義ファイルはXML形式です。

重要: アプリケーションのすべてのOSでの動作を徹底的に分析し、この機能の操作を完全に理解することなく定義ファイルを編集すると、ユーザープロファイルに予期しない変更が生じ、トラブルシューティングが困難になる可能性があります。このため、Citrix®は提供された定義ファイ

ルの編集や新しい定義ファイルの作成をサポートしていません。さらに、Windowsユーザープロファイルの性質上、一部のアプリケーション設定はOS間で複製できません。

さらに、この機能はレジストリおよびアプリケーション設定には適していますが、ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト（たとえば、ブラウザーのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など）には適していないことに注意してください。

サポートされるオペレーティングシステム

サポートされている任意のシングルセッション OS 間、およびサポートされている任意のマルチセッション OS 間でプロファイルをローミングできます。

以下がサポートされています（該当する場合はx86およびx64バージョン）：

- **シングルセッションOS**。Windows XP、Windows 7、およびWindows Vista。
- **マルチセッションOS**。Windows Server 2003、Windows Server 2008、およびWindows Server 2008 R2。

サポートされる Citrix 製品

クロスプラットフォーム設定機能は、以下のCitrix製品をサポートしています。

- Windows Server 2003 以降向けの XenApp® 5 Feature Pack
- XenDesktop® 4 以降

サポートされるアプリケーション

このリリースでは、以下の定義ファイルが利用可能です。XMLファイル名には、サポートされるアプリケーションとバージョンが示されています。

- **Internet Explorer 7 Plus.xml**。このファイルは、Internet Explorerのバージョン7、8、9のローミング（お気に入りを除く）をプラットフォーム間でサポートします。お気に入りおよびフィードのローミングはサポートされていません。
- 「**Office 2007.xml**」ファイル。
- 「**Office 2010.xml**」ファイル。
- **Wallpaper.xml**。このファイルは、デスクトップの壁紙のプラットフォーム間ローミングをサポートします。テーマのプラットフォーム間ローミングはサポートされていません。

重要: 各アプリケーションの定義ファイルは、上記のサポートされるシナリオでのみ使用してください。たとえば、Internet Explorer 7 Plus.xmlは、そのブラウザーの複数のバージョン間で設定を

ローミングします。しかし、Office 2007.xmlまたはOffice 2010.xmlを使用して、Officeのバージョン間で設定をローミングすることはできません。

アプリケーション定義ファイルの構造

この記事では、Profile Management アプリケーション定義ファイルの XML 構造について説明します。この構造は、アプリケーションプロファイラーとクロスプラットフォーム設定の両方に適用されます。

アーキテクチャ図

Profile Management アプリケーション定義ファイルの XML 構造の画像(/en-us/profile-management/1912-ltsr/media/definitionfilestructure.jpg)

- XML宣言とエンコーディング属性

  XML宣言では、属性 \<?xml version="1.0"\> を指定する必要があります。

  Encoding="UTF-8" は推奨される属性です。

- GroupDefinitions

  グループのコレクションのコンテナです。XMLドキュメントのルート要素として機能します。その属性には、versionとGUIDが含まれます。これらは必須属性です。

- グループ

  サブアプリケーションの設定を定義します。その属性はnameとGUIDです。これらは必須属性です。

- オブジェクト

  サブアプリケーションの1つの設定を定義します。その属性はnameとGUIDです。これらは必須属性です。

- プラットフォーム

  Platformは、異なるオペレーティングシステムで異なる定義を提供します。オプションの属性OSVersionNumberを使用して、オペレーティングシステムを指定できます。属性がない場合、すべてのプラットフォームは設定の内部定義を受け入れます。Platformには、RegKey、RegValue、File、Folder、Wallpaperのいずれかの要素が含まれている必要があります。

- RegKey

  レジストリ内のキーとして設定を定義します。Key要素を含める必要があります。オプションのサブ要素として、RecurseとMergeの2つが含まれます。RecurseとMergeは、Profile

Managementがキーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素はExcludeValuesで、これは除外できるレジストリ値を定義します。

- RegValue

  レジストリ内の値として設定を定義します。親キーのパスを指定するためにKeyを含める必要があります。

- フォルダー

  設定をフォルダーとして定義します。フォルダーのパスを指定するために`Path`を含める必要があります。オプションのサブ要素として、`Recurse`と`Merge`があります。`Recurse`と`Merge`は、Profile Managementがフォルダーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素は`ExcludeFiles`で、これは除外できるファイルを定義します。

- ファイル

  設定をファイルとして定義します。親フォルダーのパスを指定するために`Path`を、ファイル名を指定するために`FileName`を含める必要があります。

- 壁紙

  すべての壁紙設定を定義します。属性やサブ要素は不要です。Profile Managementはこれらの設定を自動的にローミングします。

- Key

  レジストリキーのパス、または親レジストリキーのパスを指定します。KeyはRegKeyとRegValueのサブ要素です。

- ValueName

  レジストリ値の名前を指定します。RegValueのサブ要素です。

- パス

  フォルダーのパスまたは親フォルダーのパスを指定します。これはFolderとFileのサブ要素です。Profile Managementの変数を採用できます。

- ファイル名

  ファイル名を指定します。これはFileのサブ要素です。

- 再帰

  RegKeyとFolderのオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Managementはキーとフォルダを再帰的にローミングします。

- マージ

  RegKeyとFolderのオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Managementはキーとフォルダーをマージします（ただし、置換はしません）。

- 除外値

  RegKeyのオプションのサブ要素です。キーをローミングする際に除外できる値を指定します。

- 除外ファイル

  Folderのオプションのサブ要素です。フォルダーをローミングする際に除外できるファイルを指定します。

- 除外

  ExcludeValuesとExcludeFilesのサブ要素です。ファイルまたはレジストリ値の除外項目を指定します。

注

ドキュメントが正しい構文形式であることを確認してください。Profile Managementは、これらのファイルがロードされるときに、CPSValidationSchema.xsd検証ファイルを使用してこれらのファイルをチェックします。検証ファイルはProfile Managementのインストールパスの下にあります。Profile Managementは不正なファイルを無視し、エラーメッセージをログに記録します。

サンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



<!-- Copyright 2011 Citrix Systems, Inc. All Rights Reserved. -->



&lt;GroupDefinitions GUID="748E63D3-426E-4796-9C32-420B25DB2D9F"
Version="4.0.0.0">
```

```
<!-- Application Settings -->

&lt;Group GUID="0FCCCF29-0A0E-482d-A77E-3F39A8A854A6" Name="Application
Settings">

<!-- Registry Key Setting Example -->

&lt;Object GUID="637EC13C-2D47-4142-A8EB-3CEA6D53522A"
Name="Software\Application\certain key">

&lt;Platform>

&lt;RegKey>

&lt;Key>Software\Microsoft\Office\certain key&lt;/Key>

&lt;Merge/>

&lt;Recurse/>

&lt;ExcludeValues>

&lt;Exclude>excluded value 1&lt;/Exclude>
```

```
&lt;Exclude>excluded value 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeValues>

&lt;/RegKey>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Registry Value Setting Example -->

&lt;Object GUID="3C896310-10C4-4e5f-90C7-A79F4E653F81"
Name="Software\Application\certain value">

<!-- Folder Setting Example -->

&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder">
```

```
&lt;Platform>

&lt;Folder>

<!-- We can use Citrix variable if necessary -->

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder&lt;/Path>

&lt;Merge/>

&lt;Recurse/>

&lt;ExcludeFiles>

&lt;Exclude>excluded file 1&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded file 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded file 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeFiles>
```

```
&lt;/Folder>


&lt;/Platform>


&lt;/Object>


<!-- File Setting Example -->


&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\file.txt">


&lt;Platform>


&lt;File>


<!-- We can use Citrix variable if necessary -->


&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application&lt;/Path>


&lt;FileName>file.txt&lt;/FileName>


&lt;/File>
```

```
&lt;/Platform>


&lt;/Object>


<!-- Setting based on different OS -->


&lt;Object GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder">


<!-- Assuming that the folder locates differently when in different
platforms -->


&lt;Platform OSVersionNumber="6.1">


<!-- Win7 -->


&lt;Folder>


&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder&lt;/Path>


&lt;Recurse/>
```

```
&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;Platform OSVersionNumber="10.0">

<!-- Win10 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>

&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

&lt;/Group>
```

```
&lt;/GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ

クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。Windows 2003システムへの一般的な投資を考慮すると、かなりの共存期間が予想されます。この機能は、移行と継続的な共存の両方をサポートすることが期待されます。

このケーススタディは、Office 2007を実行している既存のWindows 7およびWindows 2008環境から始まり、Windows 8の共有プロビジョニング済み仮想デスクトップを追加します。

このケーススタディは以下で構成されます。

- 初期構成
- 新しいサイトの計画
- 計画の実行
- その他の考慮事項

計画を実行する

フェーズ1：新しいファイルサーバーを構成する

NewDomainに、クロスプラットフォーム設定の管理用 (`\\FileServ3`) と2k12_Farmのプロファイル保存用 (`\\FileServ2`) のファイルサーバーをセットアップします。

このケースでは、プロファイル用とクロスプラットフォーム設定用に別々のファイルサーバーをセットアップすることを選択します。この方法は厳密には必須ではありませんが、クロスプラットフォーム設定サーバーを利用可能にする簡単な方法です。プロファイルサーバーは、たとえばDFS名前空間を使用するなど、異なる設計になっている可能性があり、実装に時間がかかる場合があります。

どちらの場合も、共有フォルダー上の移動ユーザープロファイルに関するセキュリティ推奨事項に従ってサーバー共有を設定します。詳細については、 `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/folder-redirection/deploy-roaming-user-profiles>` を参照してください。

フェーズ2：2k8_FarmのコンピューターをProfile Management 5.0にアップグレードする

手順については、Profile Managementのアップグレードを参照してください。

フェーズ3：展開する定義ファイルを選択する

一部の構成ファイル（定義ファイルと呼ばれます）は、Microsoft Office、Internet Explorer、およびWindowsの壁紙用に提供されています。

重要：Citrix®の担当者から指示がない限り、これらのファイルを更新しないでください。

展開に関連する構成ファイルを選択し、これらのファイルのみを`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`にコピーします。この例では、Office 2007.xmlのみをコピーします。

フェーズ4：2k8_Farmのコンピューターを Profile Management 5.0用に構成する

アップグレードが完了したら、クロスプラットフォーム設定機能を（部分的に）有効にするために、以下の構成変更を行います。この段階では、`\\FileServ3\CrossPlatform`のみが利用可能である必要があります。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`	変更なし。このパスはOldDomainユーザーのみが使用するため、NewDomainユーザーをサポートするために変更する必要はありません。
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	両方のドメインのユーザーがクロスプラットフォーム設定ストアを共有するため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。

ポリシー	値	注
クロスプラットフォーム設定の作成元	有効	NewDomainリソースへのユーザーアクセスを許可する前に、OldDomainからのクロスプラットフォーム設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアが初期化されるようにします。

マシンのログオンスクリプトに変更は必要ありません。

フォルダーリダイレクトポリシーに変更は必要ありません。

OU 2k8_Farmは、このまま実行できます。ユーザーがログオンすると、Profile Managementは定義ファイルOffice 2007.xmlで識別された設定をクロスプラットフォーム設定ストアにコピーします。

フェーズ5：2k12_Farmのマシンを準備する

2k8_Farmでファイルサーバーがセットアップされたので、Citrix Virtual Desktopsサイトを構築する時が来ました。Windows 7仮想デスクトップが実行されているときにProfile Management 5.0をインストールします。以下に適切な構成を示します。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ2\Profiles\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\%ProfVer%`	このファイル共有は両方のドメインのユーザーによって使用されるため、ドメイン情報を含めることも重要です。
アクティブライトバック	無効	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。

ポリシー	値	注
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	クロスプラットフォーム設定ストアは両方のドメインのユーザーによって共有されるため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。この設定は`2k8_Farm`の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	無効	クロスプラットフォーム設定ストアのプロファイルデータの初期設定にNewDomainからの設定が使用されるのを防ぎます。これにより、OldDomainからの設定が優先されるようになります。

システム環境変数%ProfVer%を設定するマシンのログオンスクリプトが、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%	注
Windows 2012 上の XenApp サーバー	ウィン2012x64	計画されている 64 ビットサーバーが利用可能になったときに必要です。詳細については、「その他の考慮事項」を参照してください。
Windows 7 デスクトップ	Win7	Windows 7 の 32 ビット版と 64 ビット版の両方が展開されている場合、それぞれに個別のプロファイルを使用することをお勧めします。そのため、%ProfVer% は各プラットフォームで異なるように構成する必要があります。

そのため、OldDomain ユーザーの john.smith は、Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ2\Profiles\ john.smith.OldDomain\Win7` に、Citrix Virtual Apps サーバー用に `\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win2012x64` にプロファイルを持っています。

また、NewDomain ユーザーの william.brown は、Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ2\Profiles\ william.brown.NewDomain\Win7` に、XenApp サーバー用に `\\FileServ2\Profiles\william.brown.NewDomain\Win2012x64` にプロファイルを持っています。

ここでも、グループポリシーを使用してフォルダーリダイレクトを設定します。ドメインが Windows Server 2012 に基づいているため、**<グループポリシーオブジェクト名 \> ユーザーの構成 \> ポリシー \> Windows の設定 \> フォルダーリダイレクト**からフォルダーリダイレクトを設定します。

ポリシー	値
お気に入り	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Favorites`
マイドキュメント	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Documents`

%USERDOMAIN% がフォルダーリダイレクトパスに追加されました。このポリシーは NewDomain ユーザーにのみ適用されるため、この設定は不要です。しかし、将来的に OldDomain ユーザーを同じサーバーに移行することを決定した場合に役立つ可能性があります。今のところ、OldDomain ユーザーは OldDomain のフォルダーリダイレクトポリシーを引き続き使用し、そのポリシーによってフォルダーは `\\FileServ1` にリダイレクトされます。

フェーズ 6: ライブテスト

テストは2つの段階で実行します。

1. NewDomain のユーザーのプロファイルデータが正しく動作することを確認します。これらのユーザーは、クロスプラットフォーム設定ストアにデータが設定されていません。クロスプラットフォーム設定を作成するためのポリシーソースが無効に設定されているため、プロファイルの変更は OldDomain に伝播されません。
2. OldDomain の数人のユーザーでテストします。初回ログオン時に、クロスプラットフォーム設定データがプロファイルにコピーされます。その後のログオンでは、いずれかのドメインからの変更がもう一方にコピーされます。OldDomain のユーザーが NewDomain にログオンし、プロファイルデータが存在しない場合（OldDomain が Profile Management 5.0 にアップグレー

ドされて以来、ユーザーが OldDomain でプロファイルを使用していないため）、クロスプラットフォーム設定ストアは更新されません。このトピックで説明されている構成では、ユーザーがドメイン間で設定をローミングする前に、OldDomain にログオンする必要があります。これにより、ユーザー設定（おそらく長年にわたって作成されたもの）が NewDomain のデフォルト設定によって上書きされないようにします。

その他の考慮事項

このケーススタディで構成されているように、Profile Managementは、NewDomainからの設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアを初期化しません。OldDomainからの設定のみがストアの初期化に使用できます。NewDomainに複数の種類のプロファイル（Windows 7 32ビットやWindows 7 64ビットなど）が含まれるまでは許容されます。あるいは、NewDomainのユーザーがOldDomainのリソースにアクセスする必要があるかもしれません。これらの場合、さらに多くの種類のマシンで、ポリシー「Source for creating cross-platform settings」を適切に有効にする必要があります。

注意:

もし「Source for creating cross-platform settings」が誤って設定されている場合、新しいプロファイルが、蓄積された多くの貴重な設定を持つ既存のプロファイルを上書きしてしまう可能性があります。そのため、このポリシーは一度に1つのプラットフォームタイプにのみ設定することをお勧めします。このプラットフォームは通常、ユーザーが保持したい設定が蓄積されている、より古い（成熟した）プラットフォームです。

このケーススタディでは、いくつかの点を説明するために別々のドメインを使用しています。また、クロスプラットフォーム設定機能は、2つのOU間、あるいは単一のOU内の異なる種類のマシン間で設定のローミングを管理できます。この場合、異なるマシンタイプに対してポリシー「Source for creating cross-platform settings」を異なる方法で設定する必要があるかもしれません。この設定はいくつかの方法で実現できます。

- .iniファイル内の設定CPMigrationsFromBaseProfileToCPStoreを使用して、各マシンタイプでポリシーを異なる方法で設定します。ポリシー「Source for creating cross-platform settings」は設定しないでください。
- Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、同じOU上の異なるGPOを管理します。OU内のすべてのマシンに適用されるGPOで共通設定を構成できます。ただし、追加のGPOにはポリシー「Source for creating cross-platform settings」のみを追加し、WMIクエリを使用してフィルタリングします。

ユーザーのログオフを強制する

デフォルトでは、問題が発生した場合（たとえば、ユーザープロファイルストアが利用できない場合）、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。ただし、代わりにProfile Managementを構成して、エラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることができます。このアプローチは、トラブルシューティングに役立ちます。

1. **Profile Management**で、**Advanced settings**フォルダーを開きます。
2. **Log off user if a problem is encountered**ポリシーをダブルクリックします。
3. **Enabled**を選択します。

ファイルセキュリティ属性を同期する

プロファイル管理が、プロファイルがインストールされているシステムとユーザー ストアの間で、ユーザー プロファイル内のファイルとフォルダーをコピーするときに、セキュリティ属性を同期できます。この機能は、セキュリティ属性間の不整合を防ぐことを目的としています。Windows 10以降、およびWindows Server 2016が必要です。

この機能はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の手順を実行します。

1. **UPMPolicyDefaults_all.ini** ファイルで、**General Settings** セクションに **SecurityPreserveEnabled=0** を追加します。
2. コマンドラインから、`gpupdate /force` コマンドを実行します。

注：プロファイル管理は、プロファイルの最終変更時刻に基づいてプロファイルの変更を同期します。変更がファイルのセキュリティ属性のみに対して行われた場合、プロファイル管理はファイルを同期しません。

大容量ファイル処理を有効にする

プロファイル内に存在する大容量ファイルは、ログオンまたはログオフが遅くなる一般的な原因です。Citrix®は、大容量ファイルをユーザーストアにリダイレクトするオプションを提供します。このオプションにより、それらのファイルをネットワーク経由で同期する必要がなくなります。

グループポリシーで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**の下にある**File system**フォルダーを開きます。
2. **Large File Handling - Files to be created as symbolic links**ポリシーをダブルクリックします。
3. 処理するファイルを指定します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. .iniファイルに**\[LargeFileHandlingList\]**セクションを追加します。
2. そのセクションの下で処理するファイルを指定します。

ファイルを参照するポリシーではワイルドカードを使用できます。例: `\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.ost`

これらのファイルがCitrix Profile Managementの除外リストに追加されていないことを確認してください。

> **注**

> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮することをお勧めします。

> Microsoftセキュリティ更新プログラムMS15-090を適用することをお勧めします。一般的なセキュリティ対策として、Microsoft Windowsシステムを常に最新の状態に保ってください。

アプリケーションプロファイラーを有効にする

この機能は、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。この機能を有効にすると、定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。

アプリケーションプロファイラー機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**で、**Citrix Virtual Apps™ Optimization settings**フォルダーを開きます。
2. **Enable Citrix Virtual Apps Optimization**ポリシーを有効にします。
3. **Path to Citrix Virtual Apps optimization definitions**ポリシーを有効にします。
4. Citrix Virtual Apps最適化定義ファイルが配置されているフォルダーを指定します。
5. コマンド`gpupdate /force`を実行して、ポリシーの展開を強制します。

> **注：**

> 定義ファイルの作成については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

> ログオフ中、定義ファイル内の設定のみが同期され、その他のすべての設定は破棄されます。セッションでユーザー文書を表示または更新する場合は、フォルダーリダイレクトを使用してください。詳しくは、「フォルダーリダイレクトの構成」を参照してください。

ネイティブ Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする

「**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**」機能は、ネイティブ Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。この機能により、Microsoft Outlook オフラインフォルダファイル (`.ost`) とユーザー固有の検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。

「**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**」機能を使用する前に、Microsoft Windows Search Service を有効にしてください。既定では、Microsoft Windows Search Service は Windows デスクトップで有効になっています。Windows サーバーで Microsoft Windows Search Service を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**メニューから**サーバーマネージャー**を開きます。
2. インターフェイスの右上隅で、**管理**をクリックし、**役割と機能の追加**を選択します。
3. **役割と機能の追加ウィザード**で、**開始する前に**ページが既定で表示されます。**次へ**をクリックします。
4. **インストールの種類**ページで、**役割ベースまたは機能ベースのインストール**を選択し、**次へ**をクリックします。
5. **サーバーの選択**ページで、Microsoft Windows Search Service をインストールするサーバーを選択し、**次へ**をクリックします。サーバーが1台しかない場合は、自動的に選択されます。
6. **サーバーの役割**ページで、**次へ**をクリックします。
7. **機能**ページで、**Windows Search Service**を選択し、**次へ**をクリックします。
8. **確認**ページで、**インストール**をクリックします。Windows Search Service のインストールには数分かかる場合があります。
9. インストールが完了したら、**結果**ページで**閉じる**をクリックします。
10. **スタート**メニューから**検索**をクリックし、検索ボックスに「**services**」と入力して、**Enter** キーを押します。
11. **サービス**ウィンドウで、**Windows Search**をダブルクリックし、スタートアップの種類を**自動**に設定し、**適用**をクリックしてから、**OK**をクリックします。

12. **サービス**ウィンドウと**サーバーマネージャー**ウィンドウを閉じます。

Microsoft Windows Search Service を有効にした後、グループポリシーオブジェクトで **Enable search index roaming for Outlook** を構成するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理 > 詳細設定**」の下にある「**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**」ポリシーをダブルクリックします。
3. **Enabled** を選択します。**OK** をクリックします。

グループポリシーオブジェクトで検索インデックスローミングが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。検索インデックスローミングがどこにも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行し、すべてのセッションからログオフしてから、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

> **注：**
>
> Microsoft Windows 10 1809 以降、および Windows Server 2019 以降で検索インデックスローミング機能を機能させるには、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Search` の下に DWORD 値 `EnablePerUserCatalog = 0` を追加します。レジストリ設定を有効にするには、VDA を再起動します。

VHDXファイル

VHDX（Virtual Hard Disk）は、仮想マシンに仮想および論理ディスクストレージ領域をプロビジョニングするために使用されるディスクファイル形式です。Outlook の検索インデックスローミングを有効にする機能は、VHDX ファイルに依存して動作します。VHDX ファイルは、この機能を使用するユーザーごとに作成されます。VHDX ファイルは、ユーザー固有のプロファイルを、そのユーザーのプロファイル専用の個別の仮想ディスクに保存します。Profile Management は、ログオン時に VHDX ファイルをマウントし、ログオフ時にアンマウントします。VHDX ファイルには次の2種類があります。

- OutlookOST.vhdx ファイル。Microsoft Outlook オフラインフォルダーファイル (`.ost`) を含みます。
- OutlookSearchIndex.vhdx ファイル。OutlookOST.vhdx ファイルに保存されているオフラインフォルダーファイルの検索インデックスデータベースを含みます。

> **注：**
>
> Profile Management は、ユーザーがログオンしたときにのみ VHDX ファイルをマウントします。VHDX ファイルがアンマウントされていても、ログオン*後*に VHDX ファイルを再マウントすることはありません。 Profile Management は、デフォルトで 50 GB の VHDX 容量を提供します。ストレージクォータを適切に計画してください。VHDX の実際の使用量が以前に構成したクォータを超えると、VHDX ファイルはアンマウントされます。

VHDXファイルのクイック作成

「**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**」機能の強化として、Profile Management は、ユーザー固有の VHDX ファイルの作成を高速化します。これは、テンプレート VHDX ファイル (UpmParentVhd.vhdx) のコピーとして、ユーザー固有の VHDX ファイルを生成することによって行われます。テンプレート VHDX ファイルは、最初のユーザーがログオンしたときに自動的に作成されます。

たとえば、「**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**」機能が有効になっている場合、ログオン後に以下の VHDX フォルダーファイルが利用可能になります。

- ユーザーストア内のフォルダー `UpmVhd` 。このフォルダーは、ユーザーストアのルートフォルダーにあります。たとえば、ユーザーストアが `\\Fileshare\UpmStore$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!_!CTX_OSBITNESS!` として構成されている場合、 `UpmVhd folder` は `\\Fileshare\UpmStore$\` に作成されます。
- `UpmVhd` フォルダー内のファイル `UpmParentVhd.vhdx` 。

他のユーザーがログオンすると、Profile Management は、テンプレート VHDX ファイルのコピーとして、それらのユーザーのプロファイルに固有の VHDX ファイルを生成します。

Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Management は、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損が発生した場合はそのコピーに復元できます。この目的を達成するには、Outlook の検索インデックスローミングを有効にし、Outlook 検索インデックスデータ

ベースのバックアップと復元ポリシーを有効にします。詳細については、「Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元」を参照してください。

前提条件

ソフトウェア要件:

- マイクロソフト Windows 10 1709 以降
- Windows Server 2016 またはそれ以降
- Microsoft Outlook 2016 (32 ビットまたは 64 ビット) または Microsoft Office 365

Microsoft Windows Search Service (SearchIndexer.exe) の以下のバージョンはテスト済みであり、サポートされています。

- 7.0.17134.376
- 7.0.17134.285
- 7.0.17134.228
- 7.0.17134.1
- 7.0.16299.402
- 7.0.16299.248
- 7.0.16299.15
- 7.0.15063.413
- 7.0.14393.2457
- 7.0.14393.2430
- 7.0.14393.2368
- 7.0.14393.2312
- 7.0.14393.2273
- 7.0.14393.2248
- 7.0.14393.1884
- 7.0.10240.17443
- 7.0.9600.18722
- 7.0.1493.1593
- 7.0.1393.2125
- 7.0.1393.1884

- 7.0.1393.1770

注記:

- 複数のマシンでの同時セッションはサポートされていません。
- この機能は、Microsoft Windows Search Serviceの将来のバージョンをサポートすることが期待されています。この機能がMicrosoft Windows Search Serviceの特定の将来のバージョンをサポートしないことが判明した場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

Outlook 検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Managementは、Outlookの検索インデックスローミングを有効にする機能の安定性を確保するためのソリューションを提供します。これは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損した場合にそのコピーに復元することで実現されます。その結果、データベースが破損した場合に手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。

この機能はデフォルトで無効になっています。使用するには、まずOutlookの検索インデックスローミングを有効にする必要があります。Outlookの検索インデックスローミングについて詳しくは、「ネイティブOutlook検索エクスペリエンスを有効にする」を参照してください。

Outlookの検索インデックスローミングを有効にした後、この機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート：ポリシー定義 (ADM) > クラシック管理用テンプレート (ADM) > Citrix® > Profile Management > 詳細設定**で、**Outlook検索インデックスデータベース - バックアップと復元**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

Citrix StudioでProfile Managementポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studioの左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「Outlook検索インデックスデータベース - バックアップと復元」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**Outlook検索インデックスデータベース - バックアップと復元**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

動作の仕組み

この機能が有効になっている場合、Profile Managementは、ログオン時にデータベースが正常にマウントされるたびに、検索インデックスデータベースのバックアップを保存します。Profile Managementは、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。Profile Managementは、このバックアップを検索インデックスデータベースの正常なコピーとして扱います。検索インデックスデータベースのマウント試行が失敗した場合、Profile Managementは検索インデックスデータベースを自動的に最後に確認された正常なコピーに復元します。

> **重要:**

> - Profile Management は、ポリシーが有効になり、検索インデックスデータベースが初めて作成された後、検索インデックスデータベースのバックアップを保存しません。
> - Profile Management は、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは、VHDX ファイルの利用可能なストレージ領域をより多く消費します。

プロファイルコンテナ

> **重要:**

> この機能はWindows 7では動作しません。

ユーザープロファイルに関連付けられた大きなフォルダーは、ログオンの遅延を引き起こします。Profile Managementは、プロファイルディスク（VHDXファイル）に含めるフォルダーを指定できるVHDXベースのプロファイルソリューションを提供します。このソリューションは、指定されたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングすることで、ログオン時間を短縮します。プロファイルコンテナは、ログオン時にこれらのフォルダーを含むプロファイルディスクをアタッチするため、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。これにより、ログオン時間が短縮されます。

注:

- VHDXファイルの最大許容サイズは50 GBです。この値を変更することはできません。
- Profile Managementは、VHDXファイルが保存されているフォルダーに自動的にアクセス許可を付与します。これにより、Profile ManagementサービスはVHDXファイルにアクセスしてマウントできるようになります。
- VHDXファイルは、手動でファイルを削除しても自動的に縮小されません。VHDXファイルのサイズを縮小したい場合は、ディスクの管理に移動し、該当するボリュームを右クリックして、**ボリュームの縮小**を選択します。

注意すべき2つのシナリオがあります。

- プロファイルコンテナは、複数のセッションによる同時アクセスをサポートしていません。
- プロファイルコンテナは、プロファイル全体を格納することをサポートしていません。

プロファイルディスクは、ユーザーのユーザーストアパスに保存されます。たとえば、ユーザーストアパスを `\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!` として構成した場合、プロファイルディスクは `\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\ProfileContainer\!ctx_osname!` にあります。

プロファイルコンテナの仕組みを理解するには、キャッシュフォルダーなどのプロファイル関連の大きなフォルダーを保存するために設計されたセカンダリユーザーストアと見なすことができます。フォルダーが除外リストに含まれていても、プロファイルコンテナ機能を有効にしてフォルダーをプロファイルコンテナリストに追加すると、それらはプロファイルディスクに保存されます。

プロファイルコンテナ機能を有効にしてから無効にしたとします。一貫性のあるユーザープロファイルを確保するために、Profile Managementはユーザーストアプロファイルをプロファイルコンテナと同期します。この同期はユーザーログオン時に行われます。除外リスト内のフォルダーはユーザーストアにコピーされません。

プロファイルコンテナ機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > ファイルシステム > 同期**で、Profile containerポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックして、プロファイルコンテナーに含めるフォルダーの相対パスを追加します。サイズの大きいキャッシュファイルを含むフォルダーを追加することをお勧めします。たとえば、Citrix Filesコンテンツキャッシュフォルダーをリストに追加します: `AppData\Local\Citrix\Citrix Files\PartCache`。

   > **注：**
   >
   > プロファイルコンテナーに追加したフォルダーは、ユーザーストアにも存在します。プロファイルコンテナー機能を有効にすると、Profile Managementはプロファイルコンテナーとユーザーストアの間でフォルダーを同期させます。

   > プロファイルコンテナーにフォルダーを追加する(/en-us/profile-management/1912-ltsr/media/folders-contained-in-profile-container.jpg)

5. **OK**をクリックします。

> **注：**
>
> 特定のユーザーのプロファイルディスクに含まれるフォルダーを削除するには、Citrix Directorからプロファイルのリセットを実行できます。詳しくは、「ユーザープロファイルをリセットする」を参照してください。

ポリシー

プロファイル管理ポリシー

この記事では、.admファイルと.admxファイル内のポリシーの重要な側面について説明します。

プロファイル管理変数

このバージョンのプロファイル管理では、グループポリシーと.iniファイルの両方で使用できる次の変数が利用可能です。

ファイルとレジストリエントリを定義するポリシーの場合、次の変数は次のように展開されます。

変数	バージョン1プロファイルの展開	バージョン2プロファイルの展開
!ctx_localsettings!	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`
!ctx_roamingappdata!	アプリケーションデータ	`AppData\Roaming`
!ctx_startmenu!	スタートメニュー	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu`
!ctx_internetcache!	`Local Settings\Temporary Internet Files`	`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
!ctx_localappdata!	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`

パスを構築するために使用されるポリシーの場合、`\!ctx\_osbitness\!` 変数はオペレーティングシステムに応じてx86またはx64に展開されます。次の変数も展開されます。

- \!ctx_osname\! は、オペレーティングシステムに応じて次のように短い名前に展開されます。

- \!ctx_profilever\! は、オペレーティングシステムに応じて、プロファイルバージョンに次のように展開されます。

Profile Management Service が起動すると、長い名前がログファイルに書き込まれます。

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows 10 Redstone 6`	ウィン10RS6	v6
`Windows 10 Redstone 5`	ウィン10RS5	v6
`Windows 10 Redstone 4`	ウィン10RS4	v6
`Windows 10 Redstone 3`	ウィン10RS3	v6
`Windows 10 Redstone 2`	ウィン10RS2	v6
`Windows 10 Redstone 1`	ウィン10RS1	v6
ウィンドウズ 10	Win10	v5
ウィンドウズ 8.1	Win8.1	v4 または v2
ウィンドウズ 8	Win8	v3 または v2
ウィンドウズ 7	Win7	v2
Windows サーバー 2019	Win2019	v6
Windows サーバー 2016	Win2016	v6
ウィンドウズ サーバー 2012 R2	ウィン2012R2	v4 または v2
Windows サーバー 2012	Win2012	v3 または v2
Windows サーバー 2008 R2	Win2008	v1
ウィンドウズ サーバー 2008	Win2008	v1

注:

> Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012、および Windows Server 2012R2 の場合、実際のプロファイルバージョンが変更される可能性があります。`HLKM\System\CurrentControlset\Services\ProfSvc\Parameters` の下の `UseProfilePathExtensionVersion` レジストリキーが 1 に設定されている場合、プロファイルバージョンはオペレーティングシステムに応じて v3 または v4 になります。設定されていないか、0 に設定されている場合、プロファイルバージョンは v2 です。

バージョン別のポリシー

移行を支援するため、以下の表は、Profile Management の異なるバージョンで利用可能なポリシー、.adm (または .admx) ファイルおよび .ini ファイル内の各ポリシーの場所、および各ポリシーが設計されている機能 (またはすべての展開の基本構成の一部であるかどうか) を示しています。

.adm または .admx ファイル内の場所は、`Citrix > Profile Management` を基準としています。

バージョン 1909 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
MigrateUserStore		MigrateUserStore	UserStoreの移行
OutlookEdbBackupEnabled	\AdvancedSettings	OutlookEdbBackupEnabled	Outlook検索インデックスデータベース - バックアップと復元
ApplicationProfilesAutoMigration	\AdvancedSettings	ApplicationProfilesAutoMigration	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

バージョン1903から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainer	**バージョン 2009 より前:** \FileSystemSettings\FSSynchronization	ProfileContainer	プロファイルコンテナ

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
	バージョン 2009 以降: \ProfileContainer		

バージョン 7.18 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
OutlookSearchRoamingEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingEnabled	Outlook 検索ローミング

バージョン 7.16 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
XenAppOptimizationSettings	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationSettings	CVAD アプリケーションの最適化
XenAppOptimizationDefinitionPath	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationDefinitionPath	CVAD アプリケーションの最適化
LargeFileHandlingList	\FileSystemSettings	LargeFileHandlingList	大規模ファイルの処理

バージョン 7.15 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
LogonExclusionCheck	\FileSystemSettings	LogonExclusionCheck	ログオン除外チェック

バージョン 5.8 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
StreamingExclusionList	\PsSettings	StreamingExclusionList	プロファイルストリーミング除外リスト

バージョン 5.6 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
CEIP有効	\AdvancedSettings	CEIP有効	CEIP
PSMidSessionWriteBackReg		PSMidSessionWriteBackReg	アクティブライトバックレジストリ

バージョン 5.5 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
デフォルトの除外リスト	\Registry	DefaultExclusionListRegistry	ベース
NTUSER.DAT	\Registry	LastKnownGoodRegistry	バックアップNTUSER.DAT
デフォルトの除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	DefaultSyncExclusionListDir	ベース

バージョン5.0から5.4で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
除外されるグループ		ExcludedGroups	除外グループ
自動構成を無効にする	\詳細設定	DisableDynamicConfig	自動構成

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
AppData (Roaming) フォルダーのリダイレクト、デスクトップフォルダーのリダイレクト、...	\フォルダーリダイレクト (ユーザーの構成内)	注: 適用されません	XenDesktopとの統合
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	\プロファイル処理	ProfileDeleteDelay	ベース

バージョン4.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	\クロスプラットフォーム設定	CPUserGroupList	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を有効にする	\クロスプラットフォーム設定	CP有効	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース	\クロスプラットフォーム設定	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム定義へのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPパス	クロスプラットフォーム設定
オフラインプロファイルのサポート	\クロスプラットフォーム設定	OfflineSupport	オフラインプロファイル

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	\詳細設定	LogoffRatherThanTempProfile	トラブルシューティングの改善

バージョン3.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
アクティブライトバック		PSMidSessionWriteBack	アクティブプロファイルのライトバック (バージョン4.0では「Active write back」に名称変更)
ミラーするフォルダー (バージョン3.1以降で利用可能)	\ファイルシステム\同期	MirrorFoldersList	フォルダーミラーリング
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する (バージョン3.1以降で利用可能)	\詳細設定	ProcessCookieFiles	フォルダーミラーリング
リダイレクトされたフォルダーの削除 (バージョン 3.2、3.2.2、および 4.0 で利用可能)	\詳細設定	DeleteRedirectedFolders	フォルダーリダイレクトのサポート
常にキャッシュ	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSAlwaysCache	ストリーミングユーザープロファイル
プロファイルストリーミング	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PS 有効	ストリーミングユーザープロファイル
ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSPendingLockTimeout	ストリーミングユーザープロファイル

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSUserGroupsList	ストリーミングユーザープロファイル

バージョン 2.x から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ユーザーストアへのパス		PathToUserStore	ベース
処理されるグループ		ProcessedGroups	ベース
ローカルプロファイルの競合処理	\プロファイル処理	LocalProfileConflictHandling	ベース
既存プロファイルの移行	\プロファイル処理	MigrateWindowsProfilesToUserStore	ベース
テンプレートプロファイル	\プロファイル処理	テンプレートプロファイルパス, テンプレートプロファイルオーバーライドローミングプロファイル, テンプレートプロファイルオーバーライドローカルプロファイル	ベース
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	\プロファイル処理	DeleteCachedProfilesOnLogoff	ベース
MFTキャッシュファイルのディレクトリ(バージョン5.0で削除)	\詳細設定	USNDBパス	ベース

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
同期するディレクトリ	\ファイルシステム\同期	SyncDirList	ベース
除外リスト	\Registry	ExclusionListRegistry	ベース
同期するファイル	\File system\Synchronization	SyncFileList	ベース
包含リスト	\Registry	InclusionListRegistry	ベース
除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	SyncExclusionListDir	ベース
除外リスト - ファイル	\ファイルシステム	SyncExclusionListFiles	ベース
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	\詳細設定	LoadRetries	基本
ローカル管理者によるログオンの処理		ProcessAdmin	基本
プロファイル管理を有効にする		ServiceActive	基本
ログの有効化	\ログ設定	LoggingEnabled	ログ
ログ設定	\ログ設定	LogLevel	ログ
ログファイルの最大サイズ	\ログ設定	MaxLogSize	ログ
ログファイルへのパス (バージョン 2.1 以降で利用可能)	\ログ設定	PathToLogFile	ログ

Profile Managementのポリシーの説明とデフォルト

この記事では、Profile Managementの.admファイルと.admxファイルに含まれるポリシー、およびファイルの構造について説明します。さらに、各ポリシーのデフォルト設定を一覧表示します。

同等の.iniファイル設定の名前や、特定のポリシーに必要なProfile Managementのバージョンなどの詳細については、「Profile Managementのポリシー」を参照してください。

グループポリシーオブジェクトエディターでは、ほとんどのポリシーが **コンピューターの構成 \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート \> Citrix** の下に表示されます。リダイレクトされたフォルダーポリシーは、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> 従来の管理用テンプレート \> Citrix** の下に表示されます。

.admファイルと.admxファイルのセクション

すべてのProfile Managementポリシーは、Citrix®フォルダーにある以下のセクションに含まれています。セクションに「ユーザーの構成」とラベル付けされていない限り、ポリシーはグループポリシーエディターの［コンピューターの構成］の下にあります。

プロファイル管理

プロファイル管理\フォルダーリダイレクト（ユーザーの構成）

プロファイル管理\プロファイル処理

プロファイル管理\詳細設定

プロファイル管理\ログ設定

プロファイル管理\レジストリ

プロファイル管理\ファイルシステム

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

プロファイル管理\ストリーム配信ユーザープロファイル

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

プロファイル管理

Profile Management を有効にする

既定では、展開を容易にするため、Profile Management はログオンまたはログオフを処理しません。Profile Management は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix ユーザープロファイルが環境でどのように動作するかをテストした後にのみ有効にしてください。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は Windows ユーザープロファイルを一切処理しません。

処理されるグループ

コンピューターのローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）の両方を使用できます。ドメイングループは「DOMAIN NAME\GROUP NAME」の形式で指定します。

このポリシーがここで構成されている場合、Profile Management はこれらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はすべてのユーザーを処理します。このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。

除外されるグループ

コンピューターローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）を使用して、特定のユーザープロファイルが処理されないようにすることができます。ドメイングループは、DOMAIN NAME\ GROUP NAME の形式で指定します。

この設定がここで構成されている場合、Profile Management はこれらのユーザーグループのメンバーを除外します。この設定が無効になっている場合、Profile Management はどのユーザーも除外しません。この設定がここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。

ローカル管理者によるログオンの処理

BUILTIN\Administrators グループのメンバーによるログオンを処理するかどうかを指定します。このポリシーがマルチセッションオペレーティングシステム（Citrix Virtual Apps 環境など）で無効になっているか構成されていない場合、Profile Management は、ドメインユーザーによるログオンは処理する必要があるが、ローカル管理者によるログオンは処理しないと想定します。シングルセッションオペレーティングシステム（Citrix Virtual Desktops 環境など）では、ローカル管理

者によるログオンが処理されます。このポリシーにより、ローカル管理者権限を持つドメインユーザー（通常、割り当てられた仮想デスクトップを持つ Citrix Virtual Desktops ユーザー）は、処理をバイパスしてログオンし、Profile Management で問題が発生しているデスクトップのトラブルシューティングを行うことができます。

注： ドメインユーザーのログオンは、通常、製品ライセンスへの準拠を確実にするために、グループメンバーシップによって課される制限の対象となる場合があります。 このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はローカル管理者によるログオンを処理しません。このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、管理者は処理されません。

ユーザーストアへのパス

ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されるディレクトリ（ユーザーストア）へのパスを設定します。

パスは次のいずれかです。

- 相対パス。ホームディレクトリ（通常、Active Directory のユーザーの `#homeDirectory#` 属性として構成されます）に対する相対パスである必要があります。
- UNCパス。通常、サーバー共有またはDFS名前空間を指定します。
- 無効または未構成。この場合、`#homeDirectory#\Windows` の値が想定されます。

このポリシーでは、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: `%ProfVer%`）。システム環境変数は通常、追加のセットアップが必要です。
- ハッシュで囲まれた Active Directory ユーザーオブジェクトの属性（例: `#sAMAccountName#`）。
- Profile Management変数。詳しくは、Profile Management変数の製品ドキュメントを参照してください。

`%username%` と `%userdomain%` を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどを完全に定義するために、カスタム属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの#sAMAccountName#がJohnSmithに解決される場合）。

- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`は`\\server\profiles$\JohnSmith.DOMAINCONTROLLER1\Win8x64`に展開される場合があります。

重要：使用する属性または変数に関係なく、このポリシーがNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile`に含まれる場合、ユーザー ストアへのパスを`\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64`に設定します（\UPM_Profileサブフォルダーではありません）。

ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。

このポリシーが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ホームドライブのWindowsディレクトリが使用されます。

ユーザーストアの移行

ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が以前に保存されていたフォルダーへのパス（以前使用していたユーザーストアパス）を指定します。

この設定が構成されている場合、以前のユーザーストアに保存されていたユーザー設定は、「ユーザーストアへのパス」ポリシーで指定された現在のユーザーストアに移行されます。

パスは、絶対UNCパスまたはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。

どちらの場合も、パーセント記号で囲まれたシステム環境変数と、ハッシュ記号で囲まれたActive Directoryユーザーオブジェクトの属性という、次の種類の変数を使用できます。

例:

- フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー設定をユーザーストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します（%ProfileVer% がW2K3に解決されるシステム環境変数である場合）。
- `\\server\share#SAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します（`#SAMAccountName#` が現在のユーザーに対してJohnSmithに解決される場合）。

パスでは、`%username%` と `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できます。

この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの対応する設定が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。

アクティブライトバック

変更されたファイルとフォルダー（レジストリエントリを除く）は、ログオフする前にセッション中にユーザーストアに同期できます。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、有効になります。

オフラインプロファイルのサポート

このポリシーにより、プロファイルは可能な限り早い機会にユーザーストアと同期できます。これは、ローミングするラップトップまたはモバイルデバイスのユーザーを対象としています。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上で無傷のままです。モバイルユーザーが作業するにつれて、プロファイルはローカルで更新され、ネットワーク接続が再確立されると最終的にユーザーストアと同期されます。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

アクティブライトバックレジストリ

「アクティブライトバック」と合わせてこのポリシーを使用してください。変更されたレジストリエントリは、セッション中にユーザーストアに同期できます。

ここでこの設定を構成しない場合、.iniファイルの値が使用されます。

ここでも.iniファイルでもこの設定を構成しない場合、アクティブライトバックレジストリは無効になります。

オフラインプロファイルのサポート

オフラインプロファイル機能を有効にします。この設定は、通常、ネットワークから切断されることが多いコンピューター（通常はラップトップやモバイルデバイス）を対象としており、サーバーやデスクトップは対象ではありません。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、オフラインプロファイルのサポートは無効になります。

プロファイル管理\フォルダーリダイレクト（ユーザー構成）

このセクションのポリシー（例: AppData(Roaming) フォルダーのリダイレクト）は、プロファイルに一般的に表示されるフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびリダイレクトターゲットを指定します。ターゲットは UNC パス（サーバー共有または DFS 名前空間の場合）またはユーザーのホームディレクトリに対する相対パスとして指定します。これは通常、Active Directory の `#homeDirectory#` 属性で構成されます。

ここでポリシーが構成されていない場合、Profile Management は指定されたフォルダーをリダイレクトしません。

注：フォルダーリダイレクトに UNC パスを使用する場合、`#homedirectory#` 変数はサポートされません。「ユーザーのホームディレクトリにリダイレクト」ポリシーを選択した後、パスを指定する必要はありません。

「`<folder-name>` フォルダーのリダイレクト」ポリシーでは、`<folder-name>` フォルダーをリダイレクトする方法を指定できます。これを行うには、**「有効」**を選択し、リダイレクトされたパスを入力します。

注意： データ損失が発生する可能性があります。

ポリシーが有効になった後でパスを変更したい場合があります。ただし、変更する前に潜在的なデータ損失を考慮してください。変更されたパスが以前のパスと同じ場所を指している場合、リダイレクトされたフォルダーに含まれるデータが削除される可能性があります。

たとえば、連絡先のパスをpath1として指定したとします。後でpath1をpath2に変更します。path1とpath2が同じ場所を指している場合、ポリシーが有効になった後、リダイレクトされたフォルダーに含まれるすべてのデータが削除されます。

潜在的なデータ損失を回避するには、次の手順を実行します。

1. Active Directoryグループポリシーオブジェクトを介して、Profile Managementが実行されているマシンにMicrosoftポリシーを適用します。これを行うには、グループポリシー管理コンソールを開き、**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**に移動して、**フォルダーのリダイレクトの前に、古いターゲットと新しいターゲットが同じ共有を指していることを確認する**を有効にします。
2. 該当する場合は、Profile Managementが実行されているマシンに修正プログラムを適用します。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/977229>`および`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2799904>`を参照してください。

プロファイル管理\プロファイル処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

ログオフ後にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するかどうかを指定します。

このポリシーが有効になっている場合、ユーザーのローカルプロファイルキャッシュはログオフ後に削除されます。この設定はターミナルサーバーに推奨されます。このポリシーが無効になっている場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

注：キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を使用して、ログオフ時にプロファイルを削除するタイミングを制御できます。 ここで「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延に、オプションの延長を設定します。値が0の場合、ログオフプロセスの終了時にプロファイルがすぐに削除されます。Profile Managementは1分ごとにログオフをチェックします。したがって、値が60の場合、ユーザーがログオフしてから1～2分後（最後のチェックが行われた時期による）にプロファイルが削除されることが保証されます。ログオフ中にプロセスがファイルまたはユーザーレジストリハイブを開いたままにしていることがわかっている場合、遅延を延長すると便利です。大規模なプロファイルの場合、この設定はログオフを高速化することもできます。

重要：このポリシーは、「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」が有効になっている場合にのみ機能します。 このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルはすぐに削除されます。

既存プロファイルの移行

ユーザーがユーザーストアにプロファイルを持っていない場合、Profile Managementはログオン中に既存のプロファイルを「オンザフライ」で移行できます。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、**ローミング**を選択します。

ログオン中に次のイベントが発生します。既存のWindowsプロファイルが見つかり、ユーザーがまだユーザーストアにCitrixユーザープロファイルを持っていない場合、Windowsプロファイルはオンザフライでユーザーストアに移行（コピー）されます。このプロセス後、ユーザーストアプロファイルは、現在のセッションおよび同じユーザーストアへのパスで構成された他のすべてのセッションでProfile Managementによって使用されます。

この設定が有効になっている場合、プロファイルの移行は、ローミングプロファイルとローカルプロファイル（デフォルト）、ローミングプロファイルのみ、ローカルプロファイルのみに対してアクティブ化できます。または、プロファイルの移行を完全に無効にすることもできます。プロファイルの移行が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、Profile Managementを使用しないセットアップと同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルが移行されます。このポリシーが無効になっている場合、プロファイルは移行されません。このポリシーが無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、Profile Managementを使用しないセットアップと同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

この設定は、異なるオペレーティングシステム間での既存のアプリケーションプロファイルの自動移行を有効または無効にします。アプリケーションプロファイルには、**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリの両方が含まれます。この設定は、異なるオペレーティングシステム間でアプリケーションプロファイルを移行したい場合に役立ちます。

たとえば、オペレーティングシステム（OS）をWindows 10バージョン1803からWindows 10バージョン1809にアップグレードするとします。この設定が有効になっている場合、Profile Managementは、各ユーザーが最初にログオンしたときに、既存のアプリケーション設定をWindows 10バージョン1809に自動的に移行します。その結果、**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリが移行されます。

複数の既存のアプリケーションプロファイルがある場合、Profile Managementは次の優先順位で移行を実行します。

1. 同じOSタイプのプロファイル（シングルセッションOSからシングルセッションOS、マルチセッションOSからマルチセッションOS）。
2. 同じWindows OSファミリーのプロファイル（例：Windows 10からWindows 10、またはWindows Server 2016からWindows Server 2016）。
3. 以前のバージョンのOSのプロファイル（例：Windows 7からWindows 10、またはWindows Server 2012からWindows 2016）。
4. 最も近いOSのプロファイル。

注： ユーザーストアパスに変数「!CTX_OSNAME!」を含めることで、OSの短い名前を指定する必要があります。これにより、Profile Managementは既存のアプリケーションプロファイルを特定できます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。

ここまたは.iniファイルでこの設定が構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

ローカルプロファイルの競合処理

このポリシーは、ユーザーストア内のプロファイルとローカルのWindowsユーザープロファイル（Citrixユーザープロファイルではない）の両方が存在する場合に、Profile Managementがどのように動作するかを構成します。

このポリシーが無効になっているか、デフォルト値の「ローカルプロファイルを使用」に設定されている場合、Profile Managementはローカルプロファイルを使用しますが、それを一切変更しません。このポリシーが「ローカルプロファイルを削除」に設定されている場合、Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを削除します。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。このポリシーが「ローカルプロファイルの名前を変更」に設定されている場合、Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルの名前を変更します（バックアップ目的のため）。その後、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここででも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイル

テンプレートとして使用するプロファイルのパスを指定します。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートプロファイルに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーへの完全なパスです。

重要: パスにNTUSER.DATを含めないでください。たとえば、ファイル`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`の場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。 UNCパスまたはローカルマシン上のパスである絶対パスを使用します。後者を使用すると、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージにテンプレートプロファイルを永続的に指定できます。相対パスはサポートされていません。

このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。

このポリシーが無効になっている場合、テンプレートは使用されません。このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementはユーザープロファイルを作成するときに、ローカルのデフォルトプロファイルの代わりにテンプレートを使用します。ユーザーにCitrixユーザープロファイルがないが、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。そして、このポリシーが無効になっていない場合、ローカルプロファイルはユーザーストアに移行されます。この設定は、**ローカルプロファイルを上書きするテンプレートプロファイル**または**移動プロファイルを上書きするテンプレートプロファイル**チェックボックスを有効にすることで変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別することは、Windows強制プロファイルと同様に、変更が保存されないことを意味します。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここででも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、テンプレートは使用されません。

プロファイル管理\詳細設定

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定します。

このポリシーが無効になっている場合、5回の再試行のデフォルト値が使用されます。ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

一部の展開では、Index.datファイルによって参照されない余分なインターネットCookieが残されます。継続的なブラウジングの後、ファイルシステムに残された余分なCookieは、プロファイルの肥大化につながる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Index.datの処理が強制され、余分なCookieが削除されます。このポリシーはログオフ時間を増加させるため、この問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここででも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、Index.datの処理は行われません。

自動構成を無効にする

Profile Managementは、Citrix Virtual Desktops™環境（たとえば、パーソナルvDiskの有無など）を検査し、それに応じてグループポリシーを構成します。未構成状態のProfile Managementポリシーのみが調整されるため、行ったカスタマイズはすべて保持されます。この機能により、展開が高速化され、最適化が簡素化されます。この機能の構成は不要ですが、アップグレード時（以前のバージョンの設定を保持するため）またはトラブルシューティング時に自動構成を無効にすることができます。自動構成は、Citrix Virtual Appsやその他の環境では機能しません。

自動構成は、実行時に環境に応じてデフォルトのポリシー設定を自動的に構成する動的な構成チェッカーと見なすことができます。これにより、設定を手動で構成する必要がなくなります。実行時環境には以下が含まれます。

- ウィンドウズ OS
- Windows OS のバージョン
- シトリックス バーチャル デスクトップの有無
- パーソナル vDisk の有無

環境が変更された場合、自動構成によって以下のポリシーが変更される可能性があります。

- アクティブライトバック
- 常にキャッシュ
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する
- キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延
- プロファイルストリーミング

以下の表に、異なるOSにおける前述のポリシーのデフォルトステータスを示します。

	マルチセッションOS	シングルセッションOS
アクティブライトバック	有効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は、有効。
常にキャッシュ	無効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は、有効。
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	有効	Personal vDiskが使用されている場合、またはCitrix Virtual Desktopsが割り当てられている場合、またはCitrix Virtual Desktopsがインストールされていない場合は*無効*。それ以外の場合は有効。
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	0秒	ユーザーの変更が永続的でない場合は60秒。それ以外の場合は0秒。
プロファイルストリーミング	有効	Personal vDiskが使用されている場合は*無効*。それ以外の場合は、有効。

ただし、自動構成が無効になっている場合、上記のすべてのポリシーはデフォルトで**無効**になります。

Profile Management 1909以降、Windows 10（バージョン1607以降）およびWindows Server 2016以降のスタートメニューで改善されたエクスペリエンスを得ることができます。これは、以下のポリシーの自動構成によって実現されます。

- **ミラーするフォルダー**に`Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`と`Appdata\Local\Packages`を追加します
- **同期するファイル**に`Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.Dat*`を追加します

> **注:**

> Citrix Profile Management 1912以降、除外リストに追加されたフォルダーは、**ミラーするフォルダー**に追加しても同期できません。回避策として、`appdata\local\packages`フォルダーを**ミラーするフォルダー**に追加する前に、除外リストから削除してください。

> ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、自動構成がオンになるため、環境が変更されるとProfile Managementの設定が変更される可能性があります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする

このポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、問題が発生したとき（たとえば、ユーザーストアが利用できない場合）にユーザーには一時プロファイルが与えられます。有効になっている場合、エラーメッセージが表示され、ユーザーはログオフされます。この設定により、問題のトラブルシューティングが簡素化されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、一時プロファイルが提供されます。

カスタマー エクスペリエンス向上プログラム

デフォルトでは、カスタマーエクスペリエンス向上プログラムが有効になっており、匿名の統計情報と使用状況情報を送信することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てられます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

Outlook の検索インデックス ローミングを有効にする

ユーザープロファイルとともにOutlook検索データを自動的にローミングすることで、ユーザーベースのOutlook検索エクスペリエンスを許可します。これには、Outlookの検索インデックスを保存するために、ユーザーストアに追加のスペースが必要です。

このポリシーを有効にするには、ログオフしてから再度ログオンしてください。

Outlook 検索インデックス データベース – バックアップと復元

この設定は、Outlookの検索インデックスローミングが有効になっている場合に、ログオン中にProfile Managementが何を行うかを構成します。

この設定が有効になっている場合、Profile Managementは、ログオン時に検索インデックスデータベースが正常にマウントされるたびに、そのバックアップを保存します。Profile Management

は、そのバックアップを検索インデックスデータベースの良好なコピーとして扱います。データベースが破損したために検索インデックスデータベースのマウントが失敗した場合、Profile Managementは検索インデックスデータベースを最後に確認された良好なコピーに自動的に復元します。

注：Profile Managementは、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは、VHDXファイルの利用可能なストレージスペースを消費します。

プロファイル管理\ログ設定

ログの有効化

このポリシーはログ記録を有効または無効にします。Profile Management のトラブルシューティングを行う場合にのみ、このポリシーを有効にしてください。

このポリシーが無効になっている場合、エラーのみがログに記録されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここまたは .ini ファイルで構成されていない場合、エラーのみがログに記録されます。

ログ設定

これは、特定の活動に焦点を当てるために使用できるポリシーのセットです。トラブルシューティングを行う場合にのみこれらのポリシーを設定し、Citrix の担当者から別の指示がない限り、すべて設定してください。

これらのポリシーがここで構成されていない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。これらのポリシーがここまたは .ini ファイルで構成されていない場合、エラーと一般情報がログに記録されます。

これらのポリシーのチェックボックスは、.ini ファイルの次の設定に対応しています: LogLevelWarnings, LogLevelInformation, LogLevelFileSystemNotification, LogLevelFileSystemActions, LogLevelRegistryActions, LogLevelRegistryDifference, LogLevelActiveDirectoryActions, LogLevelPolicyUserLogon, LogLevelLogon, LogLevelLogoff, and LogLevelUserName.

ログファイルの最大サイズ

Profile Management のログファイルの最大サイズのデフォルト値は小さいです。十分なディスク容量がある場合は、増やしてください。ログファイルが最大サイズを超えて大きくなった場合、既存のファイルのバックアップ (.bak) は削除されます。ログファイルは .bak に名前が変更され、

新しいログファイルが作成されます。ログファイルは %SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager に作成されます。

このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の 10 MB が使用されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここまたは .ini ファイルで構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログファイルへのパス

ログファイルが保存される代替パスを設定します。

パスはローカルドライブまたはリモートのネットワークベースのドライブ (UNC パス) を指すことができます。リモートパスは大規模な分散環境で役立つ場合がありますが、ログファイルには不適切な大量のネットワークトラフィックを生成する可能性があります。永続的なハードドライブを持つプロビジョニングされた仮想マシンでは、そのドライブへのローカルパスを設定してください。この設定により、マシンが再起動してもログファイルが保持されます。永続的なハードドライブを持たない仮想マシンでは、UNC パスを設定することでログファイルを保持できます。ただし、マシンのシステムアカウントは UNC 共有への書き込みアクセス権を持っている必要があります。オフラインプロファイル機能によって管理されるラップトップにはローカルパスを使用してください。

ログファイルに UNC パスを使用する場合、Citrix はログファイルフォルダーに適切なアクセス制御リストを適用することを推奨します。この設定により、承認されたユーザーまたはコンピューターアカウントのみが保存されたファイルにアクセスできるようになります。

例:

- D:\LogFiles\ProfileManagement.
- `\\server\LogFiles\ProfileManagement`

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここまたは .ini ファイルで構成されていない場合、デフォルトの場所 %SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager が使用されます。

プロファイル管理\レジストリ

除外リスト

ログオフ時に無視されるHKCUハイブ内のレジストリキーのリスト。

例: Software\Policies

このポリシーが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

包含リスト

ログオフ時に処理されるHKCUハイブ内のレジストリキーのリスト。

例: Software\Adobe。

このポリシーが有効になっている場合、このリストにあるキーのみが処理されます。このポリシーが無効になっている場合、HKCUハイブ全体が処理されます。ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、HKCUのすべてが処理されます。

デフォルトの除外リストを有効にする - Profile Management 5.5

ユーザープロファイルに同期されないHKCUハイブ内のレジストリキーのデフォルトリスト。このポリシーを使用して、GPO除外ファイルを手動で入力することなく指定できます。

このポリシーを無効にすると、Profile Management はデフォルトでレジストリキーを除外しません。ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。ここで、または .ini ファイルでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management はデフォルトでレジストリキーを除外しません。

NTUSER.DATのバックアップ

NTUSER.DAT の最後に正常に動作したコピーのバックアップを有効にし、破損がある場合にロールバックします。

ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。ここで、または .ini ファイルでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は NTUSER.DAT をバックアップしません。

プロファイル管理\ファイルシステム

除外リスト - ファイル

同期中に無視されるファイルのリスト。ファイル名はユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスである必要があります。ワイルドカードが許可され、再帰的に適用されます。

例:

- Desktop\Desktop.ini は、Desktop フォルダー内のファイル Desktop.ini を無視します。

- %USERPROFILE%*.tmp は、プロファイル全体にある拡張子 .tmp のすべてのファイルを無視します。
- AppData\Roaming\MyApp*.tmp は、プロファイルの一部にある拡張子 .tmp のすべてのファイルを無視します。

このポリシーが無効になっている場合、ファイルは除外されません。このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ

同期中に無視されるディレクトリのデフォルトリスト。このポリシーを使用して、GPO 除外ディレクトリを手動で入力することなく指定できます。

このポリシーを無効にすると、Profile Management はデフォルトでどのディレクトリも除外しません。ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。ここで、または .ini ファイルでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management はデフォルトでどのディレクトリも除外しません。

除外リスト - ディレクトリ

同期中に無視されるフォルダーのリスト。フォルダー名はユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスとして指定する必要があります。

例:

- Desktop は、ユーザープロファイル内の Desktop フォルダーを無視します。

このポリシーが無効になっている場合、フォルダーは除外されません。このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

ログオン除外チェック

この設定は、ユーザー ストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを構成します。

この設定が無効になっているか、「ログオン時に除外されたファイルまたはフォルダーを同期する」のデフォルト値に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザー ストアからローカル プロファイルに同期します。

この設定が「ログオン時に除外されたファイルまたはフォルダーを無視する」に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

この設定が「ログオン時に除外されたファイルまたはフォルダーを削除する」に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここで、または .ini ファイルで構成されていない場合、ユーザーがログオンすると、除外されたファイルまたはフォルダーはユーザー ストアからローカル プロファイルに同期されます。

大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル

ログオンパフォーマンスを向上させ、大容量ファイルを処理するために、このリスト内のファイルをコピーする代わりにシンボリックリンクが作成されます。

ファイルを参照するポリシーではワイルドカードを使用できます。例: `!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.OST`。

Microsoft Outlook のオフラインフォルダーファイル (`*.ost`) を処理するには、**Outlook** フォルダーが Profile Management の対象から除外されていないことを確認してください。

これらのファイルは、複数のセッションで同時にアクセスすることはできません。

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

同期するディレクトリ

Profile Management は、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。ユーザープロファイルのサブフォルダーをこのリストに追加して含める必要はありません。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。

例:

- Desktop\exclude\include は、Desktop\exclude というフォルダーが同期されない場合でも、include というサブフォルダーが同期されるようにします。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。

同期するファイル

Profile Management は、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。ユーザープロファイル内のファイルをこのリストに追加して含める必要はありません。

このポリシーは、除外されたフォルダーにファイルを含めるために使用できます。このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。ワイルドカードを使用できますが、ファイル名にのみ許可されます。ワイルドカードはネストできず、再帰的に適用されます。

例:

- AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat は、デフォルト構成で除外されているフォルダーの下のファイルを指定します。
- AppData\Local\MyApp*.cfg は、プロファイルフォルダー AppData\Local\MyApp およびそのサブフォルダー内の拡張子 .cfg を持つすべてのファイルを指定します。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。

ミラーリングするフォルダー

このポリシーは、トランザクションフォルダー（参照フォルダーとも呼ばれます）に関する問題の解決に役立ちます。このフォルダーには相互依存ファイルが含まれており、1つのファイルが他のファイルを参照します。フォルダーをミラーリングすることで、Profile Management はトランザクションフォルダーとその内容を単一のエンティティとして処理し、プロファイルの肥大化を防ぐことができます。たとえば、Internet Explorer のクッキーフォルダーをミラーリングして、Index.dat がインデックスを作成するクッキーと同期するようにできます。このような状況では、「最後の書き込みが優先されます」。そのため、複数のセッションで変更されたミラーリングされたフォルダー内のファイルは、最後の更新によって上書きされ、プロファイルの変更が失われます。

たとえば、ユーザーがインターネットを閲覧しているときにIndex.datがCookieを参照する方法を考えてみましょう。ユーザーがそれぞれ異なるサーバーで2つのInternet Explorerセッションを持ち、各セッションで異なるサイトにアクセスした場合、各サイトからのCookieは適切なサーバーに追加されます。ユーザーが最初のセッションからログオフするとき（または、アクティブライトバック機能が構成されている場合はセッションの途中で）、2番目のセッションからのCookieが最初のセッションからのCookieを置き換える必要があります。しかし、実際にはそれらはマージされ、Index.dat内のCookieへの参照は古くなります。新しいセッションでのさらなる閲覧は、繰り返しのマージと肥大化したCookieフォルダーにつながります。

Cookieフォルダーをミラーリングすることで、ユーザーがログオフするたびに、Cookieを最後のセッションからのCookieで上書きすることにより、この問題が解決されます。これにより、Index.datは常に最新の状態に保たれます。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここで、または .ini ファイルでこのポリシーが構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

プロファイルコンテナ

プロファイルコンテナーは、プロファイルディスクに含めるフォルダーを指定できる VHDX ベースのプロファイルソリューションです。プロファイルコンテナーは、それらのフォルダーを含むプロファイルディスクをアタッチするため、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。これにより、ログオン時間が短縮されます。

プロファイルコンテナーを使用するには、このポリシーを有効にし、フォルダーの相対パスをリストに追加します。大きなキャッシュファイルを含むフォルダーをリストに含めることをお勧めします。たとえば、Citrix Files のコンテンツキャッシュフォルダーをリストに追加します: `AppData\Local\Citrix\Citrix Files\PartCache`。

注意すべきシナリオが2つあります。

- プロファイルコンテナーは、複数のセッションによる同時アクセスをサポートしていません。
- プロファイルコンテナーは、プロファイル全体を含むことをサポートしていません。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここで、または .ini ファイルでこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

プロファイル管理\ストリーミングユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

プロファイルに含まれるファイルとフォルダーは、ユーザーがログオン後にアクセスしたときにのみ、ユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。レジストリエントリと保留領域のファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。ここで、または .ini ファイルでこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

常にキャッシュ

オプションで、ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、このポリシーをプロファイルストリーミングポリシーと組み合わせて使用します。

この設定は、ストリーミングされるファイルのサイズに下限を設けます。このサイズ以上のファイルは、ログオン後できるだけ早くローカルにキャッシュされます。プロファイル全体をキャッシュする機能を使用するには、この制限をゼロに設定します（これにより、すべてのプロファイルコンテンツがバックグラウンドタスクとしてフェッチされます）。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、無効になります。

ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト

ユーザーのファイルを解放するタイムアウト期間（日数）を設定できます。これにより、サーバーが応答しなくなったときにユーザー ストアがロックされたままである場合、保留領域からユーザー ストアにファイルが書き戻されます。このポリシーを使用して、保留領域の肥大化を防ぎ、ユーザー ストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループ

このポリシーは、OU内のWindowsユーザーグループのサブセットのプロファイルをストリーミングします。他のすべてのグループのユーザーのプロファイルはストリーミングされません。

このポリシーが無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ

このポリシーでは、プロファイルストリーミングによって無視されるディレクトリのリストを構成できます。フォルダー名は、ユーザープロファイルに対する相対パスとして指定する必要があります。

例: 「Desktop」（引用符なし）と入力すると、ユーザープロファイル内のDesktopディレクトリが無視されます。

この設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

> **注:**
>
> プロファイルストリーミングの除外は、構成されたフォルダーがプロファイル処理から除外されることを意味するものではありません。それらは引き続きCitrix Profile Managementによって処理されます。

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

クロスプラットフォーム設定を有効にする

既定では、展開を容易にするため、クロスプラットフォーム設定は無効になっています。この機能を十分に計画しテストした後にのみ、このポリシーを有効にして処理をオンにしてください。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ

1つ以上のWindowsユーザーグループを入力します。たとえば、このポリシーを使用して、テストユーザーグループからのプロファイルのみを処理できます。このポリシーが構成されている場合、Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、この機能は**処理済みグループ**ポリシーで指定されたすべてのユーザーを処理します。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

クロスプラットフォーム定義へのパス

ダウンロードパッケージからコピーした定義ファイルのネットワーク上の場所を識別します。このパスはUNCパスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) またはCommon Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。

ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパス

ユーザーのクロスプラットフォーム設定が保存されるフォルダーであるクロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定します。ユーザーはこの領域への書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパスまたはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。

この領域は、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが配置されるユーザー ストアの共通領域です。ユーザーはこの領域への書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。ユーザー ストアへのパスと同じ変数を使用できます。

このポリシーが無効になっている場合、パス Windows\PM_CP が使用されます。ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルでこのポリシーが構成されていない場合、既定値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定の作成元

このポリシーがそのプラットフォームのOUで有効になっている場合、プラットフォームをベースプラットフォームとして指定します。このポリシーは、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータを移行します。

各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、別々のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードに使用するプラットフォームのプロファイルデータを決定する必要があります。これはベースプラットフォームと呼ばれます。クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている場合、またはシングルプラットフォームプロファイルのキャッシュデータがストア内の定義データよりも新しい場合、このポリシーを無効にしない限

り、Profile Management はシングルプラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。

> **重要:**
>
> このポリシーが複数のOU、または複数のユーザーオブジェクトやマシンオブジェクトで有効になっている場合、最初にユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。 デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。

プロファイル管理\Citrix Virtual Apps 最適化設定

Citrix Virtual Apps™ の最適化を有効にする

この機能を有効にすると、ユーザーが起動または終了する公開アプリケーションに固有の設定のみが同期されます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、Citrix Virtual Appsの最適化設定は適用されません。

Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス

このポリシーでは、Citrix Virtual Apps最適化定義ファイルが配置されているフォルダーを指定できます。

ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、Citrix Virtual Appsの最適化設定は適用されません。

> **注:**
>
> そのフォルダーはローカルにすることも、SMBファイル共有上に配置することもできます。

統合

プロファイル管理とCitrix Virtual Apps™

Citrix Virtual Appsサーバーでこのバージョンの Profile Managementを使用するには、Profile ManagementのEULAに従う必要があります。Profile Managementをローカルデスクトップにインストールして、ユーザーがローカルプロファイルを公開リソースと共有することもできます。

注：Profile ManagementはCitrix Virtual Desktops™では自動的に構成されますが、Citrix Virtual Apps環境では構成されません。Citrix Virtual Apps展開のProfile Management設定を調整するには、グループポリシーまたは.iniファイルを使用してください。

Profile Managementは、Remote Desktop Services（以前のTerminal Services）を使用するCitrix Virtual Apps環境で動作します。これらの環境では、サポートされている各オペレーティングシステムに対してOUを設定する必要があります。詳しくは、Microsoftのドキュメントを参照してください。

異なるバージョンのCitrix Virtual Appsを含むファーム、または異なるオペレーティングシステムを実行するファームでは、Citrixは各バージョンまたはオペレーティングシステムを実行する各サーバーに対して個別のOUを使用することを推奨します。

重要：複数のユーザーで共有されるフォルダー（Citrix Virtual Appsで公開された共有アプリケーションデータを含むフォルダーなど）の包含および除外はサポートされていません。

ストリーミングアプリケーション

Profile Managementは、アプリケーションがユーザーデバイスに直接ストリーミングされる環境、またはCitrix Virtual Appsサーバーにストリーミングされ、そこからユーザーに公開される環境で使用できます。

Citrix Virtual Appsのクライアント側アプリケーション仮想化テクノロジーは、アプリケーションを自動的に分離するアプリケーションストリーミングに基づいています。アプリケーションストリーミング機能により、アプリケーションをCitrix Virtual Appsサーバーおよびクライアントデバイスに配信し、保護された仮想環境で実行できます。ユーザーにストリーミングされるアプリケーションを分離する理由は多数あります。たとえば、アプリケーションの競合を防ぐために、ユーザーデバイス上でアプリケーションがどのように相互作用するかを制御する機能などです。たとえば、同じアプリケーションの異なるバージョンが存在する場合、ユーザー設定の分離が必要です。

Microsoft Office 2003がローカルにインストールされ、Office 2007がユーザーのデバイスにストリーミングされる場合があります。ユーザー設定の分離に失敗すると競合が発生し、両方のアプリケーション（ローカルおよびストリーミング）の機能に深刻な影響を与える可能性があります。

ストリーミングアプリケーションでのProfile Managementの使用に関する要件については、「システム要件」を参照してください。

プロファイル管理と Citrix Virtual Desktops™

重要： Citrix Virtual Desktops に統合されている Profile Management 機能を使用することをお勧めします。詳しくは、 Citrix Virtual Desktops のドキュメント を参照してください。このトピックの情報は、別の展開、つまり、Profile Management コンポーネントが個別にインストールおよび構成されている Citrix Virtual Desktops の使用に適用されます。

Citrix Virtual Desktops 展開環境での Profile Management のインストールとアップグレード

このバージョンの Profile Management を Citrix Virtual Desktops で使用するには、Profile Management EULA に従う必要があります。EULA の条項に従い、Citrix Virtual Desktops 環境で Citrix Virtual Apps™ と Profile Management を使用することもできます。

Citrix Virtual Desktops 展開環境で Profile Management をアップグレードする場合は、「Profile Management のアップグレード」で説明されているログファイルの場所への影響を考慮してください。

Quick Deploy セットアップの Citrix Virtual Desktops については、「構成の決定」の推奨事項を参照してください。

Citrix Virtual Desktops 展開環境での Profile Management の構成

イメージが展開される前に Profile Management が正しく構成されていない場合、グループポリシーが適用される前に Profile Management Service が起動します。これを回避するには、イメージを実稼働環境に投入する前に、文書化された手順を使用して構成を実行してください。

重要：複数のユーザーで共有されるフォルダー（たとえば、複数の仮想デスクトップで共有できるデータを含むフォルダー）を含めたり除外したりすることはサポートされていません。

Personal vDisk 展開環境での Profile Management の構成

Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用する場合、Citrix ユーザープロファイルはデフォルトで仮想デスクトップの Personal vDisk（通常は P: ドライブ）に保存されます。プロファイルはユーザーの C: ドライブには保存されません。しかし、Profile Management はプロファイルを C: ドライブにあると想定しています。そのため、VDA のインストールまたはアップグレード中にマスターイメージのレジストリを変更する必要があります。さらに、Personal vDisk の空き容量が増えるため、マスターイメージ上のアプリケーションに割り当てられるデフォルトのディスク容量を増やすことも推奨されます。これらの変更の手順については、Citrix Virtual Desktops のドキュメントを参照してください。

Personal vDisk にプロファイルのコピーが残っている間に、ユーザーストア内のプロファイルのコピーを削除しないでください。削除すると、Profile Management エラーが発生し、仮想デスクトップへのログオンに一時プロファイルが使用されます。詳しくは、「一般的な問題のトラブルシューティング」の「ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る」を参照してください。

Windows アプリケーション - Microsoft Store

Citrix Virtual Desktops 環境では、Microsoft Store のアプリケーション（UWP アプリとも呼ばれます）がサポートされています。プールされたマシン（プールランダム、静的、または RDS）で Microsoft Store アプリケーションを使用するには、グループポリシー管理エディターを開き、**［ポリシー］\>［管理用テンプレート］\>［従来の管理用テンプレート（ADM）］\>［Citrix］\>［Profile Management］\>［ファイルシステム］\>［同期］** で次の設定を構成します。

- ［ミラーリングするフォルダー］を有効にし、`appdata\local\packages` をミラーリングするフォルダーのリストに追加します
- ファイルを同期する を有効にし、`!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*` を同期するファイルのリストに追加します

ユーザーのプロファイルが別のデスクトップで既に作成されている場合、ユーザーがパーソナル vDisk (推奨ソリューション) を使用して専用デスクトップにアクセスすると、Microsoft Storeアプリケーションが動作しない可能性があります。

Citrix Virtual Desktops の設定例

このトピックでは、一般的な Citrix Virtual Desktops 展開で使用される Profile Management ポリシー設定を一覧表示します。Windows 7 仮想デスクトップは Citrix Provisioning™ Services で作成され、複数のユーザーで共有されます。この例では、プールされたランダムカタログから作成さ

れ、ログオフ時に削除されるデスクトップは、静的ワークステーション (モバイルノートPCではない) での使用を目的としており、パーソナルvDiskは使用されません。

ポリシーがリストされていない場合、グループポリシーで選択または入力は行われず、デフォルト設定が適用されます。

次の点に注意してください。

- **ユーザーストアへのパス** - Profile Management 変数をユーザーストアへのパスに組み込むことができます。この例では、パスが解釈されるときにそれぞれ Win7 と x86 に展開される \!CTX_OSNAME\! と \!CTX_OSBITNESS\! を使用しています。AD 属性 #sAMAccountName# もユーザー名を指定するために使用されます。
- **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する** - このポリシーを無効にしても安全です。デスクトップにはパーソナルvDiskが含まれておらず、ユーザーがログオフすると削除されるためです。したがって、ローカルにキャッシュされたプロファイルを保持する必要はありません。(デスクトップがログオフ時に破棄されない場合は、このポリシーを有効にしてください。)
- **プロファイルストリーミング** - この設定を有効にすると、この展開でのログオン時間が改善されます。
- **アクティブライトバック** - このポリシーは、この展開のプールされたデスクトップがユーザーに一時的にのみ割り当てられるため、有効になっています。そのため、ユーザーはプロファイルを変更する可能性がありますが、デスクトップセッションを閉じるのを忘れる (または気にしない) 可能性があります。この設定を有効にすると、プロファイル内のローカルファイルの変更は、ログオフ前にユーザーストアにミラーリングされます。

注: アクティブライトバックポリシーを有効にすると、セッション内で多数のファイル操作 (ファイルの作成、ファイルのコピー、ファイルの削除など) を実行すると、システムI/Oアクティビティが高くなり、Profile Management がファイル変更をユーザーストアに同期している間、一時的なパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- **ローカル管理者ログオンを処理する** - この設定を有効にすることは、ほとんどのユーザーがローカル管理者である Citrix Virtual Desktops 展開で推奨されます。
- **処理されたグループ** - すべてのドメインユーザーのプロファイルは Profile Management によって管理されます。
- **除外リスト - ディレクトリ** (ファイルシステム) および **除外リスト** (レジストリ) - これらの設定は、リストされた一時ファイルまたはキャッシュファイル、およびリストされたレジストリエントリが処理されるのを防ぎます。これらのファイルとエントリは、一般的にユーザープロファイルに保存されます。

- **同期するディレクトリ** および **同期するファイル** - ユーザーのアプリケーションデータがどこに保存されているかを知ることで、これらの設定を定義するのに役立ちました。

重要: Citrix Virtual Desktops の展開はさまざまであるため、決定する Profile Management ポリシー設定は、この例のものとは異なる可能性があります。設定を計画するには、 構成を決定する のアドバイスに従ってください。

Citrix/プロファイル管理

Profile Management を有効にする

> 有効

処理されるグループ

> `MyDomainName\Domain Users`

ユーザーストアへのパス

> `\\MyServer.MyDomain\MyUserStore#sAMAccountName#\!CTX_OSNAME!_!CTX_OSBITNESS!`!

アクティブライトバック

> 有効

ローカル管理者によるログオンの処理

> 有効

Citrix/プロファイル管理/プロファイルの処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

> 無効

Citrix/プロファイル管理/詳細設定

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

有効

Citrix/プロファイル管理/ファイルシステム

除外リスト - ディレクトリ

```
$Recycle.Bin
```

```
`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
```

```
`AppData\Local\Microsoft\Outlook`
```

```
`AppData\Local\Temp`
```

```
`AppData\LocalLow`
```

```
`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu`
```

```
`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\cache`
```

```
`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\log`
```

```
`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\tmp`
```

Citrix/プロファイル管理/ファイルシステム/同期

同期するディレクトリ

```
`AppData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Dazzle Apps`
```

ミラーリングするフォルダー

```
`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`
```

Citrix/プロファイル管理/ストリーミングユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

> 有効

プロファイル管理と VDI-in-a-Box

> **重要:**

> Citrix VDI-in-a-box は2018年にサポート終了 (EOL) となりました。VDI-in-a-box で作成されたデスクトップで Profile Management を引き続き使用できますが、技術サポートは提供されなくなりました。

> Citrix VDI-in-a-Box で作成されたデスクトップで Profile Management を使用できます。

VDI-in-a-Box でこのバージョンの Profile Management を使用する場合は、Profile Management の EULA に従う必要があります。EULA の条項に従い、VDI-in-a-Box 環境で Citrix Virtual Apps とともに Profile Management を使用することもできます。詳しくは、「Profile Management と Citrix Virtual Apps」を参照してください。

プロファイル管理とUE-V

Profile Management 5.x と Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) 2.0 は、同じ環境で共存できます。UE-V は、複数のプロファイルバージョンが存在する場合（たとえば、バージョン1とバージョン2のプロファイル）に役立ちます。このため、UE-V が存在する場合は、Citrix Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能を使用しないでください。UE-V は、より多くの

アプリケーション、ユーザーセッション中の同期、およびアプリケーションの XML 構成と生成をサポートするため、その機能よりも優先される場合があります。

Profile Management が UE-V と共存する場合、クロスプラットフォーム設定機能が有効になっているかどうかにかかわらず、次のようになります。

- `AppData\Local\Microsoft\UEV` フォルダーを除外します。その後、UE-V によってキャプチャされたプロファイル設定が、Profile Management によってキャプチャされたプロファイル設定を上書きします。
- UE-V によって制御されるプロファイルを、Profile Management のみによって制御されるプロファイルと共有しないでください。共有した場合、「最後の書き込みが優先」されます。つまり、プロファイルを同期する最後のコンポーネント（UE-V または Profile Management）が、どのデータが保存されるかを決定し、データ損失につながる可能性があります。

注：UE-V には Microsoft Desktop Optimization Pack (MDOP) が必要です。

プロファイル管理と Citrix Content Collaboration™

この記事の情報は、Citrix Content Collaboration の展開における Profile Management の使用に適用されます。その一部は、他のインターネットベースのファイル共有システムにも役立つ場合があります。

Profile Management 4.1.2 以降で Citrix Content Collaboration を使用できます。Citrix Content Collaboration はオンデマンドモードでのみサポートされています。

インストール

ShareFile 2.7 を使用している場合、互換性の問題を避けるために、Profile Management をインストールする前にこのバージョンをインストールしてください。ShareFile 2.6 では、このインストール依存関係は存在しません。

除外

Citrix Content Collaboration は、構成データをローカルの **`\\AppData\Roaming\ShareFile`** フォルダーに保存します。Citrix ユーザープロファイルを持つユーザーの場合、ユーザー固有の Citrix Content Collaboration 構成が永続化されるように、このデータはユーザープロファイルとともにローミングする必要があります。この ShareFile フォルダーはプロファイルの一部であるため、Profile Management の構成は不要です。構成データはデフォルトでローミングされます。

ただし、Citrix Content Collaboration によって管理されるユーザーデータは、プロファイルのルートにある **ShareFile** フォルダー (`%USERPROFILE%\ShareFile`) に含まれています。このデータ

は、Citrix Content Collaboration サーバーによって管理され、同期されるため、プロファイルとともにローミングしてはなりません。したがって、このフォルダーを Profile Management の除外対象として追加する必要があります。除外設定の手順については、「項目の包含と除外」を参照してください。

パーソナル vDisk

Personal vDisks (Citrix Virtual Desktops を使用) で仮想デスクトップを作成する場合、vDisk 上のユーザーデータの場所で Citrix Content Collaboration を構成します。これにより、デスクトップと Citrix Content Collaboration サーバー間でファイル同期が行われるようになります。デフォルトでは、Personal vDisks はデスクトップ上で P: ドライブとしてマッピングされるため、データは `P:\Users\<user` name\> に配置される可能性があります。この場合、Citrix Content Collaboration の LocalSyncFolder ポリシーを使用して場所を設定します。

重要: Profile Management と Personal vDisks のパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性のある不要な同期を防ぐため、仮想デスクトップで同期する必要がある場合を除き、大きなファイルを含むフォルダーには Folder-ID 設定を使用することをお勧めします。これは ShareFile の設定です。

プロファイル管理と App-V

Microsoft Application Virtualization 5.x (App-V 5.x) と同じ環境で Profile Management を使用できます。

> **注:**
>
> Profile Management は、グローバルに公開された App-V のみをサポートします。

> Profile Management の除外を使用して、次の項目を除外します。

- プロファイル管理\\ファイルシステム\\除外リスト\\ディレクトリ：
  - `AppData\Local\Microsoft\AppV`
  - `AppData\Roaming\Microsoft\AppV\Client\Catalog`
- プロファイル管理\\レジストリ\\除外リスト：
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Integration`
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing`

除外の設定方法については、「項目の包含と除外」を参照してください。

App-V で **UserLogonRefresh** 設定が有効になっている場合、Profile Management のプロファイルストリーミングポリシーを無効にします。この制限は、**UserLogonRefresh** とプロファイルストリーミングの非互換性によるものです。

App-V アプリケーションをシーケンスする方法の例については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/application-management/app-v/appv-sequence-a-new-application>` を参照してください。

App-V が有効なサードパーティの Profile Management ソリューションの構成については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoft-desktop-optimization-pack/appv-v5/performance-guidance-for-application-virtualization-50>` を参照してください。Microsoft Windows 10 システムには `Software\Classes` を含めないでください。

プロファイル管理とプロビジョニングサービス

この記事では、Citrix Provisioning Servicesで作成された仮想ディスク（vDisk）上のCitrixユーザープロファイルを維持するためのアドバイスを記載しています。永続的？プロビジョニング済み？専用？共有？で説明されているように、このアドバイスに従う前に、vDisk構成がProfile Management構成にどのように影響するかを理解してください。

サポートされているモード

Profile Managementは、標準イメージモードおよびプライベートイメージモードで実行されているvDiskで使用できますが、差分ディスクイメージモードでは使用できません。

マスターターゲットデバイスから不要なローカルキャッシュプロファイルを削除するには

不要なローカルキャッシュプロファイルが保存されないようにするには、マスターターゲットデバイスイメージを取得する前に、標準イメージモードで実行されているvDiskからこれらのプロファイルを削除してください。ただし、現在ログオンしているローカル管理者のプロファイルは削除しないでください。これを実現する良い方法は次のとおりです。この手順中にエラーメッセージが表示される場合があります。

1. コンピューターを右クリックします。
2. プロパティを選択します。
3. ［システムの詳細設定］をクリックします。
4. ［詳細設定］タブで、［ユーザープロファイル］の［設定］をクリックします。

5. 削除する各プロファイルを強調表示し、［削除］をクリックします。

vDiskイメージからログファイルを取得する

このトピックでは、Citrix Provisioning™ Servicesで作成された共有（vDisk）イメージに存在するログファイルの使用に関するガイダンスを提供します。Profile Managementはログオフ時にファイルを保存します。しかし、vDiskイメージを使用する場合、ベースイメージがリセットされる可能性があり、その結果ログファイルが削除されるという事実に注意してください。したがって、ファイルを回復するために何らかの措置を講じる必要があります。講じる措置は、ログファイルがログオン時に削除されるかログオフ時に削除されるかによって異なります。

vDiskイメージの使用はCitrix Virtual Desktops™の展開で一般的であるため、このトピックのガイダンスではその製品を例として使用しています。

ログオフ時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイル全体またはその一部がネットワーク上のユーザーストアに保存されない場合、ログファイルもそこに保存されません。

Provisioning Servicesのライトキャッシュがprovisioning Servicesを実行しているコンピューターに保存されている場合、この問題は発生しません。そして、ログファイルはユーザーストアに保存されます。

ライトキャッシュがローカルに保存されている場合、この手順ではユーザーと同じデバイスからログオンする必要があるかもしれません。ただし、ライトキャッシュがRAMにローカルに保存されている場合、これも失敗する可能性があります。

ライトキャッシュがProvisioning Servicesを実行しているコンピューターにない場合、vDiskイメージのコピーを作成する必要があるかもしれません。それを新しい仮想マシンに割り当て、そのコンピューターに保存されるようにイメージ上のライトキャッシュを変更します。

1. Citrix Virtual Desktopsで、デスクトップグループを作成し、それに仮想マシンを1台追加し、vDiskイメージを指すようにします。
2. 仮想マシンへのアクセスを1人のテストユーザーと管理者に付与します。
3. デスクトップグループのアイドルプール数を終日1に変更します（電源管理によるマシンのシャットダウンを防ぐため）。ログオフ時の動作を「何もしない」に設定します（マシンの再起動とイメージのリセットを防ぐため）。
4. テストユーザーとして仮想デスクトップにログオンし、その後ログオフします。
5. XenCenter®またはVMwareコンソールから管理者としてログオンし、ログファイルを取得します。

デスクトップグループの作成とプロパティの変更に関する詳細については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。

ログオン時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイルがネットワーク上のユーザーストアで最新であるにもかかわらず、ユーザーがログオンしたときに正しくロードされない場合、ログファイルのエントリは失われます。

1. `\\<vmhostname>\C$`にドライブをマップし、ユーザーがセッションからログオフする前にログファイルを見つけます。ログファイルは完全ではありませんが（一部のエントリが欠落しています）、トラブルシューティングしている問題がログオン時に発生している場合、問題の原因を特定するのに十分な情報を提供する可能性があります。

Provisioning Servicesログファイルを再配置するには

Standard Imageモードを使用している場合、システムがシャットダウンするとProvisioning Servicesのイベントログファイルが失われます。これを防ぐためにファイルのデフォルトの場所を変更する方法については、Knowledge Centerの記事CTX115601を参照してください。

プロビジョニングされたイメージでプロファイル管理を事前構成する

Citrix Provisioning Services、Citrix XenServer、VMware ESXなどのプロビジョニングソフトウェアを使用すると、プロファイル管理がプレインストールされたイメージを構築できます。その際、イメージをセットアップするときに、レジストリにいくつかのグループポリシー設定がキャプチャされる可能性があります。たとえば、Provisioning Servicesでプライベートイメージモードの場合に発生します。イメージを展開するとき、設定はまだ存在します。たとえば、Provisioning Servicesで標準イメージモードに戻すときなどです。理想的には、仮想マシンが実行を開始したときの状態と、ユーザーがログオンしたときの要件に適したデフォルトを選択します。少なくとも、(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/plan/upm-plan-decide-4a.html)で説明されているポリシーに適切なデフォルトがあることを確認してください。

Citrix Profile Management Serviceが開始される前に`gpupdate`が実行されない場合、デフォルトが使用されます。そのため、ほとんどの場合に適切なデフォルトであることを確認するのが最善です。この手順を使用して、イメージに保持したいこれらの設定やその他の設定を事前構成します。

注: Provisioning Servicesを使用する場合、Citrixは、まずプロファイル管理の.iniファイルでイメージを事前構成し、テストが成功したと証明された場合にのみ、設定を.admまたは.admxファイルに転送することを推奨します。

1. .admまたは.admxファイルを使用する場合は、適切なGPO内のファイルを使用して目的の設定を変更します。.iniファイルを使用する場合は、この手順を省略します。変更は後の手順で行います。
2. ログレベルに同じ変更を加えます。
3. 次のいずれかを実行します。
   - イメージをプライベートイメージモードに切り替え（Citrix Provisioning™ Services）、その上でオペレーティングシステムを起動します。
   - オペレーティングシステムを起動します（Citrix XenServer®またはVMware ESX）。
4. 管理者アカウント（設定した可能性のあるテストユーザーアカウントではない）を使用してログオンし、`gpupdate /force`を実行します。この手順により、レジストリが正しく構成されます。
5. .iniファイルを使用する場合は、ファイル内の目的の設定を変更します。
6. プロファイル管理サービスを停止します。
7. 作成される新しいログファイルとの混同を避けるため、古いプロファイル管理ログファイルと構成ログファイルを削除します。これらは古いイメージの名前を使用するファイル名を持っています。更新されたイメージには新しいファイル（新しいイメージの名前を持つ）があるため、これらは冗長です。
8. 次のいずれかを実行します。
   - イメージを標準イメージモードに戻します（Citrix Provisioning Services）。
   - 更新されたイメージ (Citrix XenServer または VMware ESX) を保存します。
9. イメージ上でオペレーティングシステムを起動します。

Profile Management とセルフサービスプラグイン

デフォルトでは、Profile Management は Windows の **Start Menu** フォルダーを除外します。Citrix Self-service Plug-in ユーザーは、サブスクライブされたアプリケーションを **Start Menu** に表示できません。このデフォルトの動作を調整するには、**Exclusion list - directories** ポリシーからフォルダー `%APPDATA%\Microsoft\Windows\Start Menu` を削除します。さらに、GPO を使用して構成する場合、Profile Management の .ini ファイルを削除することがベストプラクティスです。これらのアクションにより、サブスクライブされたアプリケーション（およびユーザーが作成したサブフォルダー）を含む **Start Menu** フォルダーが Profile Management によって処理されるようになります。

注： グループポリシーではなく Profile Management の .ini ファイルを使用している場合は、そのファイルのデフォルトの除外リストからこのエントリを削除してください。

プロファイル管理とVMware

> **注:**
>
> この記事は、Windows XP および Windows 7 にのみ適用されます。

> この記事は、VMware ESX などの VMware ソフトウェアで作成された仮想マシン上の Citrix® ユーザープロファイルに適用されます。ローカルプロファイルキャッシュがロックされる問題に対処します。

VMware で作成された仮想マシン (Citrix Virtual Desktops™ または Citrix Virtual Apps 展開環境) からユーザーがログオフするときに、キャッシュされたローカルプロファイルを削除するようにプロファイル管理を設定しているにもかかわらず、プロファイルが削除されない場合は、この回避策を使用して問題を解決できます。

この問題は、VMware ESX 3.5 で作成された仮想マシンで移動プロファイルが使用され、プロファイル管理設定の **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除** が有効になっている場合に発生することが示されています。

この問題は、VMware Tools の **共有フォルダー** オプションがプロファイルにファイルを追加するため発生します。そのファイルは実行中のプロセスによってロックされ、ログオフ時にプロファイルが削除されるのを妨げます。ファイルは `C:\Documents and Settings\userid\Application Data\VMware\hgfs.dat` です。

プロファイル管理で詳細ログが有効になっている場合、ログファイルに次のようなエントリでこの問題が検出されることがあります。

`2009-06-03;11:44:31.456;ERROR;PCNAME;JohnSmith4;3;3640;DeleteDirectory: Deleting the directory <C:\Documents and Settings\<user name>\Local Settings\Application Data\VMware> failed with: The directory is not empty.`.

Windows Server 2008 上の Citrix Virtual Apps™ 展開環境でこの問題を回避するには：

1. Citrix Virtual Apps サーバーに管理者としてログオンします。
2. Citrix Virtual Apps 展開環境では、サーバーからすべてのユーザーをログオフします。

3. コントロールパネルで、**プログラムの追加と削除** に移動します。
4. **VMware Tools** を見つけて、**変更** オプションを選択します。
5. **共有フォルダー** を **この機能は利用できません** に変更します。
6. **次へ > 変更 > 完了** をクリックします。
7. サーバーを再起動します。
8. 半分削除されたプロファイルをクリーンアップします。**マイコンピューター \> プロパティ \> 詳細設定 \> ユーザープロファイル** で、プロファイルを選択して削除します。プロファイルの削除中にエラーが発生した場合、Windows から通知されます。

注: VMware上でProfile Managementを実行している環境では、別の問題により、複数の連続したプロファイルが作成される可能性があります。

プロファイル管理とOutlook

この記事では、Microsoft Outlookとローミングプロファイルを統合するためのベストプラクティスについて説明します。

ユーザーがOutlookデータをネットワーク共有やローカルではなく、サーバーに保存するようにすることは良い習慣です。

ローミングプロファイルでは、環境変数 `%UserProfile%` で定義された場所（ローカルコンピューター上）にあるファイルとフォルダーは、`%UserProfile%\Local Settings` という1つのフォルダーを除いて、ユーザーとともにローミングします。この例外はOutlookユーザーに影響します。なぜなら、Microsoftの推奨により、デフォルトで一部のOutlookデータ（例えば、`.ost`、`.pst`、および `.pab` ファイル）がこの非ローミングフォルダーに作成されるためです。

重要: この場所にあるファイルは通常サイズが大きく、ローミングプロファイルのパフォーマンスを妨げます。

以下のプラクティスは、Outlookでのローミングプロファイルのトラブルシューティングを減らし、ユーザーと管理者による適切なメール管理を促進します。

- 可能であれば、`.pst` ファイルの使用を禁止するMicrosoft Office用のADMテンプレートを使用してください。
- ユーザーがより多くのスペースを必要とする場合は、ネットワーク共有ではなく、Microsoft Exchangeサーバーのストレージを増やしてください。
- 個々のユーザーに `.pst` ファイルの例外を許可したり、個人のストレージ容量を増やしたりするのではなく、会社全体でメール保持ポリシー（会社全体のメールストレージサーバーを含

むもの）を定義し、適用してください。このポリシーは、ユーザーが受信トレイへのメール復元を簡単に要求できるようにすることで、`.pst` ファイルへの依存を抑制する必要もあります。

- `.pst` ファイルを禁止できない場合、プロファイル管理またはローミングプロファイルを設定しないでください。**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**機能は、`.pst` ファイル向けには設計されていません。

WindowsプロファイルとPassword Managerおよびシングルサインオンの使用

この記事には、Profile Managementに固有の情報は含まれていません。Citrix Single Sign-onがローカルプロファイル、移動プロファイル、強制プロファイル、またはハイブリッドプロファイルで最適に動作するように、特定のWindowsオプションを構成する方法について説明します。このトピックは、Citrix Single Sign-on 4.8または5.0に適用されます。

ローカルプロファイル

ローカルプロファイルは、ユーザーがログオンしたローカルサーバーに保存されます。Password Managerとシングルサインオンは、ユーザーレジストリの `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password Manager` ハイブにレジストリ情報を保存します。場所:

`%SystemDrive%\Documents` および `Settings\%username%\NTUSER.DAT`。

ファイルは次の場所にも保存されます。

`%SystemDrive%\Documents and Settings\%username%\Application Data\Citrix\MetaFrame Password Manager`。

Windows 7では、シングルサインオンは以下を使用します。

`%APPDATA%\Roaming\Citrix\MetaFrame Password Manager`

重要：シングルサインオンが以下のファイルに対してフルコントロールアクセス権を持っていることが不可欠です。

ファイル名	説明
%username%.mmf	aelist.iniへのポインターを持つユーザーの資格情報ファイル。

ファイル名	説明
entlist.ini	同期ポイントまたはActive Directoryでエンタープライズレベルで作成されたアプリケーション定義ファイル。
aelist.ini	ユーザーのローカルアプリケーション定義ファイル（applist.ini）とエンタープライズアプリケーション定義（entlist.ini）をマージして作成されたアプリケーション定義ファイル。

ローミングプロファイル

ローミングプロファイルはネットワーク共有に保存され、ユーザーがログオンするたびにローカルサーバーのコピーに同期されます。ローミングプロファイルの展開が成功するための特徴には、SAN (System Area Network) や NAS (Network Area Storage) などの高速ネットワーク接続が含まれます。その他の一般的な展開には、プロファイルが高可用性サーバーに保存されるクラスタリングソリューションがあります。

ローミングプロファイルと強制プロファイルの展開には、次の2つの問題があります。

- 単一のローミングプロファイルは、1つのファイル同期ポイントでのみ使用できます。複数の同期ポイントが使用される場合、メモリマップトファイル (MMF) 内のデータが破損する可能性があります。
- 複数の同時セッションでローミングプロファイルが使用される場合、バックエンドのMMFを共有します。すべてのアクティブなセッションは、再試行ロックカウンター、最終使用データカウンター、イベントログエントリなどの共通セッションデータを共有します。

強制プロファイルまたはハイブリッドプロファイル

強制プロファイルは、定義上、ユーザーの読み取り専用プロファイルです。シングルサインオンでは、**Application Data**の下のプロファイルフォルダーへの書き込み権限が必要です。強制プロファイルでは、ユーザーが変更を加えることはできますが、ログオフ時にその変更はプロファイルに保存されません。強制プロファイルでシングルサインオンを正しく機能させるには、**Application Data**フォルダーをリダイレクトする必要があります。

レジストリの変更は、ユーザーがログオンするたびに書き込まれます。資格情報が同期ポイントと同期されますが、変更はプロファイルに保存されません。

Windows 2000以降、Microsoftは**Application Data**フォルダーをリダイレクトするメカニズムを提供しています。ただし、Windows NT4ドメインを使用する場合は、**Application Data**フォルダーの場所を変更できるログオンスクリプトが必要です。これには、`Kix`や`VBScript`などのツールを使用して、**Application Data**フォルダーの書き込み可能な場所を定義できます。

次の例では、ユーザーログオン時に`Kix`を使用して**Application Data**フォルダーをリダイレクトします。

重要: このサンプルスクリプトは情報提供のみを目的としています。まずテストせずに、ご自身の環境で使用しないでください。

```
$LogonServer = "%LOGONSERVER%"

$HKCU = "HKEY_CURRENT_USER"

$ShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Shell

Folders"

$UserShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User

Shell Folders"

$UserProfFolder =

"$LogonServer\profiles\@userID"

$UserAppData =

"$LogonServer\profiles\@userID\Application Data"

$UserDesktop =

"$LogonServer\profiles\@userID\Desktop"

$UserFavorites =
```

```
"$LogonServer\profiles\@userID\Favorites"

$UserPersonal = "X:\My Documents"

$UserRecent =

"$LogonServer\profiles\@userID\Recent"

if (exist("$UserAppData") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserAppData"'

endif

if (exist("$UserDesktop") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserDesktop"'

endif

if (exist("$UserRecent") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserRecent"'

endif

if (exist("$UserFavorites") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserFavorites"'

endif
```

ハイブリッドプロファイルは、強制プロファイルの問題に対するもう1つの解決策です。ユーザーがログオンすると、強制プロファイルがロードされ、カスタムアプリケーションがユーザーに利用可能なアプリケーションに基づいてユーザーレジストリハイブをロードおよびアンロードします。強制プロファイルと同様に、ユーザーはセッション中にレジストリのそれらの部分を変更できます。強制プロファイルとの違いは、ユーザーがログオフするときに変更が保存され、再度ログオンするときに再ロードされることです。

ハイブリッドプロファイルが使用される場合、ログオンおよびログオフプロセスの一部として、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password`レジストリキーをインポートおよびエクスポートする必要があります。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーオブジェクトとActive Directoryを使用して実装されます。ユーザープロファイルの一部であるフォルダーの場所を定義するためにグループポリシーを使用します。

次の4つのフォルダーをリダイレクトできます。

- マイドキュメント
- アプリケーションデータ
- デスクトップ
- スタートメニュー

グループポリシーを使用して、基本リダイレクトと高度なリダイレクトの2つのリダイレクトモードを設定できます。どちらもシングルサインオンでサポートされています。Windows 2000では、アプリケーションデータを保存する共有を`%username%`変数を使用して参照する必要があります（例：`\\servername\sharename\%username%`）。

フォルダーリダイレクトはユーザーに対してグローバルであり、そのユーザーのすべてのアプリケーションに影響します。**Application Data**フォルダーを使用するすべてのアプリケーションは、それをサポートする必要があります。

フォルダーリダイレクトの詳細については、以下のMicrosoftの記事を参照してください。

方法: フォルダーリダイレクトを使用して安全なリダイレクトフォルダーを動的に作成する

Windowsのフォルダーリダイレクト機能

管理者がリダイレクトされたフォルダーにアクセスできるようにする

ベストプラクティス

- 可能な場合は、Application Dataフォルダーをリダイレクトします。このアプローチにより、ネットワークパフォーマンスが向上し、ユーザーがログオンするたびにそれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなります。

- Password Manager Agentのトラブルシューティングを行う際は、ログオンしているユーザーが自身のApplication Dataフォルダーに対してフルコントロール権限を持っていることを常に確認してください。

トラブルシューティング

Profile Managementの設定を確認する

問題のトラブルシューティングの最初のステップとして、現在のProfile Managementの設定を次のように確認します。

1. Citrix Directorでトラブルシューティングを開始します。このコンソールには、問題の診断と修正に役立つプロファイルのプロパティが表示されます。
2. UPMConfigCheckツールを使用して、稼働中のProfile Management展開を検査し、最適に構成されているかどうかを判断します。

   このツールのインストールと使用方法の詳細については、Knowledge Centerの記事CTX132805を参照してください。
3. Profile Management .iniファイルが使用されている場合は、影響を受けるマシンでその構成を確認します。
4. リストとして入力するProfile Managementポリシー（除外リストや包含リストなど）を非アクティブ化するには、ポリシーを「Disabled」に設定します。「Not Configured」には設定しないでください。
5. 影響を受けるマシンで`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies`レジストリエントリを確認します。GPタトゥーイングの問題により古いポリシーがある場合は、それらを削除します。タトゥーイングは、ポリシーがGPから削除されてもレジストリに残る場合に発生します。
6. UPMSettings.iniファイルを確認します。このファイルには、各ユーザーに適用されたProfile Management設定が含まれています。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。

Profile Management ログファイルを確認する

システムの動作をトラブルシューティングする際に、ログファイルは役立ちます。(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/self-troubleshoot.html)でProfile Managementの設定を確認した後、Profile Managementのログ記録を有効にし、問題を再現してログファイルを確認します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションに対して(#enable-profile-management-logging)を有効にします。
2. マシン上で問題を再現します。
3. `%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager`フォルダーにあるProfile Managementログファイル（例: #computername#.#domainname#_pm.log）で、エラーと警告を確認します。それぞれ「ERROR」または「WARNINGS」という単語を検索して見つけます。

   ログファイルの詳細は、この記事の後半にある(#reference)を参照してください。
4. ユーザーストアへのパスが正しいことを確認します。
5. Active Directoryからのすべての情報が正しく読み取られたことを確認します。
6. タイムスタンプを確認して、時間がかかりすぎるアクションがないか調べます。

> **ヒント:**
>
> Microsoft Excelを使用して、Profile Managementログファイルを確認できます。詳細については、Knowledge Centerの記事CTX200674を参照してください。

Profile Managementのログ記録を有効にする

Profile Managementの展開で問題をトラブルシューティングする場合にのみ、すべてのイベントとアクションに対してProfile Managementのログ記録を有効にしてください。問題が解決したら、ログ記録を無効にし、機密情報が含まれている可能性があるためログファイルを削除してください。

このセクションでは、GPOと`UPMPolicyDefaults_all.ini`を使用して、すべてのイベントとアクションのログ記録を有効にする方法について説明します。

Citrix Studio と Workspace Environment Management (WEM) を使用して、この目標を達成することもできます。詳細については、「Profile Management を構成する場所を決定する」を参照してください。

GPO を使用してログ記録を有効にする

GPO を使用してすべてのイベントとアクションの Profile Management ログ記録を有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、グループポリシーオブジェクトを作成します。

2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ログ設定**にアクセスします。
3. 次のように Profile Management のログ記録を有効にします。
   a. **ログ記録を有効にする**をダブルクリックします。
   b. **有効**をクリックします。
   c. **OK**をクリックします。
4. Profile Management ですべてのイベントとアクションをログに記録できるようにします。
   a. **ログ設定**をダブルクリックします。
   b. すべてのイベントとアクションを選択します。これらの説明の詳細については、「イベントとアクション」を参照してください。
   c. **OK**をクリックします。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、次の手順に従います。
   a. **ログファイルの最大サイズ**をダブルクリックします。
   b. 「**有効にする**」をクリックし、次に「**最大サイズ（バイト単位）**」フィールドにサイズを入力します。
   c. 「**OK**」をクリックします。

   > 「**ヒント:**」:
   >
   > 最大サイズに達すると、Profile Management はバックアップファイルを1つ保持します（例: Logfilename.log.bak）。

6. マシンで `gpupdate /force` コマンドを実行します。

   これらのポリシーはマシンで有効になります。

これらのポリシーの詳細については、Profile Management ポリシーの説明とデフォルト を参照してください。

.ini ファイルを使用してログを有効にする

`UPMPolicyDefaults_all.ini` を使用してすべてのイベントとアクションに対して Profile Management のログを有効にするには、次の手順に従います。

1. Profile Management のインストールフォルダー（デフォルトでは C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager）で `UPMPolicyDefaults_all.ini` を開きます。
2. **Log settings** を検索して設定を見つけます。

```
; Log settings
;
;LoggingEnabled=
;LogLevelWarnings=
;LogLevelInformation=
;LogLevelFileSystemNotification=
;LogLevelFileSystemActions=
;LogLevelRegistryActions=
;LogLevelRegistryDifference=
;LogLevelActiveDirectoryActions=
;LogLevelPolicyUserLogon=
;LogLevelLogon=
;LogLevelLogoff=
;LogLevelUserName=
;MaxLogSize=
;PathToLogFile=
```

3. `LoggingEnabled` に `1` を入力します。
4. `LogLevelWarnings` から `LogLevelUserName` までの各パラメーターに `1` を入力します。これらのパラメーターの詳細については、イベントとアクション を参照してください。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、必要に応じて `MaxLogSize` にサイズを入力します。
6. ログファイルのデフォルトフォルダを変更するには、必要に応じて`PathToLogFile`のパスを入力します。

参照

このセクションでは、以下の情報を提供します。

- ログの種類
- イベントとアクション
- Profile Managementログファイルのフィールド

ログの種類

この表は、Profile Managementのトラブルシューティングに使用できるログを一覧表示します。

非公式名	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
Profile Management ログファイル	#computername#.#domainname#_pm.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	情報メッセージ、警告、エラーは、Profile Management ログファイルに書き込まれます。ドメイン名はコンピューターのドメインです。コンピューター名を特定できない場合、このログファイルは UserProfileManager.logという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインを特定できない場合、ログファイルは #computername#_pm.logという名前になります。
Profile Management 構成ログファイル	#computername#.#domainname#_pm_config.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	構成ログファイルは、ログ記録がオフになっている場合でも、GPOおよび.ini ファイルの設定をキャプチャします。コンピューター名を特定できない場合、UserProfileManager_pm_configという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインを特定できない場合、ログファイルは #computername#_p

非公式名	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
			m_config.logという名前になります。
Windowsイベントログ	Application.evtx	%SystemRoot%\System32\winevt\Logs	Microsoftイベントビューアーで表示するWindowsイベントは、主にエラー報告に使用されます。エラーのみが書き込まれます。

イベントとアクション

この表は、Profile Managementがログに記録できるイベントとアクションを示します。

種類	説明	.INIのパラメーター
一般的な警告	すべての一般的な警告。	LogLevelWarnings
一般的な情報	すべての一般的な情報。	LogLevelInformation
ファイルシステム通知	処理されたファイルまたはフォルダーが変更されるたびに、1つのログエントリが作成されます。	LogLevelFileSystemNotification
ファイルシステムアクション	Profile Managementによって実行されるファイルシステム操作。	LogLevelFileSystemActions
レジストリアクション	Profile Managementによって実行されるレジストリアクション。	LogLevelRegistryActions
ログオフ時のレジストリの差異	セッション中に変更されたHKCUハイブ内のすべてのレジストリキー。重要: この設定は、ログファイルに大量の出力を生成します。	LogLevelRegistryDifference

種類	説明	.INIのパラメーター
Active Directoryアクション	Profile ManagementがActive Directoryをクエリするたびに、エントリがログファイルに書き込まれます。	LogLevelActiveDirectoryActions
ポリシー値	Profile Managementサービスが開始されるか、ポリシーの更新が行われると、ポリシー値がログファイルに書き込まれます。	LogLevelPolicyUserLogon
ログオン	ログオン中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogon
ログオフ	ログオフ中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogoff
パーソナライズされたユーザー情報	該当する場合、ユーザー名とドメイン名はログファイルの専用列に記録されます。	LogLevelUserName

ログファイルフィールド

Profile Managementログファイルの各行には、セミコロンで区切られた複数のフィールドがあります。この表にログファイルフィールドを示します。

フィールド	説明
日付	ログエントリの日付
時刻	ログエントリの時刻（ミリ秒を含む）
重大度	INFORMATION、WARNING、またはERRORのいずれか
ドメイン	ユーザーのドメイン（該当する場合）
ユーザー名	ユーザー名（該当する場合）

フィールド	説明
セッションID	セッションID（該当する場合）
スレッドID	この行を作成したスレッドのID
機能と説明	その時点で実行されているProfile Management機能の名前とログメッセージ

Windows イベントを確認する

Profile Management によってログに記録された Windows イベントは、トラブルシューティングのための診断情報も提供します。Windows イベントは、`%SystemRoot%\System32\winevt\Logs\` フォルダー内の Application.evtx ファイルに保存されます。

Windows イベントビューアーを使用してイベントを表示するには、次の手順に従います。

1. Windows マシンで **イベントビューアー** を起動します。
2. 左側のペインで、**Windows ログ > アプリケーション** ノードを選択します。

   イベントは右側のペインに表示されます。

イベントのリスト

Profile Management によってログに記録されるイベントは、すべてが連続して番号付けされているわけではなく、このバージョンの Profile Management で使用されるわけでもありません。ただし、以前のバージョンからアップグレードした場合にログに記録されることがあります。

イベント ID	説明	原因	アクション
6	Citrix Profile Management サービスが開始されました。	Citrix Profile Management サービスが開始されました。これは、自動開始、手動開始、または再起動の結果である可能性があります。	起動または再起動が計画的でなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、指示された是正措置を講じてください。

イベント ID	説明	原因	アクション
7	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。これは、手動による停止、またはシャットダウン処理の一部として発生した可能性があります。	サービス停止が計画的でなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、指示された是正措置を講じてください。
8	ユーザーのプロファイルが、新しいバージョンのCitrix Profile Managementによって変更されたため、このバージョンでは使用できません…	このマシンのCitrix Profile Managementサービスは、新しいバージョンのProfile Managementがユーザープロファイルをユーザーストア内で変更したことを検出しました。データ損失の可能性を防ぐため、以前のバージョンのProfile Managementは一時プロファイルの使用に戻ります。	このコンピューター（およびユーザーストアを共有し、以前のバージョンのProfile Managementを使用している他のすべてのコンピューター）をアップグレードして、最新バージョンを使用してください。
9	ログオンフック検出で問題が発生しました…	Citrix Profile Managementサービスは、ログオン通知の設定中に問題を検出しました。Citrix Profile Managementサービスでは、インストールパスにスペースが含まれていないか、サービスがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポート	Citrix Profile Managementをスペースのないパスに再インストールするか、Profile Managementがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートを有効にしてください。

イベント ID	説明	原因	アクション
		が有効になっている必要があります。	
10	ユーザーストアへのユーザーパスは…	指定された場所に有効なCitrixユーザープロファイルが見つかりました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
11	spsMain: CreateNamedPipe が失敗しました…	（このイベントは使用されなくなりました。）	なし。
12	StartMonitoringProfile: ログオン中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Management Serviceは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
13	StopMonitoringProfile: ログオフ中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Management Serviceは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーの監視を停止できませんでした。Windows変更ジャーナル管理で問題が検	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステ

イベント ID	説明	原因	アクション
		出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Management はこのフォルダーを処理しません。ユーザーのファイルおよびレジストリの変更は同期されません。	ムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
14	CJIncreaseSizeIfNecessary: 変更ジャーナルの作成/サイズ変更に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを作成またはサイズ変更しようとしたときに問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Management によって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Management のトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
15	CJInitializeForMonitoring: ジャーナルを照会できません…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更	Profile Management によって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピュー

イベント ID	説明	原因	アクション
		ジャーナルを照会しているときに問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	ターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
16	CJInitializeForMonitoring: 初期MFTスキャンがエラーで終了しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
17	CJInitializeForMonitoring: サービス開始以降のFS変更の処理に失敗しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更	このエラーはProfile Managementの動作を妨げるものではありませんが、念のためエラーを確認してください。Profile Managementによって管理されているす

イベント ID	説明	原因	アクション
		ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出されました。このエラーは、サービスが変更を監視するのを妨げるものではありません。Citrix Profile Managementはこのディレクトリを通常どおり処理します。	べてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
18	CJProcessAvailableRecords: 内部エラー…	プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視中に、Citrix Profile Managementサービスで障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが最近の変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーの処理を完了しません。重要なデータを手動でバックアップしてください。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
19	USNChangeMonitor: 変更ジャーナルの初	プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイル

イベント ID	説明	原因	アクション
	期化に失敗しました…	視中に、Citrix Profile Managementサービスで障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを準備中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのディレクトリの処理を完了しません。重要なデータを手動でバックアップしてください。	または拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
20	CADUser::Init: DNSドメインとADsPathの特定に失敗しました…	ログオンしているユーザーに関する情報をActive Directoryにクエリ中に問題が発生しました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	コンピューターがドメインコントローラーへの機能するネットワークパスを持っていることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示された是正措置を講じてください。
21	DNSドメインとADsPathの特定に失敗しました…	この問題は、Microsoft TechNetの記事263693に記載されているように、メモリ割り当ての制限によって引き起こさ	この問題の解決策は、Citrix Knowledge Centerの記事CTX124953に記載されています。

イベント ID	説明	原因	アクション
		れる可能性があります。	
22	ファイルアクセスが遅かった。ユーザーがユーザー ストアからファイルを取得する際に遅延が発生しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementがこの操作で遅延を検出しました。ユーザーには警告メッセージが表示されました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザー ストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品のトラブルシューティングと構成に関するアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
23	ファイルアクセスが拒否される可能性があります。ユーザーがユーザー ストアからファイルを取得する際に長い遅延が発生しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementがこの操作でアクセスが拒否されるほどの著しい遅延を検出しました。ユーザーにはエラーメッセージが表示されました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザー ストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品のトラブルシューティングと構成に関するアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
24	RevertToSelfがエラーコードで失敗し、Profile Managementが	一部のログオンおよびログオフ処理は、偽装を使用して実行されます。	セキュリティ侵害が疑われる場合は、組織の手順に従って対処し、Profile

イベント ID	説明	原因	アクション
	シャットダウンされました。	RevertToSelf関数は通常、偽装が完了したときに呼び出されます。この場合、関数が呼び出されませんでした。そのため、セキュリティ上の理由から、Profile Managementソフトウェアはシャットダウンされました。ユーザーにはエラーメッセージが表示されました。	Managementを再起動してください。
25	ユーザーのプロファイルはCitrix Profile Managementによって管理されていますが、ユーザー ストアに到達できません…	このコンピューター上のCitrix Profile Management Serviceは、指定されたユーザー ストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないことが原因です。	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
26	デフォルトのプロファイル場所が無効です。この場所にあるプロファイルは正しく監視できません…	このコンピューター上のプロファイルは、ドライブ文字（例: C:）にマウントされたディスク上にある必要があります。	このコンピューター上のプロファイルをドライブ文字にマウントされたディスクに移動し、Profile Managementを再起動してください。
27	ユーザーのプロファイルフォルダーがデフォルトのプロファイル場所にありません…	レジストリでは、このユーザーのプロファイルの場所とデフォルトプロファイルの場所が一致しま	このユーザーのプロファイルがデフォルトのフォルダーの場所にあることを確認してください。必要

イベント ID	説明	原因	アクション
		せん。これは、たとえば、Profile Management Service を実行しているマシン上の異なるボリューム間でプロファイルが移動された場合に発生する可能性があります。	に応じて適切なツールを使用し、ファイルシステム内のプロファイルデータがプロファイルのレジストリ設定と一致するようにしてください。
28	ユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしようとしているときにエラーが発生しました。	このCitrixユーザープロファイルを作成するために使用されたデフォルトまたはテンプレートプロファイルのレジストリに、権限の問題がある可能性があります。	必要に応じて、SetAclなどのサードパーティ製ユーティリティを使用して、Profile Management ユーザー ストア内のユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしてください。
29	テンプレートプロファイルパスが構成されていますが、プロファイルが見つかりませんでした…	指定されたフォルダーには NTUSER.DATファイルが含まれていないため、テンプレートプロファイル設定で使用できません。この問題は、NTUSER.DATファイルを含むフォルダーではなく、NTUSER.DATファイルのフルパスが構成されている場合に頻繁に発生します。テンプレートプロファイル設定は、Active Directory属性、システム環境変数、または `%USERNAME%` およ	テンプレートプロファイルを含むフォルダーへの有効なパスが構成されていることを確認してください。パスに NTUSER.DATが含まれていることを確認してください。このファイルが有効であり、すべてのファイルへの読み取りアクセスを許可するようにフォルダーのアクセス権が正しく設定されていることを確認してください。

イベント ID	説明	原因	アクション
		び `%USERDOMAIN%` 変数の展開をサポートしていません。	
33	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるローカルプロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
34	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにある移動プロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
35	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるテンプレートプロファイルからユーザーストアにプロファイルを作成しました	指定された場所からユーザーストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています
36	USER の既存のプロファイルフォルダーを、このユーザーの新しい Citrix 強制プロファイル用に準備できません。可能であれば、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。	Citrix 強制プロファイルは、ログオンごとにテンプレートプロファイルのコピーを使用します。既存のプロファイルはすべて削除され、Citrix 強制プロファイルは指定されたテンプレートの場所からコピーされます。このプロセスは失敗しました。	既存のプロファイルフォルダーは手動で削除してください。ファイルが別のプロセスによってロックされており、削除が失敗する場合は、コンピューターを再起動する必要があるかもしれません。テンプレートフォルダーが存在し、ユーザーがその内容を読み取

イベント ID	説明	原因	アクション
			る権限を持っていることを確認してください。
37	ユーザーのユーザー ストア パスに到達できません。このユーザーには一時プロファイルが作成され、このユーザー ストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上の Citrix Profile Management Service は、指定されたユーザー ストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためです。	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
38	ユーザーのプロファイルは Citrix Profile Management によって管理されていますが、ユーザー ストア パスが見つかりません。このユーザーには一時プロファイルが作成され、このユーザー ストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上の Citrix Profile Management Service は、指定されたユーザー ストア内のプロファイルを見つけることができません。これは、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためである可能性があります。しかし、ユーザー ストア内のプロファイルが削除または移動されたためである可能性もあります。あるいは、ユーザー ストアへのパスが変更され、ユーザー ストア内の既存のプロファイルを正しく指していな	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であることを確認してください。また、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作しており、ユーザー ストアへのパスが既存のプロファイルを指していることを確認してください。ユーザー ストア内のプロファイルが削除されている場合は、ローカル マシン上のプロファイルを削除してください。

イベント ID	説明	原因	アクション
		い可能性もあります。	
42	ユーザー `<userdomain>\<username>` のポリシー設定を更新しようとしているときにエラーが発生しました。ポリシー設定が正しく適用されていない可能性があります。エラーコード: `<error code>`	Citrix Profile Management は、Citrix グループポリシー設定の更新に失敗しました。	Citrix Group Policy Client-Side Extension がインストールされ、正常に動作していることを確認します。
3005	`<path1>` からアクセスポイント `<path2>` への仮想ディスクのマウントに失敗しました。	Citrix Profile Management は、仮想ディスクをアクセスポイントにマウントできませんでした。この問題は、仮想ディスクにアクセスできない場合、アクセスポイントが空でない場合、または仮想ディスクがすでにマウントされている場合に発生する可能性があります。	マシンを再起動し、問題が解決されたかどうかを確認します。解決しない場合は、CDFトレースを収集し、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。
3008	`<path1>` からアクセスポイント `<path2>` への検索データベースのマウントに失敗しました。	Windows Search サービスは、検索データベースをマウントできませんでした。この問題は、検索データベースが破損している場合に発生する可能性があります。	CDFトレースを収集し、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

一般的な問題のトラブルシューティング

この記事では、一般的なProfile Managementの問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

ログオンが遅い

ユーザーのログオンが遅い場合は、次の手順でトラブルシューティングを行ってください。

1. Citrix Directorのパネルでプロファイルの読み込み時間を確認します。予想よりも大幅に長い場合は、ユーザープロファイルの読み込みが原因でログオンが遅くなっています。

   詳細については、「ユーザーログオンの問題の診断」を参照してください。

2. Citrix Profile Managementログファイルでプロファイルの処理時間を確認します。

   `C:\Windows\System32\Log Files\User Profile Manager`にあるProfile Managementログファイルで、`DispatchLogonLogoff`で始まるエントリを見つけます。次の例は、ログオン処理時間が10.22秒であることを示しています。

   `DispatchLogonLogoff: ---------- Finished logon processing successfully in [s]: <10.22>.`.

3. Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

   ログオンの遅延が続く場合は、Citrixテクニカルサポートに連絡して、さらにサポートを受けてください。詳しくは、「Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせ」を参照してください。

プロファイルがストリーミングされていることを確認する

ストリーミングユーザープロファイルを有効にしていて、この機能がユーザープロファイルに適用されていることを確認したい場合は、次の手順を実行します。

1. Profile Managementログファイルで次の種類のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;16:16:35.369;INFORMATION;;;;1140;ReadPolicy: Configuration value read from policy: PSEnabled=<1>
   ```

   機能が有効になっている場合、最後の項目はPSEnabled=\<1\>に設定されている必要があります。

2. Profile Managementログファイルで、ユーザーの次のエントリを確認します。

```
2010-03-16;20:17:30.401;INFORMATION;<domain name>;<user
name>;2;2364;ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile
support enabled.
```

ストリーミングされたユーザープロファイルが適用されていない場合、項目には「ProcessLogon: Streamed Profile support disabledでユーザーがログオンしています」と表示されます。

適用されているポリシーを特定する

適用されているProfile Managementポリシーを特定するには、UPMSettings.iniファイルを使用します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーにあります。このファイルを調べることは、ポリシーの結果セット（RSoP）を使用するよりも便利な場合があります。特に、GPOと.iniファイル設定を組み合わせてポリシーを決定している場合はそうです。

除外リストにあるため処理されないプロファイルフォルダーを特定するには、UPMFRSettings.iniファイルを使用します。UPMFRSettings.iniファイルもルートフォルダーにあります。

破損したプロファイルデータを除外する

ユーザープロファイルが破損しており、問題が特定のファイルまたはフォルダーにあると確信している場合は、同期プロセスから除外します。その方法は、そのファイルまたはフォルダーを除外リストに追加することです。

レジストリエントリへの接続をクリーンアップする

一部のシナリオ（Profile Managementに関連するものだけでなく）では、ユーザーがログオフした後もレジストリプロファイルデータへの接続が保持されます。この保持により、ログオフが遅くなったり、ユーザーセッションが完全に終了しなかったりする可能性があります。MicrosoftのUser Profile Hive Cleanup (`UPHClean`) ツールは、これらのシナリオを解決するのに役立ちます。

ローカルプロファイルを削除する

Microsoft Delprof.exeとSepago Delprof2は、ユーザープロファイルの削除に役立つツールです。

ロックされたキャッシュプロファイルを削除する

VMwareソフトウェアを使用して仮想デスクトップを作成しているが、ユーザーのキャッシュされたプロファイルがロックされて削除できない場合は、トラブルシューティング情報について「Profile Management and VMware」を参照してください。

プロファイルがどこに保存されているかを特定する

プロファイルの問題を診断するには、ユーザープロファイル内のファイルがどこに保存されているかを特定する必要があります。次の手順は、プロファイルがどこに保存されているかをすばやく特定する方法を提供します。

1. イベントビューアーで、左側のペインの「アプリケーション」をクリックします。
2. 右ペインの「ソース」の下で、目的のCitrix Profile Managementイベントを見つけてダブルクリックします。
3. イベントに関連付けられたユーザー ストアへのパスは、 タブにリンクとして表示されます。
4. ファイルを探索したい場合は、リンクをたどってユーザー ストアを参照してください。

サーバーの確認

サーバーがユーザーのログオンとログオフを正しく処理しているかどうかを確認するには、ユーザー ストア内のユーザー プロファイルにあるPmCompatibility.iniというファイルを確認します。このファイルはプロファイルのルートフォルダーにあります。ファイルの最後の項目は、ユーザーが最後にログオフしたサーバーの名前です。たとえば、サーバーがProfile Management 5.0を実行している場合、項目は次のようになります。

```
[LastUpdateServerName]

5.0=<computer name>
```

ロールバック

Profile Managementの以前のバージョンにロールバックするには、ユーザー ストアをホストしているファイルサーバーのコマンドラインから**del /s**を実行します。このコマンドは、各プロファイルからPmCompatibility.iniファイルを削除します。たとえば、ユーザー ストアへのローカルパスが`D:\UpmProfiles`の場合、次を実行します。

```
del /s D:\UpmProfiles\pmcompatibility.ini
```

コマンドが完了すると、ユーザーは以前のバージョンを実行しているコンピューターにログオンし、ユーザー ストアからプロファイルを受け取ることができます。

ユーザー ストア内の除外フォルダー

除外されたフォルダーはユーザー ストアに表示されます。これは想定される問題であり、修正措置は不要です。除外リストにあるフォルダーはユーザー ストアに作成されますが、その内容は同期されません。

ログファイル内の情報不足

デバッグモードをアクティブにしても、完全なログ記録が自動的に有効になるわけではありません。ログ設定で、ログに記録したいイベントのすべてのチェックボックスが選択されていることを確認してください。

ヒント: リストの最後のチェックボックスを有効にするには、下にスクロールする必要がある場合があります。

GPO設定が機能しない

GPO設定を変更しても、Citrix Profile Management Serviceを実行しているコンピューターで機能しません。この問題は、GPがすぐに更新されず、展開で指定されたイベントまたは間隔に基づいているために発生します。GPをすぐに更新するには、コンピューターで`gpupdate /force`を実行します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る

デフォルトでは、問題が発生した場合（たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合）に、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。または、Profile Management を構成して、エラーメッセージを表示してからユーザーをログオフさせることもできます。このアプローチは、トラブルシューティングに役立ちます。

この機能の構成手順については、「ユーザーのログオフを強制する」を参照してください。

特定の状況では、ユーザーがログオンしたときに、キャッシュされたプロファイルの代わりに新しいプロファイルを受け取ることがあります。

ユーザー ストア内のコピーが削除された後にローカル プロファイルが存在する場合、ユーザーは一時プロファイルを受け取ることもあります。この状況は、ユーザー ストアがクリアされても、ログオフ時にローカル プロファイルが削除されない場合に発生する可能性があります。

Profile Management は、このような部分的なプロファイルの削除をネットワーク、共有、または権限のエラーとして扱い、ユーザーに一時プロファイルを提供します。このため、部分的な削除は推奨されません。この問題を回避するには、影響を受けるコンピューターにログオンし、プロファイルを手動で削除してください。

展開にパーソナルvDiskが含まれている場合、これらのディスクのデフォルト処理が正しく調整されていないと、ユーザーは一時プロファイルを受け取る可能性があります。詳細については、「ユーザープロファイルの移行」を参照してください。

仮想デスクトップセッションが応答しなくなったときにプロファイルデータが失われる

Citrix Virtual Desktopsの展開では、リモートデスクトッププロトコル（RDP）セッションから切断すると、仮想デスクトップが応答しなくなったり、再起動したりする可能性があります。この動作は、セッション終了時にプロファイルデータが失われるため、Profile Managementに影響を与えます。この問題は、Citrix Virtual Delivery Agentバージョン3.1.3242以降で修正されています。

ユーザーがログオンできない（イベントID: 1000、ソース: Userenv）

ユーザーがCitrix環境にログオンできず、「Windows did not load your roaming profile and is attempting to log you on with your local profile... Contact your network administrator.」というエラーメッセージが表示されます。このエラーは、Windowsアプリケーションイベントログ（イベントID: 1000、ソース: Userenv）に表示されます。

印刷

Citrix Virtual Desktops™環境では、ユーザーはデフォルトのプリンターを選択できますが、ログオン間でその選択が保持されないことがあります。この問題は、標準イメージモードのCitrix Provisioning ServicesパーソナルvDiskに基づいたプールされた仮想デスクトップでプリンターを設定するために、Citrix仮想デスクトップのポリシーが使用されている場合に確認されています。

この問題はProfile Managementに起因するものではありません。Profile Managementのログファイルには、プリンターのレジストリエントリがログオフ時にコピーされたこと（これは予期される動作です）が示されていますが、ユーザーのNTUSER.datにはそのエントリが含まれていません（これは予期されない動作です）。この問題は実際には、Citrix Virtual Desktopsが `DefaultPmFlags` レジストリ設定を使用する方法に起因しています。

プロファイルに予期しないプリンターが追加されることがあります。ユーザーがそれらを削除しても、次回のログオン時にプリンターが再表示されます。詳細については、Profile Managementサポートフォーラムを参照してください。

複数のプラットフォームでのアプリケーション設定に関する問題

複数のプラットフォーム間でアプリケーション設定が正しくローミングされないという問題が発生する可能性があります。通常、これらの問題は次の原因で発生します。

- あるシステムから別のシステムに適用できない設定。たとえば、すべてのシステムに存在するわけではないハードウェア固有の設定などです。
- 異なるシステムに異なる方法でインストールされているアプリケーション。例：
  - あるシステムではC:ドライブにインストールされているが、別のシステムではD:ドライブにインストールされているアプリケーション。
  - あるシステムでは `C:\Program Files` にインストールされているが、別のシステムでは `C:\Program Files (x86)` にインストールされているアプリケーション。
  - あるシステムにはインストールされているが、別のシステムにはインストールされていないExcelアドイン。
- 設定情報をプロファイルに保存しないアプリケーション。たとえば、ローカルマシンの設定内またはユーザープロファイル外に保存されている情報などです。
- Language-specific configuration settings stored in the registry. Profile Management automatically translates language-specific folder names in Version 1 profiles but not in the registry.

ほとんどの場合、これらの問題を引き起こすシステムの標準化を改善することで、問題を最小限に抑えることができます。ただし、多くの場合、問題はOSまたはそれぞれのアプリケーションの（複数のプラットフォームとの）固有の非互換性に起因します。問題のある設定が重要でない場合は、プロファイルから除外することで問題が解決する可能性があります。

不明なアカウントが所有するプロファイル

まれに、プロファイルが不明なアカウントに属しているように見えることがあります。コンピューターの ダイアログボックスの タブで、 の をクリックすると、 と表示されます。この問題は、イベントログエントリ 「*Profile notification of event Create for component \<application ID\> failed, error code is???*」 とともに発生します。レジストリでは、アプリケーションIDはMicrosoftコンポーネントであるSHACCT Profile Notification Handlerを指します。

To confirm that this issue occurs in your environment, log on as a user whose data Profile Management doesn't process, and check for these symptoms.

It isn't an issue with Profile Management but might be the result of Active Directory interacting badly with virtual machine snapshots. The operation of Citrix user profiles is unaffected. Users can log on and off, and their profile changes are preserved.

高度なトラブルシューティングを実行する

現在のProfile Management設定を確認し、Profile Managementログが有用な情報のソースではないと判断した後、このチェックリストを使用してさらにトラブルシューティングを行います。

- 分析対象のマシンから結果として得られるポリシーのセット (RSoP) レポートを確認し、すべてのGPOが期待どおりに適用されていることを確認します。

  レポートを生成するには、マシンで`gpresult`コマンドを実行します。
- 最新バージョンのProfile Managementがインストールされていることを確認します。詳しくは、「Profile Managementのバージョンを確認する」を参照してください。
- 他のユーザーからの解決策については、Profile Managementサポートフォーラムを確認してください。
- 影響を受けるマシンと同じオペレーティングシステムを持つクリーンなマシンで問題を再現してみてください。ソフトウェア製品を1つずつインストールし、各インストール後に問題が再現できるかどうかを確認します。詳しくは、「テスト環境にProfile Managementを展開する」を参照してください。

Profile Managementのバージョンを確認する

バージョン情報を確認するには、次の手順に従います。

1. WindowsエクスプローラーでUserProfileManager.exeファイルを右クリックします。
2. ［プロパティ］>［バージョン］ をクリックします。
3. 最新バージョンでない場合は、My Accountサイトから最新バージョンをダウンロードします。Citrix®製品を選択し、ダウンロードセクションからProfile Managementをダウンロードします。

> **ヒント:**
>
> アップグレード後、必要に応じて以降の機能を有効にできます。

テスト環境にProfile Managementを展開する

ログファイルが問題のトラブルシューティングに役立たない場合は、次の例で使用されているトラブルシューティングアプローチを試してください。このアプローチは、次の目的で使用できます。

- どの構成設定が読み取られているかを特定します。
- 構成設定がどこから読み取られているかを特定します（複数のADMファイルが存在する場合）。
- ログファイルがプロファイルへの変更を正しく追跡していることを確認します。

展開例

この例での展開は次のとおりです。

- Citrix Virtual Apps™ サーバーはWindows Server 2003で実行されています。
- ユーザーは、Plug-in for Hosted Apps for Windowsを使用して公開リソースに接続しています。
- INIファイルベースの構成ではなく、OUベースのGPOが使用されます。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの不適切な使用によって生じた問題が解決できることを保証することはできません。レジストリエディターの使用は自己責任で行ってください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

トラブルシューティングのワークフロー

この例には、サーバーが1台のみで構成される小さなテストOUが含まれています。サーバーのプロファイル設定を編集できます。その後、ログファイルとポリシーの結果セット (RSoP) レポートで設定の変更を追跡します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 実稼働環境から、Citrixユーザープロファイルをホストする Citrix Virtual Appsサーバーの1つを削除します。次に、そのサーバーを新しいOUに追加します。

2. サーバーからProfile Managementを削除し、再インストールします。再インストールする際は、短いファイル名（8.3形式のファイル名とも呼ばれます）が次のようにアクティブ化されていることを確認してください。

    - 以下のレジストリエントリが1 (DWORD値) に設定されている場合は、0に設定してProfile Managementを再インストールします: `HKLM\System\CurrentControlSet\Control\FileSystem\NtfsDisable8Dot3NameCreation`。これにより、短いファイル名のサポートが有効になります。
    - エントリが1に設定されていない場合は、各サブフォルダー名が8文字以下の場所にProfile Managementを再インストールします。例: `c:\prof-man`。 新しいオペレーティングシステムでは、このレジストリエントリを調整する必要はありません。

3. サーバーにドメイン管理者としてログオンします。
4. ローカルポリシーを調べて、このレベルのADMファイルを削除します。
5. 新しいOUに割り当てられているGPOへのリンクをすべて削除します。
6. サーバーで、レジストリエディターからキーとすべてのサブキーを削除します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`。
7. Profile Managementの.iniファイルをすべて削除します。
8. **マイコンピュータ \> プロパティ \> 詳細設定**を使用して、テストするプロファイル以外のすべてのプロファイルを削除します。表示されるエラーを調査します。
9. Authenticated Usersグループにファイルのフルコントロールを付与します。これにより、ユーザーとしてログオンしたときにProfile Managementログファイルを確認できます。ログファイルは `C:\Windows\System32\LogFiles\UserProfileManager\<domainname>#<computername>_pm.log` です（\<domainname\>はコンピューターのドメイン、\<computername\>はその名前です）。ドメインを特定できない場合、ログファイルはUserProfileManager.logになります。
10. 次の設定のみを含むGPOを作成し、新しいOUにリンクします。GPOがAuthenticated Usersグループに割り当てられていることを確認します。これらの設定を有効にして構成します:

    a. Profile Managementを有効にします。
    b. ユーザーストアへのパス。
    c. ログを有効にします。
    d. ログ設定。すべてのイベントとアクションを選択します。
    e. 既存のプロファイルの移行。ローミングプロファイルとローカルプロファイルを選択します。

f. ローカルプロファイルの競合処理。ローカルプロファイルの名前を変更を選択します。

g. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除します。

h. 「*ローカル管理者ログオンの処理*」設定を無効にします。そうすることで、Profile Managementが誤って構成され、ユーザーのログオンが妨げられた場合でも、管理者としてログオンできます。

11. OUを右クリックし、**継承のブロック**を選択して、GPOリンクがOUに適用される方法を制御します。
12. ログオンしたことがなく、サーバー上のローカル管理者グループのメンバーではないドメインテストユーザーを作成します。
13. このユーザーにフルデスクトップを公開し、ユーザーがRemote Desktop Usersグループに属していることを確認します。
14. ドメインに複数のドメインコントローラー（DC）がある場合は、サーバーと同じサイト内のすべてのDC間でADレプリケーションを強制します。
15. ドメイン管理者としてサーバーにログオンし、ログファイルを削除し、Citrix Profile Managementサービスを再起動して、`gpupdate /force`を実行します。
16. レジストリを確認し、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`内の値が新しいGPOの値のみであることを確認します。
17. 管理者としてログアウトします。
18. Internet Explorerの設定をいくつか変更し、My Docsフォルダーに空のテストファイルを作成します。
19. Profile Managementログファイルへのショートカットを作成します。それを開き、エントリを調べます。注意が必要な項目を調査します。
20. ドメイン管理者としてログアウトし、再度ログオンします。
21. `gpresult`を実行して、テストユーザーとサーバーのRSoPレポートを生成します。

レポートに期待する内容が含まれていない場合は、注意が必要な項目を調査します。

Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせ

このセクションのトラブルシューティングの助言を確認し、発生した問題がProfile Managementに起因すると考えられる場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。常に以下のファイルと、可能な限り多くのその他の情報を収集して提供してください。

Profile Managementログファイルの収集

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションをログに記録するように、マシンでProfile Managementを有効にします。詳細については、「Profile Managementログの有効化」を参照してください。
2. 影響を受けるマシンで問題を再現します。
3. `%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager`からProfile Managementログファイルとそのバックアップファイルを収集します。

影響を受けるマシンからのログファイルには、少なくとも以下の情報が含まれています。

- サービスの開始（Profile Managementのバージョンとビルド番号を含む）
- サービスによる構成の読み取り
- 影響を受けるユーザーの完全なログオンプロセス
- 問題発生時にユーザーが行ったアクティビティ
- 影響を受けるユーザーの完全なログオフプロセス

Windowsイベントログファイルの収集

影響を受けるマシンで問題を再現した後、以下の手順に従ってWindowsイベントログファイルを収集します。

1. `%SystemRoot%\System32\winevt\Logs`フォルダーを見つけます。
2. Application.evtx ファイルを収集します。

インストールされているソフトウェアの詳細を収集する

影響を受けるマシンにインストールされている以下のソフトウェアの詳細を収集します。

- オペレーティングシステム、言語、およびバージョン。
- Citrix 製品とバージョン。

.ini ファイルを収集する

Profile Management に関連付けられている .ini ファイルを収集するには、次の手順に従います。

1. ユーザー ストア内の各 Citrix ユーザー プロファイルのルート フォルダーを見つけます。
2. 次の .ini ファイルを収集します。
    - UPMSettings.ini

- UPMFRSettings.ini
- PmCompatibility.ini

CDFControl を使用して診断トレースログを収集する

CDFControl を使用して診断トレースログを次のように収集します。

1. Knowledge Center の記事 CTX111961 から CDFControl ツールをダウンロードします。
2. CDFControl実行可能ファイルを実行します。
3. 表示されるウィンドウで、必要に応じて1つ以上のトレースモジュールを選択します。機能の説明の詳細については、次の表を参照してください。
4. **［トレースの開始］** をクリックします。
5. 問題を再現します。
6. **［トレースの停止］** をクリックします。
7. トレースログは、CDFControl実行可能ファイルと同じフォルダーにあります。

この表は、CDFControlのトラックモジュールの機能を示しています。

トレースモジュール	説明
UPM_DLL_GPCSE	Profile ManagementからCitrixグループポリシーのクライアント側拡張機能に送信されたユーザーグループポリシー評価要求をトレースします。
UPM_DLL_OUTLOOK_HOOK	OutlookのProfile Managementフックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_Perfmon	Profile Managementに関連付けられているWindowsパフォーマンスモニターカウンターと、Profile Managementによって生成されたエラーをトレースします。
UPM_DLL_SearchSvc_Hook	Windows Search Service の Profile Management フックモジュールをトレースします。Outlook 検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。

トレースモジュール	説明
UPM_DLL_WfShell	公開アプリケーションのデスクトップ準備完了イベントを報告する Profile Management `Wfshell` プラグインをトレースします。
UPM_Driver	Citrix ストリーミングユーザープロファイルドライバーが使用されるたびに、ファイルシステムの変更をトレースします。
UPM_Service	Profile Management Service が呼び出されるたびに情報をトレースします。例としては、ログオン時、ログオフ時、セッション中の同期、または定期メンテナンスの実行時などがあります。
UPM_SessionLaunchEvaluation	Profile Management の一意のトランザクション ID に関連付けられた起動イベントをトレースします。
UPM_WMI	Profile Management VDA WMI プラグインイベントをトレースします。

その他の情報の収集

可能であれば、次の情報を収集してください。

- `gpresult` コマンドを実行して、影響を受けるマシンとユーザーのポリシーの結果セット (RSoP) レポート。
- アプリケーションイベントログ。
- 利用可能な場合は、**Userenv** デバッグファイル。このツールに関する情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

> **注:**
>
> Citrix Provisioning Services が展開の一部であり、プロファイルが初期化されているときに問題が発生する場合、データ収集は複雑になる可能性があります。そのようなシナリオでは、.ini ファイルで前述の構成更新を行い（GPOログ設定を無効にし）、プロビジョニングされたイメージでのプロファイル管理の事前構成 の指示に従うことをお勧めします。

Profile Managementのベストプラクティス

Windowsユーザープロファイルは、フォルダー、ファイル、レジストリ、および 特定のユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する構成設定の集合です。 ユーザーは、管理構成に 応じてこれらの設定をカスタマイズできます。

Windows 10の互換性

Citrix Profile Managementは、Profile Managementのリリース時に利用可能なWindows 10の最新バージョンをサポートしています。また、Windows 10の以前のすべてのバージョンもサポートしています。たとえば、Citrix Profile Managementバージョン1912は、Windows 10の最新バージョンが1909（RS7）であった時期に出荷されました。Profile Management 1912は、Windows 1909（RS7）およびWindows 10の以前のすべてのバージョンをサポートしています。

次の表は、Profile Managementのバージョンごとの推奨Microsoft Windows 10オペレーティングシステムをまとめたものです。

PROFILE MANAGEMENTのバージョン	WINDOWS 10のバージョン	注
1912	ウィンドウズ 10 1909 (RS7)	シトリックス バーチャル アプリケーションズ アンド デスクトップ™ 7 1912
1909	Windows 10 バージョン 1903 (RS6)	シトリックス バーチャル アプリケーションズ アンド デスクトップ 7 1909
1906	ウィンドウズ 10 1903 (RS6)	シトリックス バーチャル アプリケーションズ アンド デスクトップ 7 1906
1903	ウィンドウズ 10 1809 (RS5)	シトリックス Virtual Apps and Desktops 7 1903
1811	ウィンドウズ 10 1809 (RS5)	シトリックス Virtual Apps and Desktops 7 1811

PROFILE MANAGEMENTのバージョン	WINDOWS 10のバージョン	注
1808	ウィンドウズ 10 1803 (RS4)	シトリックス Virtual Apps and Desktops 7 1808
7.18	ウィンドウズ 10 1803 (RS4)	XenApp および XenDesktop 7.18
7.17	ウィンドウズ 10 1709 (RS3)	ゼンアップ アンド ゼンデスクトップ 7.17
7.16	ウィンドウズ 10 1703 (RS2)	XenApp および XenDesktop 7.16
7.15 長期サービスリリース	ウィンドウズ 10 1703 (RS2)	XenApp および XenDesktop 7.15 LTSR 最新の累積更新プログラムを適用

注:

Citrixユーザープロファイルが存在するOSをアップグレードしようとすると、失敗する可能性があります。アップグレードを続行するには、ローカルマシンからCitrixユーザープロファイルを削除してください。

Windows 10のスタートメニューのカスタマイズ

部分的にロックダウンされたカスタマイズレイアウトを使用し、グループポリシーを介してカスタマイズを展開することをお勧めします。スタートメニューのレイアウトのカスタマイズに関する詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/desktop/customize-start-layout>`を参照してください。

スタートメニューのローミング

スタートメニューにピン留めされたアプリケーションは、数回のログオン後に以下のオペレーティングシステムで消えることがあります。

- Windows 10バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2016 Standard および `Datacenter` エディション

- Windows Server 2019 Standard および `Datacenter` エディション
- 仮想デスクトップ向け Windows 10 エンタープライズ

前述のオペレーティングシステムでスタートメニューのローミングが正しく機能するようにするには、次の構成手順を完了します。

1. **ミラーするフォルダー**ポリシーを有効にし、以下のフォルダーをミラーするフォルダーのリストに追加します。

   - `Appdata\Local\Packages`
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`
   - `!ctx_localappdata!\TileDataLayer` (Windows 10 バージョン 1703 より前のバージョンにのみ適用)

   > **注:**
   >
   > Citrix Profile Management 1912 以降、**デフォルトの除外リスト - ディレクトリ**または**除外リスト - ディレクトリ**に追加されたフォルダーは、**ミラーするフォルダー**に追加しても同期されません。**ミラーするフォルダー**に追加する前に、除外リストから `appdata\local\packages` フォルダーを削除してください。

2. **同期するファイル**ポリシーを有効にし、以下のフォルダーを同期するファイルのリストに追加します。

   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

アウトルック と オフィス 365

Microsoft は、一貫したオンラインおよびオフラインの Microsoft Outlook エクスペリエンスを有効にするために、キャッシュされた Exchange モードを推奨しています。キャッシュされた Exchange モードは、Microsoft Outlook クライアントからオンにできます。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/exchange/outlook/cached-exchange-mode>` を参照してください。

キャッシュされた Exchange モードを使用すると、ユーザーの Exchange メールボックスのコピーが常にオフラインフォルダーファイル (*.ost) に保存されます。このファイルは大きくなる可能性があります。

Microsoft Outlook データをローカルまたは共有ドライブに保存することは避けることをお勧めします。代わりに、ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする機能を使用してください。この機能を使用すると、**Outlook オフライン**フォルダーファイル (*.ost) とユーザー固有の Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。この機能の使用方法の詳細については、「ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを有効にする」を参照してください。

1か所からのProfile Managementの構成

Profile Management を構成できる場所は 3 つあります。Profile Management を構成するには、Citrix Studio の HDX ポリシー、または Active Directory の GPO を使用します。Workspace Environment Management を使用して Profile Management を構成することもできます。

Profile Management を構成するには、3 つの場所のうちいずれか 1 つのみを選択することをお勧めします。

トラブルシューティングのベストプラクティス

潜在的な構成エラーを特定するには、常に Profile Management 構成チェッカーツール (UPMConfigCheck) を使用してください。

Profile Management が機能しない場合は、まず構成されているユーザー ストアにアクセスできるかどうかを確認してください。

Cookie の処理

Profile Management は、Internet Explorer 10 および Internet Explorer 11 の古い Cookie の削除をサポートするようになりました。「ログオフ時にインターネット Cookie ファイルを処理する」ポリシーを使用して、古い Cookie を削除し、Cookie フォルダーの肥大化を防ぐことができます。さらに、ミラーリングするフォルダーのリストに次のフォルダーを追加します。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`

Microsoft Credentials Roaming が有効な場合のプロファイルストリーミング

既定では、構成ファイルの次のフォルダーはプロファイルストリーミングから除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

プロファイルストリーミングの除外を手動で構成する場合は、上記のフォルダーを「プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ」に追加してください。

プロファイルを効率的に同期する

同期が不十分なユーザープロファイルは、ログオンの遅延、ユーザー設定の損失、プロファイルの破損につながる可能性があります。また、過剰な管理作業が必要になることもあります。プロファイルを効率的に同期するには、この記事で説明されている推奨事項に従ってください。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、Profile Management とともに使用できる Microsoft Windows の機能です。フォルダーリダイレクトは、プロファイルソリューションを成功させる上で重要な役割を果たします。

フォルダーリダイレクトを使用するには、関連するユーザーが Profile Management が管理する OU に属していることを確認してください。Active Directory の GPO を使用してフォルダーリダイレクトを構成することをお勧めします。

たとえば、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> フォルダーリダイレクト** の下にある対応するポリシーを有効にすることで、次のフォルダーをリダイレクトできます。

ドキュメント、**ピクチャ**、**ミュージック**、**ビデオ**、**お気に入り**、**連絡先**、**ダウンロード**、**リンク**、**検索**、および **保存されたゲーム**

> **注:**

- フォルダリダイレクトにより、ユーザーがログオンするたびにそれらのフォルダ内のデータをコピーする必要がなくなり、ユーザーのログオンが高速化されます。
- アプリケーションやスタートメニューで問題が発生する可能性があるため、**AppData (Roaming)** および **スタートメニュー** の **フォルダリダイレクト** を有効にしないことを強くお勧めします。
- **デスクトップ** フォルダが大きすぎる場合は、リダイレクトしないでください。そうしないと、ユーザーがログオンしたときにブラックスクリーンが発生する可能性があります。

ファイルとフォルダを含めるおよび除外する

Profile Managementでは、包含リストと除外リストをカスタマイズすることで、同期したくないファイルとフォルダを指定できます。プロファイルの肥大化を避けるため、サードパーティ製アプリケーションのキャッシュファイル（例: Appdata\Local\Google\Chrome\UserData\Default\Cache にある Chrome キャッシュファイル）を除外してください。詳細については、「アイテムを含めるおよび除外する」を参照してください。

プロファイルストリーミング

Profile Managementは、ユーザーがログオン後にファイルやフォルダにアクセスした場合にのみ、ユーザーストアからローカルコンピューターにプロファイル内のファイルやフォルダを取得します。これにより、ログオンプロセスが高速化され、プロファイルサイズが削減されます。たとえば、実際に使用されていないファイルは、ローカルプロファイルフォルダにコピーされることはありません。また、「常にキャッシュ」ポリシーを使用して、ストリーミングされるファイルのサイズに下限を設けることもできます。このサイズ以上のファイルは、ログオン後できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

アクティブライトバックとレジストリ

この機能は、特に変更されたファイルが多い場合に、プロファイルストリーミング機能と比較してログオフ時間を短縮します。この機能は、セッション中、ログオフ前に、変更されたファイルとフォルダ（ただしレジストリエントリは除く）をユーザーストアに同期します。

Internet Explorer 10/11 の Cookie サポート

Profile Management 5.0 以降では、Internet Explorer 10 および Internet Explorer 11 を使用する際の Cookie の処理が強化されています。Cookie フォルダの肥大化を避けるため、「ログオフ時に

インターネット Cookie ファイルを処理する」ポリシーを使用して古い Cookie を削除してください。ミラーリングするフォルダのリストに次のフォルダを追加できます。

- AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies
- AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache
- AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies

詳細については、「ログオフ時にインターネット Cookie ファイルを処理する」を参照してください。

用語集

この記事には、Profile Managementソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。他のCitrix®ソフトウェアで使用されるプロファイル関連の用語も含まれています。Windowsユーザープロファイルに関連する他の概念を理解するには、MicrosoftのWebサイトをご覧ください。

用語	定義
ベースプラットフォーム	クロスプラットフォーム設定ストアを参照してください。
ベースプロファイル	ベースプロファイルは、ユーザーストア内のプロファイルへのUNCパスによって定義されます。クロスプラットフォーム設定機能が使用されている場合、プラットフォーム間で共有できるレジストリ設定とファイルは、ベースプロファイルのサブセットを形成します。このサブセットはクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされ、そこから移行またはローミングのターゲットとして使用されるプロファイルに追加されます。クロスプラットフォーム設定ストアにはベースプロファイルのサブセットが含まれていますが、これ（およびターゲットプロファイル）は常に完全なプロファイルとして保存されます。そして、必要に応じて、標準のWindowsローミングプロファイルまたはローカルプロファイルとして使用できます。ただし、ストリーム配信ユーザープロファイル機能が使用されている場合、ベースプロファイルは一時的に不完全になる可能性があることに注意してください。一部のファイルは、ユーザーがログオフするまで保留領域に存在する可能性があります。ローミングシナリオでベースプロファイルを定義する際の考慮事項については、ローミングを参照してください。

用語	定義
キャッシュ	キャッシュと同期という用語は、ユーザーストアからファイルをダウンロードしたり、ユーザーストアにファイルをアップロードしたりする行為を指します。フェッチという用語はより具体的で、ストリーム配信ユーザープロファイル機能が、ユーザーが必要とするときにログオン後いつでも、ユーザーストアからファイルのサブセットをダウンロードする方法を指します。
Citrix強制プロファイル、Citrixローミングプロファイル、Citrixユーザープロファイル	Citrixユーザープロファイルは、Profile Managementがインストールされ有効になっているときにユーザーが受け取るプロファイルの総称です。Citrixユーザープロファイルには、Citrixローミングプロファイルと Citrix強制プロファイルの2種類があります。Citrixローミングプロファイルは、ユーザーが日常業務でカスタマイズし、ログオフ時にユーザーストアに保存され、Profile Managementポリシーによって処理されるファイル、フォルダー、およびレジストリ設定の標準コレクションです。Citrix強制プロファイルは、Profile Managementがそれらを処理する方法においてCitrixローミングプロファイルに似ています。ただし、ログオフ時にユーザーストアに変更は保存されません。ログオン時には、強制プロファイルの新しいコピーがロードされます。Citrixユーザープロファイルは、Microsoftローカルプロファイル、Microsoftローミングプロファイル、またはMicrosoft強制プロファイルとは異なります。
コンピューター	これらのProfile Managementトピックで使用される一般的な用語「コンピューター」は、Citrix Profile Management Serviceがインストールされている任意のマシンを指すことができます。これは、ユーザーデバイス、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™仮想マシンからプロビジョニングされた可能性のあるもの）、または公開アプリケーションをホス

用語	定義
	トするCitrix Virtual Appsサーバーである場合があります。
クロスプラットフォーム定義ファイル	このファイルは、クロスプラットフォーム設定機能を動作させるために必要な情報を含む、Profile Managementに付属の.xmlファイルです。サポートされているアプリケーションごとに1つのファイルがあります。
クロスプラットフォーム設定ストア	この場所はユーザー ストアとは別で、クロスプラットフォーム設定機能が構成されると、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。どのプラットフォームのプロファイル データを使用してクロスプラットフォーム設定ストアをシードするかを選択します。それがベース プラットフォームです。
フェッチ	キャッシュを参照してください。
レガシーアプリケーション	レガシーアプリケーションは、設定を非標準の場所に保存するため、適切に動作しないアプリケーションです。これには、一時的なアプリケーションデータをユーザープロファイルに保存し、それによってプロファイルの肥大化を引き起こすシステムが含まれます。
移行	移行とは、プロファイルをあるプラットフォームから別のプラットフォームへ（たとえば、Windows XPからWindows 7へ）計画的に一方向で移動させることです。
プロファイルの肥大化	一時ファイルが削除されないと、Windows ユーザープロファイルのサイズが増加する可能性があります。これによりログオンが遅くなり、プロファイルの肥大化と呼ばれます。
ローミング	ローミングとは、複数のコンピューターまたはセッションから異なるベースプロファイルを使用することです（たとえば、Windows 2008 R2を実行しているコンピューター用のベースプロファイルと、Windows 7用の2番目のベースプロファイル）。ユーザーは、異な

用語	定義
	るベースプロファイルを持つコンピューターまたはセッション間を行き来して接続するときにローミングします。組織単位（OU）の構成方法によっては、ベースプロファイルをプラットフォーム間で共有できます。たとえば、Windows 2008 R2とWindows 7のOUは同じプロファイルを使用できます。この場合、同じベースプロファイルが共有されるため、ユーザーはローミングしません。ベースプロファイルは、同じプロファイルバージョン（バージョン1またはバージョン2プロファイル）のオペレーティングシステムでのみ共有できます。バージョン1とバージョン2の両方のプロファイルがアクティブな場合、ユーザーは常にローミングします。
同期	キャッシュを参照してください。
ユーザー ストア	ユーザー ストアは、Citrix ユーザー プロファイルを保存するための中央ネットワーク ロケーションです。クロスプラットフォーム設定ストアも参照してください。
ブイディスク、パーソナル ブイディスク	vDisk は、Citrix Provisioning™ Services によってマスター イメージから作成される仮想ディスクです。Personal vDisk は、Citrix Virtual Desktops でプロファイル、ユーザーがインストールしたアプリケーション、部門別アプリケーション、およびユーザー データを保存するために使用されるディスクです。Personal vDisk は、オペレーティング システム、レジストリ、および基本アプリケーションに使用されるディスクとは別個のものです。
バージョン 1 プロファイル、バージョン 2 プロファイル	Microsoft Windows XP および Windows Server 2003 のプロファイルは、バージョン 1 プロファイルとして知られています。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 のプロファイルは、バージョン 2 プロファイルとして知られています。バージョン 1 とバージョン 2 のプ

用語	定義
	ロファイルは異なる名前空間を持ち、その構成のいくつかの側面に影響を与えます。

__index__

アクティブライトバックを構成する

プロファイルの整合性を確保するため、セッション中にログオフする前に、ローカルコンピューターで変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアにバックアップできます。

2番目のセッション (たとえば、2番目のコンピューターで) を開始した場合、最初のセッションからログオフする前に開始されていれば、最初のセッションでファイルに加えられた変更は2番目のセッションで利用可能になります。

1. プロファイル管理の下で、**アクティブライトバック**をダブルクリックします。
2. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

Active write backがグループポリシーオブジェクトとHDXで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がどこにも構成されていない場合、Profile Managementはこれを動的に構成します。詳細については、「高度なトラブルシューティングチェックリスト」を参照してください。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

> **注：**
>
> レジストリエントリのアクティブライトバックは、デフォルトで無効になっています。アクティブライトバックが有効になっている場合、**プロファイル管理** \> **Active write back Registry**でこの機能を有効にできます。グループポリシーオブジェクトとHDXで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定を構成する

重要: この機能に関する以下の重要な情報に注意してください。

- Profile Management のクロスプラットフォーム設定は、サポートされているオペレーティングシステム（OS）およびアプリケーションのセットと互換性があります。この機能は、本番環境でのみ構成してください。
- Microsoft Office の設定は、そのアプリケーションのバージョン間でローミングされません。詳細については、「クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。
- この機能は、レジストリ設定およびアプリケーション設定に適しています。ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト（たとえば、ブラウザーのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など）には適していません。
- この機能を使用して、異なるプロファイルバージョンのシステム間でユーザープロファイルを移行する場合、すべてのユーザーの移行が完了した後にこの機能を無効にしてください。この機能を使用すると、主にログオフ時にパフォーマンスに影響があります。したがって、プロファイルバージョン間のローミングをサポートしない限り、無効にしておくのが最善です。

このトピックでは、クロスプラットフォーム設定を構成するために実行できる手順の例を説明します。詳細なケーススタディについては、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」を参照してください。

ヒント: Citrix® は、この機能を本番環境に導入する前に、少数のテストユーザーに限定することをお勧めします。これには、 クロスプラットフォーム設定ユーザーグループオプションを使用します。この設定が構成されている場合、Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。この設定が無効になっている場合、この機能は、 「処理されるグループ」設定で指定されたすべてのユーザーを処理します。 グループポリシーまたは .ini ファイルでクロスプラットフォーム設定ユーザーグループが構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

1. すべてのプラットフォームに共通する設定については、共通のグループポリシーオブジェクト（共通 GPO）を作成し、それを Profile Management の .adm または .admx ファイルにリンクして、必要に応じて設定を構成します。この設定は、後でトラブルシューティングを困難にする可能性のある重複する設定を最小限に抑えるため、ベストプラクティスです。要件に応じて、ユーザーストアへのパスを除くすべての Profile Management 設定は複数のプラットフォームで機能します。バージョン 1 およびバージョン 2 プロファイルのユーザーストア構造が異なるため、ユーザーストアへのパスはプラットフォームごとに個別に構成してください。共通 GPO では、この設定を未構成のままにしてください。
2. 異なるプラットフォーム用に個別の OU を作成します。たとえば、Windows 7 から Windows 8 に移行する場合、これらのオペレーティングシステム用に個別の OU を作成し、各 OU でユーザーストアへのパスを適切に設定します。

3. プラットフォーム間でパーソナライズを機能させたいサポート対象アプリケーションの定義（.xml）ファイルを見つけます。これらのファイルは、ダウンロードパッケージの CrossPlatform フォルダーにあります。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。
4. .xml ファイルをネットワーク上の適切な場所にコピーします。
5. グループポリシー管理エディターで共通 GPO を編集します。Profile Management の下にある「クロスプラットフォーム設定」フォルダーを開き、次の設定を構成します。

   - クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ。クロスプラットフォーム設定を適用するユーザーを制限します。この設定はオプションです。この機能をテストしたり、段階的に展開したりする場合に役立ちます。
   - クロスプラットフォーム定義へのパス。ダウンロードパッケージからコピーした定義ファイルのネットワーク上の場所を識別します。このパスは UNC パスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。
   - クロスプラットフォーム設定ストアへのパス。これは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納されるユーザー ストアの共通領域です。ユーザーはこの領域への書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。ユーザー ストアへのパスと同じ変数を使用できます。

6. そのプラットフォームのOUで「クロスプラットフォーム設定作成元」が「有効」に設定されていることを確認して、ベースプラットフォームを指定します。この設定により、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータが移行されます。他のプラットフォームのOUでは、このポリシーを「無効」または「未構成」に設定します。各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードに使用するプラットフォームのプロファイルデータを決定する必要があります。これがベースプラットフォームと呼ばれます。クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている場合、または単一プラットフォームプロファイルのキャッシュデータがストア内の定義データよりも新しい場合、この設定を無効にしない限り、Profile Managementは単一プラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。 重要： 複数のOUで「クロスプラットフォーム設定作成元」が有効になっている場合、最初にユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。
7. 「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を「有効」に設定します。デフォルトでは、展開を容易にするため、この設定をオンにするまでクロスプラットフォーム設定は無効になっています。

8. グループポリシーの更新を実行します。
9. プロファイルをプラットフォーム間で移行するが、それらのローミングをサポートしない場合は、移行が完了したら、「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を**無効**に設定します。

ここで「クロスプラットフォーム定義へのパス」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

「クロスプラットフォーム設定ストアへのパス」が無効になっている場合、デフォルトパス`Windows\PM_CP`が使用されます。ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、デフォルトパスが使用されます。

ここで「クロスプラットフォーム設定を有効にする」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

例：Windows Server 2008とWindows 7間でのMicrosoft Office設定のローミング

この例では、バージョン2プロファイルを作成する2つのオペレーティングシステム間でユーザーのアプリケーション設定をローミングできるようにするための主要な手順について説明します。Microsoft Office 2010が例のアプリケーションであり、Windows Server 2008上のCitrix XenApp 6.5とWindows 7の間でローミングが行われます。両方のOSは64ビットです。

1. ユーザーは、Citrix Virtual Apps™サーバー上の公開アプリケーションとしてOffice 2010およびInternet Explorer 9にアクセスすることに慣れており、これらのアプリケーションでいくつかの設定を変更します。たとえば、Officeでメール署名を変更したり、Internet Explorerで新しいホームページを選択したりします。
2. 将来、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™で作成）が作成されますが、まだユーザーにはリリースされていません。デスクトップはWindows 7を実行し、Office 2010およびInternet Explorer 9が事前構成されています。
3. ユーザーは、新しいデスクトップでも設定が同じであることを期待しています。このトピックの手順に従って、クロスプラットフォーム設定機能を構成します。これには、Windows Server 2008のOUで「クロスプラットフォーム設定作成元」を有効にすることが含まれます。
4. ユーザーが次にアプリケーションの公開バージョン（新しい仮想デスクトップではない）を実行すると、その設定がクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされます。
5. その後、新しいデスクトップがユーザーにリリースされます。ユーザーがログオンしてOfficeおよびInternet Explorerのローカルバージョンを実行すると、以前のWindows Server 2008セッ

ションからの設定が使用されます。ユーザーが変更したメール署名とホームページは、Windows 7マシンで利用できます。

6. ユーザーは仮想デスクトップからInternet Explorerで閲覧し、ホームページを再度変更することにしました。
7. ユーザーはログオフして退社します。彼らは自宅で仮想デスクトップにアクセスできませんが、リモートで公開版のInternet Explorer 9を実行できます。彼らは、前の手順でWindows 7で作成された最新のホームページが保持されていることを確認します。

定義ファイルを作成する

定義ファイルは、同期するフォルダー、ファイル、またはレジストリを定義します。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。

Microsoft UE-V テンプレートジェネレーターを使用して、UE-V テンプレートファイルを作成します。

1. Microsoft の Web サイト から、Windows 10 用の **Windows Assessment and Deployment Kit** (Windows ADK) をダウンロードします。
2. Windows ADK をインストールします。**Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) Template Generator** を選択します。**インストール** をクリックします。インストールが完了したら、**完了** をクリックしてウィザードを閉じます。
3. **スタート** をクリックし、**Microsoft User Experience Virtualization** をクリックし、次に **Microsoft User Experience Virtualization Generator** をクリックします。
4. **設定場所テンプレートの作成** をクリックします。
5. ウィザードに従って、アプリケーション関連のパラメーターを指定します。**次へ** をクリックして続行します。

   メモ帳を例にとります。ファイルパスを `C:\Windows\System32\notepad.exe` として指定します。
6. 指定したアプリケーションが起動したら、閉じます。
7. プロセスが完了したら、**次へ** をクリックして続行します。
8. 左ペインで **場所の確認** を選択します。標準および非標準のレジストリ/ファイルのリストにあるすべてのチェックボックスを選択します。
9. **作成** をクリックして、テンプレート XML ファイルを保存します。

   メモ帳を例にとります。テンプレート XML ファイルを **Notepad.xml** として保存します。

> **注**
>
> 1つの UE-V テンプレートファイルに複数のアプリケーションが定義されている場合があります。

> UE-V テンプレートファイルをクロスプラットフォーム定義ファイルに変換するには、次の手順を実行します。

1. 変換ツールを こちら からダウンロードします。
2. コマンドプロンプトから、コマンド **convert show filename** を実行して、定義ファイル内のすべてのアプリケーション名を表示します。
3. UE-Vテンプレートファイルを定義ファイルに変換するには、次のコマンドを実行します。

   convert source destination \[/Index\] \[/V\]

   \[/Index\]: インデックス番号で指定されたアプリケーションのみを変換します。

   既定では、このツールはUE-Vテンプレート内のすべてのアプリケーションを変換します。

   \[/V\]: 変換の詳細情報を表示します。

クロスプラットフォーム設定の場合、他のオペレーティングシステムに対して前述の手順を繰り返し、定義ファイルを1つにマージする必要があります。ファイルをマージするには、**OSVersionNumber** 属性を持つ **Platform** 要素を使用できます。Windows 7では、設定フォルダーは `AppData\Application\Win7\folder` にあります。Windows 10では、`AppData\Application\Win10\folder` にあります。

Windows 7で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">
```

```
        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">

            <Platform>

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

        </Object>

    </Group>

</GroupDefinitions>
```

Windows 10で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <Platform>



                <Folder>



                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>



                    <Recurse/>



                </Folder>



            </Platform>
```

```
        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

マージ後、定義ファイルの内容は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <!-- Assuming that the folder locates differently when in
different platforms -->



            <Platform OSVersionNumber="6.1"> <!-- Win7 -->
```

```
                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

            <Platform OSVersionNumber="10.0"> <!-- Win10 -->

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>
```

```
        </Object>


    </Group>


</GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定の構成については、「クロスプラットフォーム設定の構成」を参照してください。

定義ファイルのアーキテクチャについては、「アプリケーション定義ファイルの構造」を参照してください。

アプリケーションプロファイラーの有効化については、「アプリケーションプロファイラーの有効化」を参照してください。

初期構成

次の図は、このケーススタディにおける環境構成を示しています。

グラフィック(/en-us/profile-management/1912-ltsr/media/upm-cross-platform-settings-case-study-initial-1.png)

Windows 7 マシンは、Citrix XenApp 6.5 で公開されている Office 2007 を使用するように構成されています。

ドメインには、Windows 2008 レベルで Active Directory を実行している Windows 2008 ドメインコントローラーが含まれています。すべてのマシンは 2k8_Farm という OU に属しており、Profile Management 5.0 の .adm ファイルは 2k8_Farm_PO という GPO に追加されています。以下のポリシーが構成されています。

ポリシー	値
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`

ポリシー	値
プロファイルストリーミング	有効
アクティブライトバック	有効

システム環境変数 %ProfVer% を設定するマシンログオンスクリプトが、OU 内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%
Windows 2008 上の XenApp® サーバー	Win2008
Windows 7 デスクトップ	Win7

たとえば、ユーザー john.smith は、Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win7` に、Citrix Virtual Apps サーバー用に `\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win2008` にプロファイルを持っています。デスクトップとサーバーで個別のプロファイルが維持されます。管理者は、ワークステーションとマルチセッションオペレーティングシステム間でプロファイルがローミングする際に問題が発生することを知っており、慎重に対応しています。

フォルダーリダイレクトは、**ユーザーの構成 \> ポリシー \> Windows の設定 \> フォルダーリダイレクト** のグループポリシーを使用して設定されます。

新しいサイトを計画する

ネットワーク管理者は、Windows Server 2012ドメインコントローラーとActive Directory 2012に基づいて、新しい環境のために新しいドメインをセットアップすることを決定しました。最終的には、Citrix Virtual Appsを実行するWindows Server 2012に基づいた新しいCitrix Virtual Appsファームが計画されています。しかし今のところ、新しいドメインはWindows 7 Citrix Virtual Desktops™サイトのみに使用されます。

このサイトは、XenServer®環境でホストされ、Windowsターミナルからアクセスされる共有のWindows 7ベースイメージに基づいています。Office 2007はベースイメージに含まれています。

両方のドメインのユーザーが新しいドメインを使用すると予想されるため、OldDomainとNewDomainの間で双方向の信頼関係が設定されます。両方のドメインは同じADフォレストに属している必要があります。

次の図は、新しいCitrix Virtual Desktopsサイトの構成を示しています。

グラフィック(/en-us/profile-management/1912-ltsr/media/upm-cross-platform-settings-case-study-plan-1.png)

クッキーフォルダーおよびその他のトランザクションフォルダーを管理する

この記事は、Profile Management 3.1以降に適用されます。

フォルダーのミラーリングと古いCookieの削除という2つの手順は関連しています。Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する場合は、両方の手順を使用してください。この手順により、トランザクションの整合性が確保され、Index.datとブラウザのCookieに関連するプロファイルの肥大化も軽減されます。

ミラーリングは、あらゆるトランザクションフォルダー（参照フォルダーとも呼ばれます）に関連する同様の問題の解決に役立つため、より広範囲に適用できます。これらのフォルダーには相互依存ファイルが含まれており、1つのファイルが他のファイルを参照しています。フォルダーをミラーリングすることで、Profile Managementはトランザクションフォルダーとその内容を単一のエンティティとして処理できるため、プロファイルの肥大化を防ぐことができます。

たとえば、ユーザーがインターネットを閲覧しているときにIndex.datがCookieを参照する方法を考えてみましょう。ユーザーがそれぞれ異なるサーバーで2つのInternet Explorerセッションを持ち、各セッションで異なるサイトにアクセスするとします。各サイトからのCookieは、適切なサーバーに追加されます。ユーザーが最初のセッションからログオフすると（または、アクティブなライトバック機能が構成されている場合はセッションの途中で）、2番目のセッションからのCookieが最初のセッションからのCookieを置き換えます。しかし、実際にはそれらはマージされ、Index.dat内のCookieへの参照は古くなります。新しいセッションでのさらなる閲覧は、繰り返しのマージとCookieフォルダーの肥大化につながります。

Cookieフォルダーをミラーリングすることで、この問題は解決されます。この機能により、Profile Managementはユーザーがログオフするたびに、Cookieを最後のセッションからのCookieで上書きします。したがって、Index.datは常に最新の状態に保たれます。

Cookieフォルダーは、次のような状況で肥大化する可能性があります。

- 複数のセッションが関与している場合
- Webサイトが再訪問され、古いCookieが蓄積される場合。

このトピックの2番目の手順は、すべてのプロファイルから古いCookieを削除することで、後者の問題を解決します。

ブラウザの互換性のためにInternet Explorer 10以降のバージョンで必要な設定

構成：ミラーリングの下に次のフォルダーを追加します。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies` (Windows 8.1プラットフォームのCookieの場所)
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies` (Windows 7およびWindows 8プラットフォームのCookieの場所)
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache` (CookieデータベースはWebcache01.datで管理されます)

注:

- 履歴: Profile Management Version 5.1のプロファイルからの閲覧履歴は保持されません。
- Cookie: Profile Management Version 5.1以前のプロファイルを使用して作成されたCookieは保持されます。
- 古いCookie:
  - Profile Management Version 5.1以前では、これらのCookieは処理されず、手動で削除されるまでプロファイルの一部として残ります。
  - Profile Management Version 5.2では、Internet Explorer 10以降を使用する場合、これらのCookieは保護モードと通常モードで処理されます。

Internet Explorer 9以前のCookieおよび閲覧履歴情報は、Internet Explorer 10以降の情報と互換性がありません。異なるバージョンのInternet Explorerがインストールされている複数のシステム間で移動しないことをお勧めします。\[#474200\]

フォルダーをミラーリングするには

この手順は、Cookieを保存するフォルダーだけでなく、すべてのトランザクションフォルダーに適用されます。

ミラーリングするフォルダーポリシーは、フォルダー内の一部のファイルまたは一部のサブフォルダーがミラーリングされるシナリオをサポートしていません。回避策として、**ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**除外リスト – ディレクトリ**ポリシーまたは**除外リスト – ファイル**ポリシーと組み合わせて使用してください。

たとえば、Google Chromeの場合、`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`内のブックマーク関連ファイルまたはサブフォルダーは相互に依存しています。そのため、それらは

単一のエンティティとして同期される必要があります。プロファイルの肥大化を避けるには、次の手順に従います。

1. `AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default`をミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
2. そのフォルダー内のブックマークに関連しないファイルまたはサブフォルダーを除外リストに追加します。

> **注意:**
>
> トランザクションフォルダーをミラーリングすると、「最後の書き込みが優先される」ことを意味する場合があります。複数のセッションで変更されたファイルは、最後の更新によって上書きされます。ユーザープロファイルへの変更が失われる可能性があります。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**で、**ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. ユーザーストアのルートフォルダーを基準として、ミラーリングするフォルダーのリストを追加します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。このポリシーは再帰的に機能するため、サブフォルダーをリストに追加しないでください。たとえば、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`は追加しますが、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies\Low`は追加しません。

ここで**ミラーリングするフォルダー**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

古いCookieを削除するには

Internet Explorer 10以降を使用している場合、この手順は不要です。

1. **プロファイル管理 \> 詳細設定**で、**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。

3. **OK**をクリックします。

ここで**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Index.datの処理は行われません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理するを有効にすると、ログオフ時間が増加します。それにもかかわらず、Cookieフォルダーの整合性を維持するために、サポートされている構成は、次のベストプラクティスが示すように、**ミラーリングするフォルダー**と**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**の両方を設定することです。

Cookieフォルダーを処理するには

1. **プロファイル管理** \> **ファイルシステム** \> **同期**で、**ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. ユーザーストアのルートフォルダーを基準として、ミラーリングするフォルダーのリストを追加します。バージョン1プロファイルにはCookiesフォルダーを、バージョン2プロファイルには`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`を追加します。
4. **プロファイル管理** \> **詳細設定**で、**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーをダブルクリックします。この手順により、Index.datによって参照されている古いCookieが削除されます。
5. 「**Enabled**」を選択します。
6. **OK**をクリックします。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

プロファイルについて

Windowsユーザープロファイルは、ユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。これらの設定は、管理構成に応じて、ユーザーがカスタマイズできます。カスタマイズできる設定の例は次のとおりです。

- 壁紙やスクリーンセーバーなどのデスクトップ設定
- ショートカットとスタートメニューの設定
- Internet Explorerのお気に入りおよびホームページ
- Microsoft Outlookの署名
- プリンタ

一部のユーザー設定とデータは、フォルダーリダイレクトによってリダイレクトできます。ただし、フォルダーリダイレクトが使用されていない場合、これらの設定はユーザープロファイル内に保存されます。

プロファイルの種類

Windowsには、いくつかの種類のプロファイルが含まれています。

プロファイルの種類	保存場所	構成場所	アプリケーション	変更を保存しますか？
ローカル	ローカルデバイス	ローカルデバイス	ローカルデバイスのみ	はい
ローミング	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	はい
強制 (強制ローミング)	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	いいえ
一時的	該当なし	該当なし	ローカルデバイスのみ	いいえ

一時プロファイルは、特定のプロファイルタイプを割り当てられない場合にのみ割り当てられます。強制プロファイルを除き、通常、各ユーザーには個別のプロファイルが存在します。強制プロファイルでは、ユーザーはカスタマイズを保存できません。

Remote Desktop Servicesユーザーの場合、Remote Desktop Servicesセッションとローカルセッションの両方で同じプロファイルがユーザーに割り当てられた場合に発生する可能性のある問題を回避するために、特定のローミングプロファイルまたは強制プロファイルを割り当てることができます。

プロファイルバージョン

Microsoft Windowsユーザープロファイルのバージョンは次のとおりです。

- バージョン 5 – Windows 10
- バージョン 4 – Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2
- バージョン 3 - Windows 8 および Windows Server 2012
- バージョン 2 - Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 に対応
- バージョン 1 – Windows Vista および Windows Server 2008 より前のオペレーティングシステム

Microsoft の Version 1 プロファイルのフォルダー構造 (または名前空間) は、ほとんど互換性があります。たとえば、Windows XP と Windows Server 2003 のフォルダーはほぼ同じです。同様に、Version 2 プロファイルの構造もほとんど互換性があります。

ただし、Version 1 とそれ以降のプロファイルでは名前空間が異なります。このフォルダー構造は、ユーザーおよびアプリケーションデータ用に分離されたユーザー固有のフォルダーを提供するために、後のオペレーティングシステムで変更されました。Version 1 プロファイルは、ルートフォルダーである **Documents and Settings** にデータを保存します。Version 2 プロファイルは、より直感的な名前のフォルダーである **Users** にデータを保存します。たとえば、Windows Vista の `AppData\Local` のフォルダーの内容は、Windows XP の `Documents and Settings\<username>\Local Settings\Application Data` の内容と同じです。

Version 1 とそれ以降のプロファイルの違いの詳細については、Managing Roaming User Data Deployment Guide を参照してください。

インストールとセットアップ

Profile Management のインストールについて

Profile Management の展開は、.msi ファイルと .adm または .admx ファイルのインストールで構成されます。インストールではなくアップグレードについては、アップグレードと移行を参照してください。

ユーザープロファイルを管理する各コンピューターに Profile Management の .msi ファイルをインストールします。通常、配布ツール、イメージングソリューション、またはストリーミングテクノロジーを使用して、コンピューターに .msi ファイルをインストールします。ダウンロードパッケージに含まれるインストーラーのいずれかを使用して、任意のコンピューターに直接インストールすることもできます。サイレントインストールがサポートされています。

.adm または .admx ファイルをグループポリシー (GP) に追加してインストールします。

.msi ファイルと .adm または .admx ファイルをインストールするだけでは、Profile Management は有効になりません。他のすべてのセットアップタスクを実行した後、別途 (手順 Profile Management を有効にするを使用して) 有効にする必要があります。

Citrix® は、すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、すべてのドメインコントローラーの各グループポリシーオブジェクトに同じバージョンの .adm または .admx ファイルを追加することを推奨します。これにより、異なるユーザーストア構造 (異なるバージョンからのもの) が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぎます。

> **注:**
>
> Profile Management 5.x リリースでは、Citrix は同じユーザーストア構造を維持しますが、Microsoft オペレーティングシステムの更新に従ってプロファイルバージョンを更新します。

.msi ファイルをインストールするには

この手順では、単一のコンピューターに Profile Management をインストールします。

1. 管理者権限でコンピューターにログオンします。
2. ダウンロードパッケージから適切なインストーラーを見つけて実行します。インストールウィザードが表示されます。
3. ウィザードの画面の指示に従います。
4. コンピューターを再起動します。

コマンドラインから .msi ファイルをインストールするには

> **重要:**
>
> Profile Management の以前のバージョンでは、提供されている .ini ファイルのレジストリ除外リストから次のキーが削除されました。

- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Group Policy`
- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies`
- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies`

グループポリシーでこれらの除外を使用し、設定する場合 この手順で OVERWRITEINIFILES=yes を設定する場合、3つのキーすべて、またはどれも（サブセットではなく）レジストリ除外リストに追加するようにしてください。（ OVERWRITEINIFILES オプションは、主に .ini ファイルではなくグループポリシーを使用する展開を対象としています。または、このオプションは、構成設定を破棄してデフォルトの .ini ファイルを再インストールできるいずれかの展開タイプを対象としています。）このオプションは、キーを含む .ini ファイル全体で行ったすべての変更を上書きします。Citrix では、このオプションを使用せずにインストーラーを実行し、その後 .ini ファイルのキー設定を手動で削除することをお勧めします。または、このオプションを使用する場合は、説明されているように除外を追加するようにしてください。

1. コマンドラインで、次のコマンドを実行します。

   ```
   msiexec /i <path to the MSI file> /quiet [/norestart]
   [INSTALLDIR=<installation directory>]   [OVERWRITEINIFILES=yes]
   [INSTALLPOLICYINIFILES=no]
   ```

   このコマンドは、ユーザーインターフェイスを表示せずにインストールを実行し、その後再起動を実行します。

   UAC が有効な場合は、管理者権限で msiexec コマンドを実行します（たとえば、管理者として実行したコマンドプロンプトから）。

   /norestart オプションを使用して再起動を抑制できますが、オペレーティングシステムによっては、コンピューターが再起動するまで Profile Management が機能しない場合があります。たとえば、Windows 7 ワークステーションを再起動する必要はありません。

   INSTALLDIR はユーザーが指定できます。

   OVERWRITEINIFILES=yes オプションの詳細については、「Profile Management のアップグレード」を参照してください。

   INSTALLPOLICYINIFILES を no に設定すると、Profile Management .ini ファイルのインストールが防止されます。以前のバージョンのソフトウェアで .ini ファイルを使用しており、その中に含まれる設定をこのバージョンでも引き続き使用したい場合は、インストール後に各設定をグループポリシーエディターの対応する Profile Management ポリシーに手動で転送してください。

   UAC が有効な場合は、管理者権限で msiexec コマンドを実行します（たとえば、管理者として実行したコマンドプロンプトから）。

2. アップグレード中に、一部のファイルが使用中であるというダイアログボックスが表示される場合があります。アプリケーションを閉じるか、閉じずに続行するかのオプションが表示されます。アプリケーションを閉じるオプションを選択してください。

.adm または .admx ファイルを追加するには

グループポリシーに以前のバージョンの Profile Management .adm ファイルが存在しない場合は、この手順を使用します。.adm ファイルをアップグレードする場合は、「Profile Management のアップグレード」を参照してください。

実稼働環境では、グループポリシーを使用して Profile Management を構成します。管理するコンピューターを含む各 OU に対して、グループポリシーオブジェクト（GPO）を作成してリンクし、その後 Profile Management .adm または .admx ファイルを GPO に追加します。

Citrix ユーザープロファイルを構成するには、Windows グループポリシー管理コンソールを実行している任意のコンピューターを使用できます。そのコンピューターはドメインコントローラーである必要はありません。ドメインコントローラーは .adm または .admx ファイルを保存するだけです。

注: Active Directory (AD) の個別のテスト展開が利用できない小規模なパイロットプロジェクトや評価の場合、.adm または .admx ファイルの代わりに、インストールされている .ini ファイルを使用することもできます。テストが成功した後、.ini ファイルから AD 展開に移行する場合は、.adm または .admx ファイルに、以下の最小限のデフォルトに加えて、必要な包含と除外を追加してください。 デフォルトの包含と除外 に記載されているもの。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

    - .admファイルをインポートします。このファイルは、ダウンロードパッケージ内のGPOフォルダーにあります。
    - ダウンロードパッケージ内のGPOフォルダーから.admxファイルを`C:\Windows\PolicyDefinitions`フォルダーにコピーし、.admlファイルを`C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized`フォルダー\>にコピーします。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\>はen-USです。手順5に進みます。

2. Profile Managementの構成に使用するコンピューターで、Active Directoryユーザーとコンピューターを開きます。
3. Profile Managementがインストールされているコンピューターを含むOUを特定します。既存のOU構造でProfile Managementが機能するように構成する方法については、OU内およびOU間でのプロファイルの管理を参照してください。

4. グループポリシー管理で、GPOを作成し、各OUにリンクします。 注：GPOにセキュリティフィルタリングを適用する場合は、認証済みユーザーグループまたはコンピューターグループのいずれかを使用してください。個々のユーザーのみを含むセキュリティグループは使用しないでください。
5. グループポリシーエディターでGPOを編集します。
    a. を展開し、GPOの下にあるを右クリックします。
    b. をクリックし、をクリックします。
    c. 以前にインポートまたはコピーした.admまたは.admxファイルを参照し、をクリックします。
    d. をクリックします。.admまたは.admxファイルの設定を保存するCitrixフォルダーとProfile Managementサブフォルダーが作成されます。

注

Profile Management 5.5では、ADMXポリシーノードがCitrix Componentsの下に配置されます。Profile Management 5.5を構成するには：

- `\[WindowsFolder]\PolicyDefinitions`フォルダー内の既存の.admxファイルを削除し、ctxprofile5.5.0.admxファイルとCitrixBase.admxファイルをそのフォルダーにコピーします。
- `\\[WindowsFolder]\PolicyDefinitions\<localized`フォルダー\>内の既存の.admlファイルを削除し、ctxprofile5.5.0.admlファイルとCitrixBase.admlファイルをそのフォルダーにコピーします。

Profile Management を削除するには

この手順では、単一のコンピューターから Profile Management を削除します。コンピューターの管理者である必要があります。

1. データ損失を避けるため、すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。
2. プログラムと機能のインストール済みプログラムの一覧から、Profile Management を選択し、をクリックします。
3. をクリックします。
4. コンピューターを再起動します。

サイレントモードで Profile Management を削除することもできます。

既知の問題

このリリースには、以下の既知の問題があります。

- Outlook検索インデックスローミング機能の使用を試みると、失敗する場合があります。この問題は、ドメインコンピューターがVHDXファイルへのアクセス権を持っていない場合に発生します。この問題を回避するには、VHDXファイルが保存されているフォルダーに対して、Domain Computersに手動でフルコントロールを付与します。
- Windows 10 20H2デスクトップで、ユーザーストアパスを**!CTX_OSNAME!**変数で構成すると、Profile Managementがユーザーストア上に誤った情報を含むフォルダー名を作成する場合があります。以下の現象が観察される可能性があります。
  - バージョンCU3の場合、新しいプロファイルにはオペレーティングシステムとしてWin10RS6が含まれる場合があります。
  - バージョンCU4の場合、新しいプロファイルにはオペレーティングシステムとしてWin10_2009が含まれる場合があります。
- Profile Management 1912で作成されたユーザープロファイルを使用している場合、以下の問題が発生する可能性があります。
  - ファイルの種類関連付け (FTA) のローミングが失敗します。
  - スタートメニューから電卓、付箋、および類似のアプリを開こうとすると、失敗する場合があります。

  この問題は、Profile Management 1912が**HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft**レジストリキーに対するALL APPLICATION PACKAGESのアクセス許可の継承を無効にするために発生します。その結果、ALL APPLICATION PACKAGESグループは、**HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft**のすべての子キー（例: **HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows**）に対するアクセス許可を失います。

  回避策として、以下を実行します。

  a. 新規ユーザーの場合、プロファイルを作成するためのプライベートパッケージについてCitrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

  b. 既存ユーザーの場合、**HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft**レジストリキーに対するALL APPLICATION PACKAGESのアクセス許可の継承を手動で有効にします。

a. ターゲットユーザーアカウントでVDAにログオンします。
b. レジストリエディターを開きます。
c. **HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft** に移動します。
d. **Microsoft** キーを右クリックし、**Permissions** -> **Advanced** を選択して、**Enable inheritance** を選択します。
e. **Apply** をクリックし、次に **OK** をクリックします。

- VDA のインストール後にマシンの再起動を求められます。ただし、マシンの再起動後に Profile Management サービスが開始しない場合があります。この問題が発生すると、システムイベントログにイベント 7000 に関する次のメッセージが表示されます。「The ctxProfile service failed to start due to the following error: The service did not respond to the start or control request in a timely fashion.」（ctxProfile サービスは、次のエラーが原因で開始できませんでした: サービスは、開始または制御要求に時間内に応答しませんでした。）回避策として、次のレジストリキーの値をより大きな数値（例: 300,000）に変更します。
  - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\
  - 名前: ServicesPipeTimeout
  - 種類: REG_DWORD
  - 値: 300000
- スタートメニューの一部が表示されない場合があります。この問題を回避するには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

デプロイの計画

Profile Managementのデプロイを計画するには、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。自動構成機能は、Citrix Virtual Desktopsのデプロイにおけるこの意思決定の一部を簡素化します。あらゆるデプロイでこの重要なタスクを実行するためのガイドとして、「構成の決定」を参照してください。

構成を決定し、それをレビューおよびテストした後、一般的なデプロイは次の要素で構成されます。

1. ユーザー ストアの作成
2. Profile Management のインストール
3. Profile Management の有効化

.iniファイルを使用したパイロットスタディの計画

以下の情報は、パイロットスタディまたは評価中にProfile Managementの.iniファイルを使用する際に役立つことを目的としています。

重要：評価目的で.iniファイル（UPMPolicyDefaults_all.ini）を使用する予定がある場合は、本番環境でグループポリシー（GP）の使用に切り替える前に、ファイルの名前を変更してください。たとえば、ファイルの名前をUPMPolicyDefaults_all_old.iniに変更します。ファイルの名前を変更することで、本番設定のみが適用され、評価中に指定した設定が使用されないことを確実にできます。

ファイルの名前が変更されていない場合、Profile Managementはグループポリシーで構成されていない設定がないかファイルを調べ、見つかった非デフォルト設定を適用します。したがって、不要な設定が導入されるリスクを排除するには、本番環境で使用したいすべての設定を.iniファイルではなくグループポリシーを使用して構成してください。

.iniファイルには、.admファイルおよび.admxファイルと同じポリシーが含まれていますが、ポリシーの名前は異なります。GPでの名前に慣れており、.iniファイルを使用したパイロットスタディを計画している場合は、「Profile Managementポリシー」の表を使用して名前を比較してください。

.iniファイルのデプロイの詳細については、「Profile Managementのアップグレード」および「ローカルGPOを使用したProfile Managementのテスト」を参照してください。

セキュリティ

このトピックでは、Profile Management を保護するための推奨されるベストプラクティスについて説明します。一般に、ユーザー ストアが配置されているサーバーを保護して、Citrix® ユーザー プロファイル データへの不要なアクセスを防ぎます。

安全なユーザー ストアの作成に関する推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「移動ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で提供されています。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際には、Citrix ユーザー プロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めます。

アクセス許可

Citrix は、ユーザー ストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアに対して、以下のアクセス許可をテストし、推奨しています。

- 共有アクセス許可: ユーザー ストアのルート フォルダーに対するフル コントロール

- Microsoft が現在推奨する以下の NTFS アクセス許可:

グループまたはユーザー名	アクセス許可	適用先
作成者/所有者	フル コントロール	サブフォルダーとファイルのみ
Profile Management の制御下にあるアカウントのグループ	フォルダーの内容の一覧表示 / データ読み取り、フォルダーの作成 / データ追加	このフォルダーのみ
ローカルシステム	フルコントロール	このフォルダー、サブフォルダー、およびファイル

継承が無効になっていない場合、これらの権限により、アカウントはストアにアクセスできます。また、アカウントはユーザープロファイル用のサブフォルダーを作成し、必要な読み取りおよび書き込み操作を実行できます。

この最小限の要件を超えて、サブフォルダーとファイルのみを完全に制御できる管理者グループを作成することで、管理を簡素化することもできます。そうすれば、プロファイルの削除（一般的なトラブルシューティングタスク）がそのグループのメンバーにとって容易になります。

テンプレートプロファイルを使用する場合、ユーザーはそのプロファイルへの読み取りアクセス権が必要です。

アクセス制御リスト (ACL)

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、定義ファイルを保存するフォルダーにACLを次のように設定します。認証済みユーザーには読み取りアクセス権、管理者には読み取り/書き込みアクセス権。

Windowsローミングプロファイルは、ネットワーク上のプロファイルデータを含むフォルダーから管理者権限を自動的に削除します。Profile Managementは、ユーザーストア内のフォルダーからこれらの権限を自動的に削除しません。組織のセキュリティポリシーによっては、手動で削除できます。

注：アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのACLを変更しても、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアにレプリケートしません。これはWindowsローミングプロファイルの動作と一致しています。

プロファイルストリーミングとエンタープライズウイルス対策製品

Citrix Profile Managementのストリーム配信ユーザープロファイル機能は、高度なNTFS機能を使用して、ユーザープロファイルから欠落しているファイルの存在をシミュレートします。この点において、この機能は階層型ストレージマネージャー (HSM) と呼ばれる製品群に似ています。HSMは通常、磁気テープや書き換え可能な光ストレージなどの低速大容量ストレージデバイスに、あまり使用されないファイルをアーカイブするために使用されます。そのようなファイルが必要な場合、HSMドライバーは最初のファイル要求を傍受し、要求を行っているプロセスを一時停止し、アーカイブストレージからファイルをフェッチします。そして、ファイル要求の続行を許可します。この類似性を考慮すると、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーであるupmjit.sysは、実際にはHSMドライバーとして定義されています。

このような環境では、ウイルス対策製品がHSMドライバーを認識するように構成する必要があります。ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーも例外ではありません。最も高度な脅威から防御するために、ウイルス対策製品はデバイスドライバーレベルで一部の機能を実行する必要があります。そして、HSMドライバーと同様に、ファイル要求を傍受し、元のプロセスを一時停止し、ファイルをスキャンして再開するという方法で動作します。

ウイルス対策プログラムを誤って構成し、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーのようなHSMを中断させ、ユーザーストアからファイルをフェッチできないようにして、ログオンがハングアップする原因となることは比較的容易です。

幸いなことに、エンタープライズ向けウイルス対策製品は、HSMなどの高度なストレージ製品の可能性を念頭に置いて作成されています。そして、HSMがその作業を完了するまでスキャンを遅延するように構成できます。家庭用ウイルス対策製品はこの点において洗練されていません。そのため、家庭用およびSoHo（小規模オフィス/ホームオフィス）ウイルス対策製品の使用は、ストリーミングされたユーザープロファイルではサポートされていません。

ストリーミングされたユーザープロファイルで使用するためにウイルス対策製品を構成するには、以下の製品機能のいずれかを探してください。機能名はあくまで目安です。

- **信頼済みプロセスリスト**。ウイルス対策製品にHSMを識別させ、HSMがファイル取得プロセスを完了できるようにします。ウイルス対策製品は、信頼されていないプロセスによってファイルが最初にアクセスされたときにファイルをスキャンします。
- **オープンまたはステータスチェック操作時にスキャンしない**。データがアクセスされたとき（たとえば、ファイルが実行または作成されたとき）にのみファイルをスキャンするようにウイルス対策製品を構成します。その他の種類のファイルアクセス（たとえば、ファイルが開かれたときやそのステータスがチェックされたとき）は、ウイルス対策製品によって無視されます。HSMは通常、ファイルオープンおよびファイルステータスチェック操作に応答してアク

ティブ化されるため、これらの操作でのウイルススキャンを無効にすると、潜在的な競合が解消されます。

Citrixは、主要なエンタープライズ向けウイルス対策製品のバージョンでストリーミングされたユーザープロファイルをテストし、Profile Managementとの互換性を確保しています。これらのバージョンには以下が含まれます。

- マカフィー ウイルススキャン エンタープライズ 8.7
- シマンテック エンドポイント プロテクション 11.0
- トレンドマイクロ オフィススキャン 10

これらの製品の以前のバージョンはテストされていません。

他のベンダーのエンタープライズ向けウイルス対策製品を使用している場合は、それがHSM対応であることを確認してください。スキャンを実行する前にHSM操作を完了できるように構成できます。

一部のウイルス対策製品では、管理者が読み取り時スキャンまたは書き込み時スキャンを選択できます。この選択は、パフォーマンスとセキュリティのバランスを取るものです。ストリーミングされたユーザープロファイル機能は、この選択の影響を受けません。

ストリーミングおよびウイルス対策展開におけるProfile Managementのトラブルシューティング

ログオンがハングしたり、時間がかかったりするなどの問題が発生した場合、Profile Managementとエンタープライズ向けウイルス対策製品との間に構成ミスがある可能性があります。以下の手順をこの順序で試してください。

1. Profile Managementの最新バージョンを使用していることを確認してください。問題はすでに発見され、修正されている可能性があります。
2. Profile Managementサービス（UserProfileManager.exe）を、エンタープライズ向けウイルス対策製品の信頼済みプロセスリストに追加します。
3. HSM操作（オープン、作成、復元、ステータスチェックなど）でのウイルスチェックを無効にします。読み取りまたは書き込み操作でのみウイルスチェックを実行してください。
4. その他の高度なウイルスチェック機能を無効にします。たとえば、アンチウイルス製品は、実際のファイルタイプを特定するために、ファイルの最初の数ブロックをクイックスキャンする場合があります。これらのチェックは、ファイルの内容を宣言されたファイルタイプと照合しますが、HSM操作を妨害する可能性があります。

5. 少なくともプロファイルがローカルドライブに保存されているフォルダーについては、Windowsの検索インデックス作成サービスを無効にします。このサービスは不要なHSM取得を引き起こし、ストリーミングされたユーザープロファイルとエンタープライズアンチウイルス製品との間で競合を誘発することが確認されています。

これらの手順のいずれも機能しない場合は、ストリーミングされたユーザープロファイルを無効にします（プロファイルストリーミング設定を無効にすることで）。それで機能する場合は、その機能を再度有効にし、エンタープライズアンチウイルス製品を無効にしてください。それでも機能する場合は、機能しないケースのProfile Management診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください。彼らはエンタープライズアンチウイルス製品の正確なバージョンを知る必要があります。

To continue using Profile Management, do not forget to re-enable the enterprise antivirus and turn off streamed user profiles. Other features of Profile Management continue to function in this configuration. Only the streaming of profiles is disabled.

システム要件

ソフトウェア要件

Profile Managementを実行するシステムは、以下のいずれかのオペレーティングシステムに基づいている必要があります。

- **デスクトップ** - Microsoft Windows 10、Windows 8.1、およびWindows 7 Service Pack 1。

  Citrix Virtual Desktops™環境では、Windowsストアアプリケーション（UWPアプリとも呼ばれる）がサポートされています。
- **サーバー** - Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012、および Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 の Standard および Datacenter エディション。

拡張保護モード（EPM）が有効な場合、Windows 7以降ではMicrosoft Internet Explorer 10以降のCookieはサポートされません。EPMが有効な場合、Profile ManagementはCookieを処理または操作しません。

すべてのユーザーは、プロファイルが一元的に保存されるネットワークフォルダーであるユーザーストアにアクセスできる必要があります。または、必要に応じて、プロファイルをユーザーのホームドライブに保存することもできます。詳細については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

Profile ManagementがCitrix Studioに統合されているXenDesktop 7を使用しない限り、構成にはActive Directory（AD）グループポリシーオブジェクト（GPO）が必要です。Windows Server 2008およびWindows Server 2012ネイティブモードのADフォレスト機能レベルとドメイン機能レベルがサポートされています。詳細については、「Profile Managementでのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。または、構成設定にローカルの.iniファイルを使用することもできますが、一般的に.iniファイルはテスト目的でのみ使用されます。.iniファイルの設定は、GPOで構成されていない設定、つまり「未構成」状態のままになっているグループポリシー設定に適用されます。

Profile Managementで使用しているCitrix製品またはコンポーネントで短いファイル名（8.3形式のファイル名とも呼ばれる）が必須である場合、Profile Managementの展開で短いファイル名のサポートを無効にしないでください。無効にすると、ユーザーストアとの間でファイルをコピーする際に問題が発生する可能性があります。

Profile Managementサービスを実行しているコンピューターでは、プロファイルをドライブ文字でマウントされた単一のディスクに保存します。ユーザープロファイルを保存するために使用されるフォルダーにディスクがマウントされている場合（典型的な例は`C:\Users`）、サービスからマスクされ、処理されない可能性があります。

Citrix®製品の互換性

Profile Managementは、以下のCitrix製品で使用できます。

- シトリックス バーチャルデスクトップ
- シトリックス バーチャルアプリ™
- VDI-イン・ア・ボックス

Profile ManagementとCitrix Virtual Apps and Desktopsの互換性マトリックスについては、「Citrix Profile Managementの追加ライフサイクル情報」を参照してください。

このCurrent Release (CR)をLong Term Service (LTSR)環境で使用する方法やその他のFAQについては、Knowledge Centerの記事を参照してください。

ダウンロード

Profile Managementをダウンロードするには

1. Citrixダウンロードページに移動します。
2. マイアカウントにログオンします。アカウントは、展開したCitrix製品のライセンスエンタイトルメントに関連付けられている必要があります。アカウントがライセンスエンタイトルメントに関連付けられていない場合は、Citrixカスタマーサービスにお問い合わせください。

3. で、製品を選択し、ダウンロードの種類として を選択します。
4. Profile Managementの最新バージョンをダウンロードします。

診断機能

Citrix Diagnostic Facilityを使用してトレースログをキャプチャする前に、監視するプロファイルを持つデバイス、仮想デスクトップ、またはCitrixサーバーで使用されているCitrix製品またはコンポーネントで利用可能であることを確認してください。

アプリケーションストリーミング

Citrix Virtual Appsを使用してアプリケーションをユーザーデバイスにストリーミングする場合、Citrixオフラインプラグイン（旧称XenApp Plug-in for Streamed Apps）1.3.1以降をユーザーデバイスにインストールします。このプラグインのバージョン1.2では、ストリーミングされたアプリケーション設定のユーザーごとのディスクストレージの場所が変更され、ログオフ時にユーザー設定が失われる結果となりました。バージョン1.3.1以降では、これらの設定は%LOCALAPPDATA%に保存され、データ損失なしにデバイス間でユーザーに追従します。このプラグインの新しいバージョンでは、Profile Managementの構成は不要です。

サポートされていませんが、XenApp Plug-in for Streamed Apps 1.2を使用する必要がある場合は、データ損失の問題に対する回避策として、Knowledge Centerの記事CTX120006を参照してください。

クロスプラットフォーム設定

このリリースでクロスプラットフォーム設定機能を使用するには、Profile Management Serviceを実行しているすべてのコンピューターにMicrosoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack 1以降をインストールします。このコンポーネントはMicrosoft .NET Framework 3.5の一部であり、定義ファイルを処理するために必要です。

この機能は、サポートされているオペレーティングシステムとアプリケーションのセットでのみ使用してください。詳細については、クロスプラットフォーム設定でサポートされているオペレーティングシステムとアプリケーションを参照してください。

既存のプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する

以下のプロファイルタイプからCitrixユーザープロファイルへの移行がサポートされています。

- Windowsローミングプロファイル
- 以下のいずれかのオペレーティングシステムに基づくローカルプロファイル:
    - ウィンドウズ 10

  - ウィンドウズ 8
  - ウィンドウズ 7
  - ウィンドウズ Vista
  - ウィンドウズ XP
  - Windows サーバー 2016
  - ウィンドウズ サーバー 2012 R2
  - Windows サーバー 2012
  - Windows サーバー 2008 R2
  - ウィンドウズ サーバー 2008
  - ウィンドウズ サーバー 2003
- User Profile Manager 2.0 で作成された Citrix ユーザープロファイル

以下のプロファイルタイプから Citrix ユーザープロファイルへの移行はサポートされていません。

- Microsoft の強制プロファイル。 ヒント: Profile Management のテンプレートプロファイル機能を使用して、Microsoft の強制プロファイルを Citrix の強制プロファイルとして構成できます。Citrix の強制プロファイルはすべてのログオンで使用され、ユーザーの変更が保存されないことを除けば、通常の Citrix ユーザープロファイルとまったく同じように機能します。詳しくは、次を参照してください。 テンプレートまたは強制プロファイルを指定する
- Citrix の強制プロファイル。
- User Profile Manager のテクニカルプレビューリリースまたはベータリリースで作成された Citrix ユーザープロファイル。
- サードパーティプロファイル（sepagoPROFILE を含む）。

32ビットのCitrixユーザープロファイルから64ビットのプロファイルにアップグレードすることはできません。

トラブルシューティング

このセクションでは、Profile Management のトラブルシューティング方法に関するガイダンスを提供します。

一般的なトラブルシューティングのワークフローは次のとおりです。

1. Profile Management の設定を確認する(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/self-troubleshoot.html)。

2. Profile Management のログファイルを確認する(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/log-file-checklist.html)。
3. Profile Management によってログに記録されたWindowsイベントを確認する(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/events.html)。
4. 一般的な問題をトラブルシューティングする(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/common-issues.html)。
5. 高度なトラブルシューティングを実行する(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/advanced-checklist.html)。
6. 前述の手順を試しても問題が解決しない場合は、可能な限り多くの診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/troubleshoot/collect-diagnostics.html)。

アップグレードと移行

このセクションでは、Profile Managementソフトウェアをアップグレードする手順と、既存のWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行するための情報について説明します。たとえば、これらの手順を使用すると、バージョン3.xからバージョン5.xに簡単にアップグレードできます。

アップグレードする前に、アップグレード元およびアップグレード先のリリースで利用可能なProfile Managementの機能と設定を理解してください。この情報を確認するには、(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/policies/settings.html)を参照してください。.iniファイルからグループポリシーへのアップグレードを容易にするために、そのトピックでは.iniファイルの設定名を.admファイルおよび.admxファイルの設定名にマッピングしています。

アップグレード中にProfile Managementを構成しないでください（グループポリシーまたは.iniファイルのいずれでも）。まず展開をアップグレードし、次に必要に応じて設定を構成することで、これら2つのタスクを分離してください。理想的には、(/ja-jp/profile-management/1912-ltsr/plan/configuration.html)の質問に答えることで設定を構成します。

ヒント: Profile Management 2.1.1以降の展開は、最新バージョンにアップグレードすることでホットフィックスできます。アップグレード後、必要に応じて、それ以降の機能を有効にできます。

混在展開

異なるバージョンのProfile Managementが共存する展開では、次の操作を行います。

- 混在展開が存在する時間を最小限に抑える

- すべてのドメインコントローラー上の各グループポリシーオブジェクトに最新バージョンの.admまたは.admxファイルを追加し、すべての新機能が無効になっていることを確認し、新しいポリシーが伝播する時間を確保する
- いずれかのポリシーを有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンのProfile Managementにアップグレードする

バージョン5.xと3.2を含む混在展開はサポートされています。ただし、このような展開は、以前のバージョンから新しいバージョンへの移行中に存在する一時的な状態として扱ってください。

重要: バージョン5.xとバージョン2.1.1以前のバージョン（Citrix Technical Previewまたはベータリリースを含む）が混在する展開はサポートされていません。ただし、アップグレードできず、これらのバージョンが展開で共存する必要がある場合は、このトピックの残りの部分が役立ちます。

Profile Management 2.1.1以前を含む混在展開

このトピックの残りの部分では、Profile Management 2.1.1以前とProfile Management 3.xまたは5.xの共存に関する情報が含まれています。あるバージョンから別のバージョンへ移行する方法について説明します。このトピックでは、これらのバージョンを簡略化して「バージョン2」および「バージョン5」と表記します。

各バージョンを個別のOUに分離し、各バージョンを実行しているコンピューター用に個別のユーザーストアを維持します。あるいは、単一のユーザーストアが両方のバージョンを実行しているコンピューターにサービスを提供している場合は、すべてのコンピューターがバージョン5にアップグレードされるまで、すべてのバージョン5の設定が無効になっていることを確認してください。「混在」ユーザーストアでバージョン4の設定を有効にすると、ユーザーはバージョン2を実行しているコンピューターに引き続きログオンできます。しかし、一時的なWindowsユーザープロファイル（ネットワーク上のCitrix®ユーザープロファイルではない）を受け取り、そのプロファイルに対して行った変更は保存されません。混在展開は一時的なものと見なし、アップグレードを完了する前にその存在期間を最小限に抑える必要があります。

別のOUとユーザー ストアを使用すると不便な場合があります。これらの制約を回避するには、次の2つの戦略のいずれかを使用できます。Profile Managementの適切なバージョンで、設定を使用して各グループを構成します。戦略2は戦略1よりも手間がかかります。前者の場合、バージョン5の処理済みユーザーグループを更新し続けることになります。また、2つのアプリケーションとデスクトップのセットを維持します（ただし、Citrix Virtual Apps™からアプリケーション定義をエクスポートすることで自動化できます）。利点は、移行に時間をかけることができる点です。

注：以下の戦略の代替として、Windows Server 2008 Active Directoryでは、WMIフィルタリングを使用してOU内のコンピューターのサブセットにGPOを適用し、どのバージョンのProfile

Managementがインストールされているかを判断できます。これにより、適用されるポリシーをバージョンに合わせて自動的に調整できます。

戦略1：一括移行

このシナリオでは、ある程度のダウンタイムが許容されることを前提としています。すべてのコンピューターが同時に移行されます。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. バージョン5のすべての設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの**無効**に依存しないでください。
3. すべてのコンピューターをバージョン2からバージョン5にアップグレードし始めます。これは通常のメンテナンスおよび更新スケジュールに合わせてください。1つの例外を除いて、バージョン5は、バージョン5のいずれかの設定を有効にするまでバージョン2として動作します。その例外は次のとおりです。これはまれですが、このアップグレード手順が長期間にわたって段階的に行われる場合に発生する可能性が高くなります。ユーザーが複数のサーバーからCitrixユーザープロファイルにアクセスすると、複数のバージョン4セッションが作成されます。たとえば、最初にワークステーションを使用してあるサーバー上の仮想デスクトップにアクセスし、次にラップトップを使用して別のサーバー上の公開アプリケーションにアクセスします。Profile Managementは、2番目のラップトップセッションに保留領域を使用する必要があります。この時点で、OU全体がバージョン5の展開として扱われます（ただし、バージョン5の機能は何も構成されていません）。そして、PmCompatibility.iniがこの変更を反映するように更新されます。
4. オプションで、バージョン5の処理済みユーザーグループに、小規模なパイロットグループのメンバーのみを含めるように設定します。ADグループポリシーの変更がネットワーク全体に伝播するのを待ちます（たとえば、週末にかけて）。この変更が行われている間、他のユーザーのアクセスを妨げる必要はありません。パイロットグループのプロファイルをバックアップします。その後、パイロットグループにProfile Managementをテストさせます。
5. パイロットグループの結果に満足したら、他のユーザーのプロファイルをバックアップしていることを確認します。
6. 次のスケジュールされたメンテナンス期間を使用して、残りのユーザーをバージョン5の処理済みユーザーグループに追加します。ADグループポリシーの変更が伝播するのに十分な時間を確保し、残りのユーザーがログオンできるようにします。

戦略2：段階的移行

このシナリオでは、すべてのマシンまたはユーザーを一度に新しいバージョンに移行できないため、バッチで移行するユーザーのサブセットを選択することを前提としています。複数のデータセンターや地理的に分散したユーザーがいる展開に適しています。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの「無効」に依存しないでください。
3. いくつかのコンピューター（最初のバッチ）をバージョン5にアップグレードします。または、新しいコンピューターにバージョン5をインストールします。デフォルトでは、バージョン5で処理されたユーザーグループには空のグループが含まれているため、どのユーザーもバージョン5ユーザーとして処理されません。フェーズ移行でコンピューターをアップグレードする場合にも適用される可能性がある、戦略1で説明されている例外に注意してください。
4. バージョン5コンピューターから新しいアプリケーション（Citrix Virtual Appsを使用）または仮想デスクトップ（Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktops™を使用）を公開します。これらのアプリケーションとデスクトップは、名前を除いて、以前にバージョン2コンピューターから公開されたものと同一です。これらの名前は、バージョン5ユーザーが使用するためのものであることを示します。
5. このバッチで選択されたユーザーは、アプリケーションまたはデスクトップにログオンします（たとえば、Web Interfaceを使用）。彼らは新しいアプリケーションを選択します。（ユーザー名またはグループメンバーシップに基づいて、Web Interfaceを使用してこの手順を強制します）。その結果、彼らのセッションはバージョン4コンピューターで実行されますが、バージョン2の設定で処理されます。
6. すべてのユーザープロファイルをバックアップしたことを確認してください。
7. ユーザーをバージョン2で処理されたユーザーグループからバージョン4グループに移動します。ADグループポリシーの変更がバージョン5コンピューターに伝播するのを待ちます。次回ログオンするとき、ユーザーのセッションはバージョン5の設定で処理されます。
8. 次のバッチのコンピューターをアップグレードし、次のバッチのユーザーを移行します。

ユーザープロファイルを移行する

この記事では、Citrix®ユーザープロファイルをWindowsローミングプロファイルに変換する手順について説明します。また、Profile Managementが処理できるように、パーソナルvDiskからCitrixユーザープロファイルを削除する方法についても説明します。

移行戦略の詳細については、「アップグレードと移行」を参照してください。

ローミングプロファイルに移行するには

CitrixユーザープロファイルをWindowsローミングプロファイルにいつでも移行できます。プロファイルデータを、ローミングプロファイルが保存されているネットワークの場所に移動します。移行後、Profile Managementはユーザーログオンやアプリケーション設定の処理に関与しません。

1. すべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. ソフトウェアが管理するすべてのコンピューターからProfile Management Serviceを削除します。
3. ユーザーストアで、`\UPM_Profile` の内容をローミングプロファイルの場所に移動します。クロスプラットフォーム設定ストアの内容を移動する必要はありません。
4. （バージョン1プロファイルのみ）`\UPM_Profile` のすべてのサブフォルダーから _upm_var サフィックスを削除します。 注：スクリプトを使用すると、この手順が簡素化される場合があります。

パーソナルvDiskから移行するには

Citrix Virtual Desktops™のパーソナルvDisk機能を使用している場合、デフォルトでは、ユーザープロファイルは仮想デスクトップのC:ドライブではなく、パーソナルvDiskのP:ドライブに保存されます。 Citrix Profile Managementでプロファイルを処理する場合は、Virtual Delivery Agentのインストール時にこのデフォルトを調整します。これを行うには、新しいカタログに使用されるマスターイメージのレジストリを変更します。このシナリオでは、カタログが新しいため、ユーザーはログオンしておらず、P:ドライブにプロファイルは保存されていません。

重要： 既存のカタログでパーソナルvDiskを使用しているマシンでProfile Managementを有効にすると、別のシナリオが発生します。カタログはすでに使用されているため、ログオンが行われ、プロファイルがP:ドライブに存在します。レジストリを変更した後も、プロファイルはそこに残ります。したがって、デフォルトを異なる方法で調整してください。

Profile Managementが有効なときにP:ドライブにプロファイルが存在することを示す問題には、ユーザーが壁紙をリセットする必要がある、アプリケーションを再構成する必要がある、または一時プロファイルを受け取る、といったものがあります。

この代替シナリオでデフォルトを調整するには、以下の手順に従ってください。

1. プロファイルを移行する仮想マシンのメンテナンスダウンタイムをスケジュールします。

2. スタートアップスクリプトを作成（または既存のスクリプトを編集）します。Microsoft の Windows XP 用プロファイル削除ツールである Delprof.exe、または Sepago のそれ以降のオペレーティングシステム用の同様のツールである Delprof2.exe を実行するコマンドを含めます。実行コマンドの後にシャットダウンコマンドを続けます。

   ```
   `\<share` name>\delprof.exe /q /i

   shutdown /s /t 0
   ```

   Delprof.exe は Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。このツールについては、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5405>` を参照してください。

3. マスターイメージで、次のレジストリ設定を 1 から 0 に変更します。

   注意： レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrix は、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決できることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

   `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\personal vDisk\Config\EnableUserProfileRedirection`

4. マスターイメージのインベントリを更新します。
5. 予定されたダウンタイム中に、マスターイメージを仮想マシンに配布します。仮想マシンが再起動することを確認します。その時点でスクリプトが実行され、P: ドライブからプロファイルが削除され、マシンがシャットダウンされます。
6. すべてのマシンがシャットダウンされたら、スタートアップスクリプト（または既存のスクリプトに追加した行）を削除します。
7. すべてのマシンを起動するか、ユーザーがログオンできるようにします。この時点から、プロファイルは仮想デスクトップの C: ドライブに保存されます。

注：Personal vDisk がプロファイルを管理するように逆方向にプロファイルを移行するには、これらの手順に従ってください。ただし、EnableUserProfileRedirection のレジストリ設定を 0 から 1 に変更します。この変更により、プロファイルが Personal vDisk の P: ドライブにロードされます。

新機能

累積更新プログラム 10 (CU10) は、Profile Management 1912 LTSR の最新リリースです。CU10 では、Profile Management の 1912 CU9 リリースと比較して、2つの修正が追加されています。

Profile Managementのドキュメント履歴

次の表に、Profile Management 1912のドキュメントに対する重要な変更点を示します。これらの更新に関する通知を受け取るには、RSSフィードを購読してください。

日付	変更	説明
30 Apr 2024	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム9のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
11 Sep 2023	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム8のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
15 Mar 2023	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム7のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
31 Oct 2022	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム6のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
09 Mar 2022	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム5のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
03 Nov 2021	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム4のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
12 May 2021	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム3のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
19 Nov 2020	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム2のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。

プロファイル管理 1912 LTSR

日付	変更	説明
07 May 2020	Profile Management 1912 LTSR累積更新プログラム1のリリース	詳しくは、「新機能」を参照してください。
18 Dec 2019	Profile Management 1912の初期リリース	Profile Management 1912の初期リリース。詳しくは、「新機能」を参照してください。